植附遺跡第5次発掘調査報告書

1999

財団法人 東大阪市文化財協会

東大阪市は、古代より栄えた河内の一画を占めています。市内には、旧石器時代から中世にいたる各時代の遺跡が現在約130箇所が確認されています。なかでも、市域の生駒山の山麓には、今回報告します植附遺跡をはじめ鬼虎川遺跡・鬼塚遺跡・西ノ辻遺跡など全国的にも著名な弥生時代の大集落が存在し、原始時代の繁栄の様子を今に示しています。

また弥生時代だけではなく、近畿地方では数少ない縄文時代早期の遺物が多量に出土した神並遺跡をはじめ縄文時代の遺跡も数多く知られています。もとより古墳時代や後の歴史時代の遺跡も数多く存在しています。本市が、埋蔵文化財の宝庫と言われる所以です。

かつて本市は、商都大阪の近郊農村地帯でありましたが、現在は市域の大半が住宅・工場などに変わり水田地帯はわずかになり、市街化が進んでおります。特に、近鉄東大阪線開通後は、比較的市街化の進捗が遅れていた北部地域においても開発が活発になってきております。

今回報告する植附遺跡第5次調査は、共同住宅建設工事により、遺跡が破壊されるのに伴い実施したものです。

植附遺跡は、西ノ辻遺跡の北に隣接した遺跡ですが、あまり調査が進んでおらずその実態は、まだ不明な点が少なくありません。

この度の調査では、弥生時代および古墳時代に関する新たな発見が多くありました。

本書が、原始・古代の社会を解明するうえでお役に立てれば幸いであります。また地域の文化財の学習資料となりますことを願っております。

最後になりましたが、調査および整理を実施するうえに、多大なご協力をいただきました山村安治郎氏および成和建設株式会社の方々に心より謝意を表します。

財団法人 東大阪市文化財協会 理事長 日吉 亘

例 言

- 1. 本書は東大阪市中石切町 3 丁目2653-1において計画された共同住宅建設に伴う植附遺跡第 5 次調査の発掘調査報告書である。
- 2. 本調査は財団法人東大阪市文化財協会が東大阪市教育委員会の指導の下に、山村安治郎氏の委託を受けて実施した
- 3. 主要な現地調査は、平成4年8月5日から平成4年11月16日まで実施した。調査面積は約571 m²である。
- 4. 発掘調査は福永信雄を担当調査員として実施した。
- 5. 本書の執筆と編集は福永が行なった。
- 6. 遺構写真は福永が撮影し、遺物写真撮影はG・Fプロに委託した。また、国家座標に基づく 基準杭の設置は、内外エンジニアリング株式会社に委託した。
- 7. 現地調査実施にあたっては、山村安治郎氏・成和建設株式会社をはじめとする多くのの方々から多大なご協力をいただいた。記して謝意を表する。
- 8. 遺構実測図は調査に参加した全員で作成し、整図は百合藤厚子・津田美智子が担当した。遺物実測図及び整図は津田・石割珠貴を中心に行なった。なお、石器の観察にあたっては粟田 薫氏の協力を得た。本書掲載の遺物の挿図番号は、図版番号と一致させている。
- 9. 遺構実測図の水準高はT.P値を用いた。
- 10. 調査および本書作成にあたって、下記の方々から多くの教示を得た。心より謝意を表する。 (敬称省略・順不同)

西谷真治・金関恕・深澤芳樹・中村友博・泉拓良・家根祥多・秋山浩三・濱田延充・三好孝 一・桑原久男

11. 現地調査および整理作業には、下記の方々の参加を得た。 浅井総一郎・兼子隆史・川田学・山田浩成・熊取谷貴司・櫻井真弓

本 文 目 次

Ι	調査概要
	1.調査に至る経過
	2.従前の調査······ 1
	3.調査日誌
II	地理的歴史的環境
	1.地理的環境 · · · · · · 5
	2.歷史的環境 ······ 5
II	
ΙV	7 遺 構13
	1.弥生時代前期の遺構13
	2.弥生時代中期の遺構16
	3.古墳時代中期末から後期の遺構18
	4.古墳時代後期末から飛鳥時代の遺構22
	5.鎌倉時代後期の遺構23
	6.中世末から近代の遺構23
	7.縄文時代の海食崖23
V	
	1.弥生時代の遺物25
	1)弥生時代前期遺構出土の土器25
	2) 包含層出土の弥生時代前期土器・土製品34
	3) 弥生時代中期の土器34
	4) 弥生時代の石器35
	2.古墳時代の遺物41
	1)小型低方墳出土遺物41
	1 号墳出土遺物41
	2 号墳出土遺物41
	4 号墳出土遺物41
	5 号墳出土遺物44
	6 号墳出土遺物45
	2)傾斜地出土遺物46
	3) その他遺構出土遺物46
	4)包含層出土遺物46
	3.奈良時代以降の遺物46
V	[ま と め87

挿 図 目 次

第1図	調査地位置図 1
第2図	調査地区割図 4
第3図	周辺遺跡分布図
第4・5	図 調査地南壁土層断面実測図11~12
第6図	弥生時代前期遺構平面実測図14
第7図	弥生時代前·中期遺構堆積土実測図 ······16
第8図	弥生時代中期遺構平面実測図17
第9図	古墳時代中から後期遺構(小型低方墳周溝)平面実測図19
第10図	古墳時代中から後期遺構(小型低方墳周溝堆積土)土層断面実測図20
第11図	古墳時代後期末から飛鳥時代遺構(小石室)実測図22
第12図	鎌倉時代後期遺構(溝334)平面実測図24
第13図	弥生時代前期遺構(土壙 1 · 503)出土弥生土器実測図 ······26
第14図	弥生時代前期遺構(土壙234·410·517、溝508)出土弥生土器実測図 ······27
第15図	弥生時代前期遺構(土壙2・3・503・504・ピット218)出土弥生土器実測図28
第16図	弥生時代前期遺構(土壙 1 ・2・503・504・507)出土縄文・弥生土器拓影29
第17図	弥生時代前期遺構(土壙234・368・410・517)出土縄文・弥生土器拓影30
第18図	弥生時代中期遺構(土壙518、溝505・812)出土縄文・弥生土器実測図31
第19図	弥生時代中期遺構(土壙518、溝505・812)出土縄文・弥生土器拓影32
第20図	包含層(小型低方墳周溝)出土弥生土器・土製品実測図33
第21図	包含層(小型低方墳周溝他)出土縄文・弥生時代前期土器拓影34
第22図	弥生時代石器(石鏃・石錐・石匙)実測図36
第23図	弥生時代石器(石斧・砥石)実測図37
第24図	古墳時代遺構(1号墳周溝)出土土師器・韓式土器・製塩土器実測図42
第25図	古墳時代遺構(1号墳周溝)出土土師器・韓式土器・須恵器・鉄製品実測図43
第26図	古墳時代遺構(1号墳周溝)出土土師器・須恵器実測図44
第27図	古墳時代遺構(5号墳周溝)出土土師器・須恵器実測図45
第28図	古墳時代遺構(4・6号墳周溝)出土土師器・須恵器実測図46
第29図	古墳から江戸時代時代遺構・包含層出土土師器・須恵器・国産陶器・石製品・古銭他実測図
	47
	写真目次
<i>m</i>	
与具Ⅰ	小型低方墳調査風景23

表 目 次

表1 表2 表2	石鏃・石 弥生時代	錐形態分類表
表3	出土遺物	観察表
		図 版 目 次
図版 1	調査地	上.塚山古墳を望む(北より)下.東地区調査開始風景(東より)
図版 2	土層断	面 上.東地区南壁断面(北より)下.東地区南壁断面(北より)
図版 3	土層断	面 上.東地区北壁断面(南より)下.上.東地区北壁断面(南より)
図版 4	土層断	面 上.東地区北壁断面(南より)下.東地区東壁断面(西より)
図版 5	土層断	面 上.中地区西壁断面(東より)下.西地区西壁断面(東より)
図版 6	土層断	面 上.西地区南壁断面(北より)下.西地区南壁断面(北より)
図版 7	遺構	上.東地区弥生・古墳時代検出遺構全景(西より)下.東地区弥生時代遺構検出状況
		(西より)
図版 8	遺構	上.東地区弥生時代遺構検出状況(西より)下.東地区弥生時代遺構検出状況(西より)
図版 9	遺構	上.東地区弥生時代遺構検出状況(西より)下.中地区弥生時代遺構(竪穴住居1)検
		出状況(北より)
図版10	遺構	(弥生時代前期) 上.中地区土壙410検出状況(南より)下.中地区土壙410堆積土検出
		状況(西より)
図版11	遺構	(弥生時代前期) 上.東地区土壙1遺物出土状況(北より)下.東地区土壙503遺物出
		土状況(南より)
図版12	遺構	(弥生時代前期) 上.東地区弥生時代検出遺構(土壙3)遺物出土状況(南より)下.
		東地区弥生時代検出遺構(土壙2)遺物出土状況(西より)
図版13	遺構	(弥生時代前期) 上.東地区弥生時代検出遺構(土壙234)遺物出土状況(東より)
	erance has been	下.中地区弥生時代検出遺構(ピット440)根石検出状況(南より)
図版14	遺構	(古墳時代) 上.東地区1号墳周溝他検出状況(西より)下.東地区溝1号墳周溝他検
		出状況(北西より)
図版15	遺構	(弥生時代前期・古墳時代) 上.東地区竪穴住居2・1号墳周溝他検出状況(北東よ
	v ete 1.85a	り)下.東地区1号墳周溝北東隅韓式土器出土状況(北西より)
図版16	遺構	(古墳時代) 上.東地区1号墳周溝北西隅韓式土器出土状況(北より)下.東地区1号
	, et 146	墳周溝南東隅ウマ上顎骨・須恵器他出土状況(西より)
図版17	遺構	(古墳時代) 上.東地区1号墳周溝南東隅須恵器・土師器出土状況(東より)下.東地区1号墳馬溝南東隅須恵器・土師器出土状況(東より)下.東地区1号は10号(オント)
5000	\# I+#	区1号墳周溝北東隅韓式土器甕出土状況(南より)
図版18	遺構	(古墳時代) 上.東地区1号墳周溝北西隅韓式土器甕出土状況(西より)下.東地区1
50111111111111111111111111111111111111	/#. L##	号墳周溝弥生時代前期土器出土状況(東より)
図版19	遺構	(古墳時代) 上.東地区南壁1号墳東側周溝堆積土検出状況(北より)下.東地区1号 株 東側 思港 株 港 土 検 出 状況(京 ト ね)
MILEO.	/审1#	墳東側周溝堆積土検出状況(南より) (大・埼県大学) ト・ロー 西地区 2 「 ・ 6 日・梅田港 2 山 1 東 1 ト 2) 下・ロ・西地区
図版20	遺構	(古墳時代) 上.中・西地区3・5・6号墳周溝検出状況(東より)下.中・西地区

- 5・6号墳周溝内供献土器出土状況(南東より)
- 図版21 遺構 (古墳時代) 上.西地区 5 号墳周溝内供献土器出土状況(西より)下.西地区 5 号墳周 溝内ウマの歯出土状況(南より)
- 図版22 遺構 (古墳時代) 上.東地区西壁3・4号墳周溝堆積土検出状況(東より)下.東地区4号 墳北側周溝堆積土検出状況(西より)
- 図版23 遺構 (古墳時代) 上.西地区落ち込み内供献須恵器壷出土状況(南より)下.西地区落ち込み内供献須恵器甕出土状況(西より) み内供献須恵器甕出土状況(西より)
- 図版24 遺構 (飛鳥時代) 上.西地区小石室天井石落下状況 (東より) 中.西地区小石室検出状況 (西より) 下.西地区小石室検出状況 (北より)
- 図版25 遺構 (中世) 上.東地区耕作用遺構検出状況(西より)下.東地区溝459検出状況(北より)
- 図版26 遺構 (中世) 上.東地区溝334検出状況 (西より) 下.東地区第4層上面遺構検出状況 (北より)
- 図版27 遺構 (近世~近代) 上.東地区第3層上面鋤溝・溝検出状況(北より)下.東地区水路2検 出状況(北より)
- 図版28 遺物 (弥生時代前期) 土壙1出土土器 壷・鉢
- 図版29 遺物 (弥生時代前期) 土壙 1・504、ピット218・溝812、包含層出土土器 壷・甕・鉢・縄文土器深鉢
- 図版30 遺物 (弥生時代前期) 土壙1出土土器 上.壺・甕・鉢 下.壺・甕・鉢・甕蓋、縄文土器 深鉢
- 図版31 遺物 (弥生時代前期) 土壙 1・234・包含層出土土器 上.壷・底部、縄文土器深鉢 下. 小型壷・壷、箆描き沈線
- 図版32 遺物 (弥生時代前期) 土壙234出土土器 上, 壷・甕・底部 下.甕
- 図版33 遺物 (弥生時代前期) 土壙234出土土器 上. 壶 下. 鉢
- 図版34 遺物 (弥生時代前期) 土壙410・517出土土器 上.甕 下.壷・甕・鉢・底部
- 図版35 遺物 (弥生時代前期) 土壙410・517出土土器 上.壷 下.壷・甕
- 図版36 遺物 (弥生時代前期) 土壙2・3出土土器 上.壷・甕・ 下.壷・甕・底部
- 図版37 遺物 (弥生時代前期) 土壙503・504出土土器 上甕 下.甕・壷・縄文土器
- 図版38 遺物 (弥生時代前期) 土壙503・504出土土器 上.壷・甕蓋・底部 下.甕・壷
- 図版39 遺物 (弥生時代前期) 土壙504・507他、包含層出土土器 上.壷・鉢・甕蓋・底部 下.縄 文土器深鉢
- 図版40 遺物 (弥生時代前期) 包含層出土土器 上. 壷・甕・鉢・底部 下. 甕・鉢、縄文土器深鉢
- 図版41 遺物 (弥生時代前期) 包含層出土土器 上.壷・甕・壷蓋・甕蓋・モミ痕跡が残る底部 下.土錘・土製円板・底部・粘土板状土製品
- 図版42 遺物 (弥生時代前期) 包含層出土土器 上. 壷体部文様 下. 壷体部文様
- 図版43 遺物 (弥生時代前・中期) 土壙518出土土器 上. 壷・甕・高杯・底部 下. 混入弥生時代 前期土器
- 図版44 遺物 (弥生時代前・中期) 土壙518、溝505他出土土器 上.壷・甕・底部 下.混入弥生時 代前期土器
- 図版45 遺物 (弥生時代前・中期) 溝812・包含層出土土器 上.壷・甕 下.包含層出土弥生土器
- 図版46 遺物 (弥生時代前・中期) 遺構・包含層出土石器 上.石鏃・石錐・石匙(A面) 下.石

- 鏃·石錐·石匙(B面)
- 図版47 遺物 (弥生時代前期) 遺構・包含層出土石器 上.石鏃(A面) 下.石鏃(B面)
- 図版48 遺物 (弥生時代前・中期) 遺構・包含層出土石器 上.石鏃・削器(A面) 下.石鏃・削器 (B面)
- 図版49 遺物 (弥生時代前・中期) 遺構・包含層出土石器 上.石錐(A面) 下.石錐(B面)
- 図版50 遺物 (弥生時代前・中期) 遺構・包含層出土石器 上.ピエス・エスキエ(A面) 下.ピ エス・エスキエ(B面)
- 図版51 遺物 (弥生時代前・中期) 遺構・包含層出土石器 上.太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核 (A面) 下.太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核 (B面)
- 図版52 遺物 (弥生時代前・中期) 遺構・包含層出土石器 上.太型蛤刃石斧・砥石(A面) 下.太型蛤刃石斧・砥石(B面)
- 図版53 遺物 (古墳時代中期) 1号墳出土土器 土師器甕、須恵器杯蓋、韓式土器甕
- 図版54 遺物 (古墳時代中期) 1号墳出土土器 土師器高杯・甕
- 図版55 遺物 (古墳時代中期) 1号墳出土土器 韓式土器甕・甑・鍋
- 図版56 遺物 (古墳時代中期) 1号墳出土土器 土師器甕、韓式土器長胴甕、須恵器杯蓋・杯身・ 高杯蓋・高杯
- 図版57 遺物 (古墳時代中期) 1号墳出土土器 上.土師器甕・高杯、製塩土器 下.土師器甕・壷
- 図版58 遺物 (古墳時代中期) 1号墳出土土器 上.土師器甕・甑 下.須恵器壷・甕・杯身・高杯・碌
- 図版59 遺物 (古墳時代中・後期) 上.1号墳出土遺物 鉄製品・鉄鏃 下.5号墳出土遺物 須恵 器甕・高杯・杯身・杯蓋・踉
- 図版60 遺物 (古墳時代後期) 5号墳出土土器 須恵器・杯身・杯蓋
- 図版61 遺物 (古墳時代後期) 5号墳出土土器 須恵器・杯身・杯蓋
- 図版62 遺物 (古墳時代後期) 5号墳出土土器 土師器甕・羽釜・甑、須恵器壷・高杯
- 図版63 遺物 (古墳時代後期) 上.4・5・6号墳出土土器 土師器甕・羽釜・杯・円筒埴輪 下. 4・6号墳出土土器 須恵器脚付壷・甕・高杯・杯蓋
- 図版64 遺物 (古墳時代中・後期) 6号墳・傾斜地・溝512出土土器 須恵器壷・長頸壷・甕・腿
- 図版65 遺物 (古墳時代後期~江戸時代) 上.6号墳・傾斜地・包含層など出土土器 須恵器杯 身・高杯・平瓶・嘘 下.包含層など出土土器 縄文土器・土師器・須恵器・瓦器・ 国産陶器・中国製磁器・古銭・滑石製双孔円板・砥石・土錘・ミニチュア甕・韓式 土器
- 図版66 遺物 (弥生時代~古墳時代) 上.4号墳周溝・包含層出土遺物 砥石・加工痕のある石材 下.4号墳出土遺物 国産陶器(緑釉・備前)中国製磁器(青磁)ウマの歯

I 調 査 概 要

1. 調査に至る経過

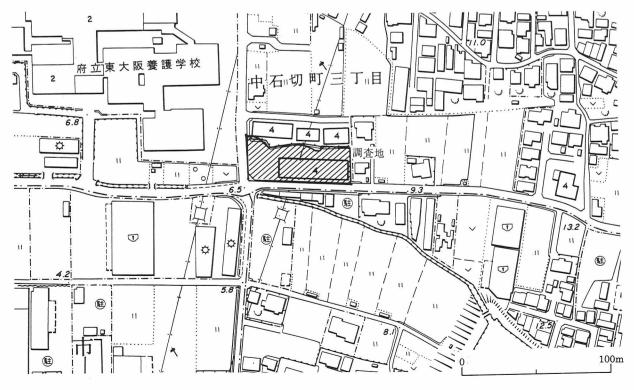
植附遺跡は生駒山の西麓、現在の東大阪市西石切町から中石切町付近に広がる遺跡である。昭和37年5月に弥生土器が採集されたことから遺跡の存在が知られた。昭和37年12月に小規模な調査が実施され、以降今回までに4回の調査が実施されている。

今回の調査地は、調査前は東から西に下がる3段の棚田に造られた水田であった。従前は、周知の遺跡範囲の隣接地であった。東大阪市教育委員会が、共同住宅建設に先だって実施した試掘調査によって遺跡の存在が確認された。この結果を受けて、共同住宅建設に伴う事前調査を実施したものである。調査は、東大阪市教育委員会の指導を受け、本協会が実施した。

2. 従前の調査

本遺跡において最初の調査が実施された地点は、今回の調査地の南約400mの地点である。今回の調査地点の南に隣接して現在水路となっている小河川が存在する。この川は石切新池(河川をせき止めて溜池を造成)に名残を留めているが、地形図などから本来は、東から西に向かって流れる幅の広い河川であったと考えられる。従前から周知されていた植附遺跡とはこの河川を境界として集落の異なる可能性が高く、今回の調査地を含む川の北側については将来、別の遺跡となる可能性が高い。なお従前の調査地点は、最初の調査から3回と5回目が河川の南側、4回目の調査が今回と同じく河川の北側である。調査次数と数字がずれるのは5回目が西ノ辻遺跡第28次調査として行われているためである。

従前の調査では、河川の南側で弥生時代中期(畿内第III~IV様式)の方形周溝墓・壺棺、古墳時代中期末から後期初頭の土壙・溝、奈良時代後期から平安時代前期の溝、鎌倉時代の木棺墓・井戸・土壙などと、土器を主体にそれぞれの時代の遺物が出土している。北側では、古墳時代中期後半の竪穴住居・土壙・溝、平安時代の柱穴などと、各時代の遺物が検出されている。



第1図 調査地位置図

3. 調査日誌

8月5日

第1期調査分(東地区と仮称)の機械掘削開始。約2/3終了、明日で終了予定。

当初、調査地を今回を含めて3分割して調査する予定であったが協議の結果、2分割に変更となる。 耕土内の出土遺物は古墳時代後期の須恵器・奈良時代の須恵器、室町時代後半の瓦器擂鉢など。

8月6日

東地区東端で弥生前期と思われる土壙1基(土壙2)検出。かなり、上部の削平激しい。

8月12日 晴れ

東地区中・西(東地区を3分割し東・中・西と仮称)を鋤跡掘り下げ終了。東地区東の床土撤去開始。床土から、18世紀代の国産磁器、伊万里焼染付一点出土。他に奈良時代須恵器・瓦器椀などの細片出土。

9月2日

東地区中・西第4層上面遺構掘り下げ途中。溝は、長さ20m以上の大規模なものと判明。

9月5日

弥生時代包含層、古墳時代包含層の範囲ほぼ確認。中・西地区耕作用溝内出土遺物取り上げ。

9月7日

同一面上で、弥生・古墳・中世の3時期の遺構検出。明日、時期ごとに石灰色分けの予定。

古墳包含層上面の遺構は14世紀代の耕作用溝有り。島畑状に作るが棚田に伴う段造成は行っていない。段造成を行ったのは、16世紀後半以降と考えられる。鎌倉時代の耕作以降、少なくとも3面の耕作面が認められる。

調査地のT.Pは7m前後。上部が削平されているとはいえ、古墳時代以降の堆積は少ない。

9月11日

東地区中・西の 4 A層 (古墳時代包含層と想定) 掘り下げ、2/3終了。

溝450よりウマの歯及び鉄鏃一点出土。須恵器からみてTK208併行と考えられる。出土状況は、中央の上部、厚さ10cmほどに多量の土器とともに一括して棄てられた状態で出土。

9月14日

東地区西の4A層掘り下げほぼ終了。溝450掘り下げ。韓式土器甕や弥生時代前期に属す小壷がほぼ完形で出土。

9月16日

東地区西4A層掘り下げ終了。耕作用溝検出。Eラインより南の4B層掘り下げ。水路1南側下層の弥生土器は、土壙(土壙1)となり、長原式の縄文土器が伴うこと判明。

9月18日

東地区中・西古墳時代耕作用溝掘り下げ終了後、全景写真撮影。東地区東 4 B層掘り下げ開始。溝 450ほぼ完掘。溝450の下層は、古墳時代の遺物が少なく弥生土器の包含が目立つ。包含層を削平して 造成した盛土が流れ込んだためか。中層は、土器少ない。

9月21日

東地区中・西4B層掘り下げ一部を除きほぼ終了。溝451の北端は調査区外に延びる。太型蛤刃石 斧1点、石鏃3点4B層より出土。明日、弥生(一部古墳混じる)第5層上面遺構掘り下げ開始。溝 450南北断面写真撮影。

9月24日

東地区西・中の遺構掘り下げ。10E付近は、4B層存在せず。すぐ溝になる。溝500は深さ約1.2m幅約3mで、溝450と同一とすれば方形の周溝となる。方墳の性格が考えられる。その場合、埴輪を持たない古墳である。古墳に属す溝でも、含まれる遺物は弥生土器が圧倒的に多い。

10月7日

北・東壁断面実測終了。深掘りを南壁断面沿いに行う。約半分終了。

10月12日

断面実測終了。埋め戻し開始。第1期調査終了。溝450の遺物は、道路下まで延びていること判明。 祭祀用に用いられたものが、一括投棄されたと考えられる。

包含層は、部分的に弥生時代と古墳時代の分離できない。間層をはさまない古墳時代の段階で弥生時代の包含層を削平したものと思われる。

古墳2基(方墳)は1辺10m前後のもので周濠の切り合いからみて、東側のものが古く西は新しい。 古墳の主体部は、弥生時代の遺構と地山の存在および上部を覆う古墳時代の包含層の存在から今回の 調査地では完全に削平されたと考えられる。

北壁断面の1個所で見られた石は、平坦な面を上にしており根石の可能性も考えられるが掘り方不明で断定できない。

10月16日

第2期調査分の機械掘削終了。協議の結果、1期分では基礎が及ばない部分を中ノ島状に未調査区 を残して実施したが、かえって調査に時間がかかるため第2期は建築予定部分を全面調査することに なる。

10月28日

中地区 4 B層掘り下げ。西地区落ち込み(III章以下では傾斜地と仮称)では掘り下げ。落ち込み内は、遺物少量含むのみ。肩口下部砂礫層上面で完形(供献土器)の須恵器壷 1 点出土。

10月29日

4 B層掘り下げ終了。遺構検出。昨日、落ち込みで検出した須恵器の北に隣接してほぼ完形の壷・ 高杯各 1 点出土。また、同一層の粘土層内よりウマと思われる獣骨少量出土。落ち込みは、位置から 見て縄文海進に伴う海食崖の傾斜と考えられる。

11月6日

ピット324完掘。溝800掘り下げほぼ終了。ピット324は小石室と判明し、底から、溝800の肩口が認められた。溝800は方墳で1辺約15mの周溝と判明。埴輪を全く伴わず、周溝内の上部から中部にかけてウマの歯と土器が散漫に含まれる。

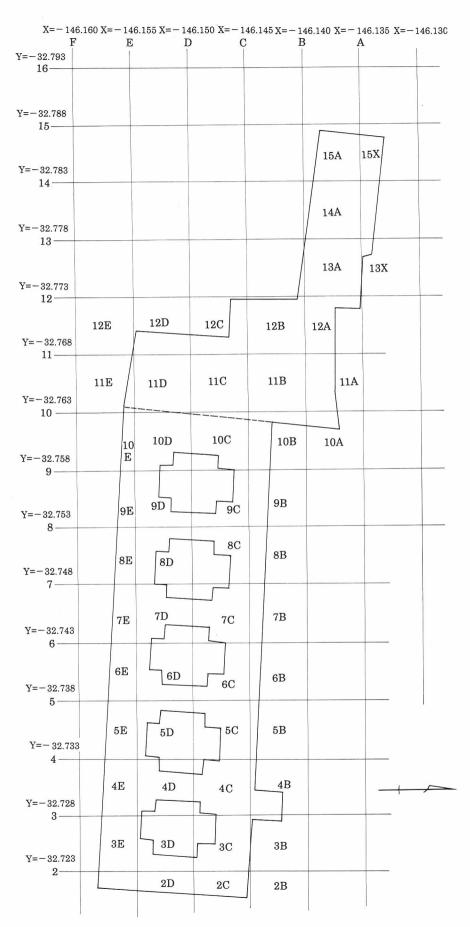
小石室の年代は、溝800よりは新しく(完全に埋没した段階で造られる) 9世紀代よりは古い(上部を覆う包含層は緑釉含む)。7~8世紀代の所産か。

11月12日

全景写真用清掃後、写真撮影。断面実測。

断面精査の結果、西地区南側にもう1基の古墳が存在し計5基の古墳の周溝を確認したことになる。 11月16日

西地区北壁断面実測終了。落ち込み底の深掘り約1.5mほど掘り下げ。完全に地山であること確認。 深掘りの結果、地山を構成する暗緑灰色砂礫は、南東より北西に向かい流れ河川の堆積物と考えられ る。本日をもって現場調査終了。俊徳道作業場に一部遺物等を搬出。



第2図 調査地区割図

II 地理的歷史的環境

1. 地理的環境

遺跡の位置する扇状地は、背後の生駒山から西下する音川によって形成されたものである。音川のような生駒山地より流れ出した小河川が造った扇状地は、東大阪市北部から八尾市南部にかけての山麓に発達し、 $0.7\sim1~\mathrm{km}$ (ほぼ、 $0.9~\mathrm{km}$) の間をおいて流れている。これら中小の河川は山麓部や平野部では、時代によって徐々に流れが異なることが今回の調査も含め最近の調査で明らかになりつつある。このような扇状地は、約 $5\sim15$ 万年前に形成されたと考えられる低位段丘で、標高 $10\sim100~\mathrm{m}$ 付近まで広がる。

標高20m前後の山麓を、南北に旧東高野街道が通る。この道がいつから存在したか明らかでないが、 沿道に縄文時代以降、各時代の遺跡が点在し早くから利用されたことは間違いない。

背後の生駒山地は、新第3紀鮮新世(約1000万年前)から第4紀最新世中頃(約50万年前)までの基盤褶曲によって形成されたものである。主峰の生駒山の標高は642.3mである。生駒山地は、大阪府と奈良県の境に位置する。山地を等高線100m以上の範囲とすると、北の端は交野市私市、南の端は大和川で、南北距離は約27km、東西の幅約11kmのひろがりをもつ。主峰の生駒山を頂点とし、北では標高320m南では標高430mの等高性を保って南北に長く連なる。西の大阪側斜面は、東の奈良盆地側の斜面に比べて急である。

生駒山地を形成する基盤岩類は、黒雲母花崗岩、角閃石―黒雲母花崗閃緑岩、黒雲母石英閃緑岩、 閃緑岩質斑れい岩などである。このうち東大阪市上石切町から横小路町のかけて分布する角閃石―黒 雲母花崗閃緑岩などが風化した粘土でつくられた土器は、胎土中に有色鉱物の角閃石、黒雲母を多量 に含み、「生駒山西麓産の土器」として知られている。この土器は縄文時代以降、平安時代まで製作 され時代により地域や量に異なりはあるものの、周辺地域にもたらされている。特徴的な胎土と茶褐 色を呈する色調から各地の在地の土器と容易に識別できるため、各時代の土器の流通や社会を考える うえで重要な指標の一つとされている。

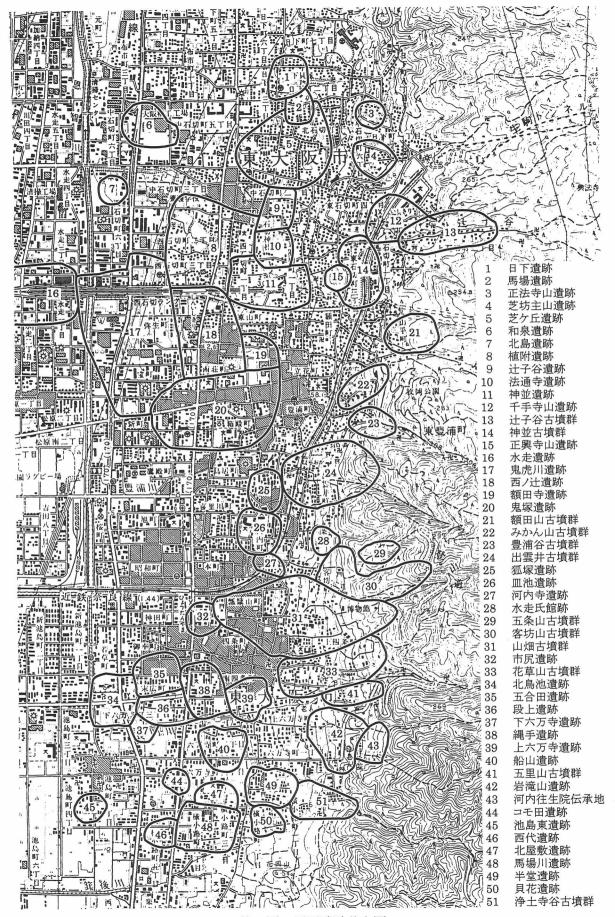
調査地付近の地形は標高 7 m前後の東から西に向かう傾斜地で、調査地の現地表面での東端と西端の距離65 m、比高差は1.4 mである。西に隣接する南北の道路を隔ててさらに角度を急にして傾斜し、現在の国道170号線(外環状線)付近で平坦(平野部)となる。南はほぼ隣接して現在水路となっている小河川が、北に約200 m離れて東から西に流れる河川が存在する。したがって、調査地点は西は緩斜面、北と南を小河川で区切られた低位段丘上に位置することになる。弥生時代においては、河内潟のほぼ東南隅で東高野街道から少し西に入る平野部に隣接した段丘先端部にあたる。

2. 歷史的環境

調査地点周辺は、旧石器時代から中世にいたるまで多くの遺跡が存在する。生駒山西麓でも主要な遺跡が、集中する地域にあたる。以下、旧石器時代より順に中世までの周辺遺跡の移り変わりを概観する。

旧石器時代

鬼虎川遺跡(南約0.5km離れて所在、以下、離れて所在を略す)の縄文海進に伴う海岸跡や神並遺跡(南東約0.7km)から後期に属す石器が出土しており、人々が居住していたことが明らかである。従前は、洪積層が露出する標高100m~150m付近の草香山遺跡等(北東約1km)から採取されたものが知られていたが、近年、鬼虎川遺跡の地下約5~8m付近で約25000年前に降下したAT火山灰が検出されており、平野部ではこの層を含む上下の層が旧石器時代の地表面と考えられる。



第3図 周辺遺跡分布図

縄文時代

早期は、神並遺跡から、多量の土器や石器をはじめ石組み炉等が検出されている。この時期の土器は、山畑(南東約2km)・鬼塚遺跡(南1.6km)などでも少量出土し、おそらく神並遺跡は生駒山地を移動しながら生活していた当時の人々の拠点的な居住地と考えられる。

縄文時代前期~中期前半は、縄文海進が起こり平野部が河内湾となった時代である。縄文時代中期後半~晩期後半も、平野部に河内湾から河内潟に変化する水域が広がっていたたため遺跡は山麓部に存在する。中期前半の遺物は鬼虎川遺跡からしか出土していないが、中期後半以降、生駒山地から西下する小河川により南と北を画された段丘上(標高15~25 m)にほぼ1ケ所ずつ集落が存在する。北から南に善根寺(中期末・北東2 km)日下(後期末~晩期・北東1.5km)芝ケ丘(後期末~晩期・東0.7km)鬼塚(中期末~晩期)縄手(中期末~晩期・南東3 km)馬場川(中期後半~晩期・南東4 km)遺跡である。出土土器から見ると同時に存在した集落は中期後半~後期が1~2遺跡、晩期が2~3遺跡程度と考えられる。遺跡の分布状況から見て、現在の市域の北半と南半で2ないし3集団が、同時に居住しており一定の地域の中で時期により居住域を替えたものと考えられる。

弥生時代

縄文時代晩期頃から、河内潟は旧大和川が運ぶ土砂などにより河内湖に変化する。河内湖の縁辺に 広がる低湿地は、稲作に適した地に変化していた。

縄文時代晩期末から弥生時代前期は、南約0.7kmに長原式段階と畿内第I様式新段階(以下、煩雑になるため畿内を略す)の土器と土偶が出土した西ノ辻遺跡、長原式段階と第I様式新段階の土器が出土した鬼虎川遺跡、船橋式・長原式段階と第I様式古・中段階および新段階の土器が出土した鬼塚遺跡、船橋ないしは長原式段階と第I様式古・中段階および新段階の土器が出土した縄手遺跡、長原式段階の土器が出土した馬場川遺跡、南西約0.6kmに貝塚から長原式段階と第I様式古・中段階および新段階の土器が出土した水走遺跡、長原式段階の土器が出土した芝ケ丘遺跡、船橋・長原式段階の土器が出土した日下遺跡がある。水走遺跡は低湿地上に営まれているが他はいずれも山麓部の遺跡である。瀬戸内海から海伝いに東上してきた弥生文化がたどり着く地点がこの地に当たるため、畿内においても縄文時代晩期末から弥生時代前期の遺跡が、集中する地域にあたる。

弥生時代中期には、本遺跡のほか鬼塚・西ノ辻・縄手、山麓に近い平野部には鬼虎川・水走遺跡が存在する。鬼塚・鬼虎川・西ノ辻の3遺跡は、それぞれ河川・海食崖などの自然地形で画されているが隣接して存在する。出土遺物から見て、遅くとも第II様式の終り頃から第IV様式まで本遺跡を含む4遺跡が同時に存在していたことは確実である。それぞれの集落は、独自の墓域をもつことから、一定の独自性を保ちながら密接なつながりを保持していたと考えられる。この集落群を一つの集落と見れば東西約1km、南北約1kmの大集落が想定される。河内湖東辺でも最大の規模をもつ大集落群が想定される。河内湖南辺に位置する瓜生堂・山賀遺跡なども遺跡群としてみれば同様の規模をもつ。

これらの大集落を支えた背景は、後の時代に上述の遺跡がほとんど全て縮小し、以降に発展が見られないことから、河内湖縁辺の耕作地と背後の生駒山地の自然の恵みの存在だけでは考えられない。おそらく、水運など他の富を得る手段が存在したものと考える。鬼虎川遺跡で出土した銅鐸をはじめとする鋳型や金属製品の存在も、原材料の入手も含めてこの背景を踏まえて理解できると考える。

弥生時代中期末の短期間に日常生活を送るのには不便な、標高約100m前後の山腹に山畑遺跡が出現する。いわゆる高地性集落である。遺跡の出現は、「倭国大乱」のような戦争状態を含む当時の社会の緊張関係を反映しており、中期の主要な遺跡が後期に廃絶することと関連すると考えられる。

弥生時代後期は鬼塚遺跡と西ノ辻遺跡を残し、鬼虎川遺跡と植附遺跡が廃絶する。この時期は、山

麓に近い平野部では本遺跡の南2.5kmに北鳥池遺跡が存在するが、むしろ、居住地は馬場川・上六万寺遺跡(南東3km)など山側に移動している。いずれも小規模な集落と考えられる。

山畑遺跡が廃絶したのと入れ替わるように、後期前半に高地性集落の岩滝山遺跡(南東 4 km)が出現する。現在までに、竪穴式住居が12棟確認されている。この遺跡も後期末で消滅するが、前代から引き続く緊張関係が遺跡を場所を変えて出現させたのであろう。

古墳時代

前期(4世紀)および中期(5世紀)の古墳は、南東約3kmに前期末のえの木塚古墳(円墳・径約30m・鰭付き円筒埴輪)南東2kmに中期初頭の客坊山3号墳(前方後円墳?鰭付き円筒埴輪)南約0.2kmに、中期前半の塚山古墳(径約20m・高さ約7m・円墳・楯形埴輪、円筒埴輪)南約4kmに墳丘が削平され墳形・規模は不明であるが2基の周溝内より多数の形象・円筒埴輪が出土した中期後半の大賀世古墳群(3基)が知られる。

前・中期の前方後円墳は、東大阪市内の山麓では現在認められず、南に隣接(調査地点からは約5km離れる)する八尾市楽音寺古墳群(前期末の西ノ山古墳から始まり後期の郡川東塚・西塚まで継続的に7基の前方後円墳他で構成)が知られている。

最近の調査で、段上遺跡(南約3km)において中期後半の上部が削平された小規模な方墳が2基 検出されている。1号墳からは、円筒埴輪・朝顔型埴輪・須恵器・韓式土器・馬の歯などが出土している。この種の古墳は近年、今まで古墳の存在が予想されていなかった平野部あるいは丘陵低位部などから発見が相次いでいる。過去に墳丘を削平された墳丘規模径・辺10m前後の小規模な古墳で単独で存在する場合もあるが、多くは群集する形態をとる。築造時期は古墳時代の全期間に及んでいるが、なかでも古墳時代中期から後期前半(5世紀後半から6世紀初頭)にかけてのものが大半である。墳形は大和・河内など畿内中心部は極く一部(円形)を除きすべて方形である。弥生時代以来の方形周溝墓の系譜を引くとしてつけられた名称である方形区画墓ともよばれる。

今回の調査で、同様の古墳を検出した。畿内中心部にあたる河内においては、方形周溝墓の伝統だけでは説明しにくい点があるので、和田晴吾氏の用語をもちいて小型低方墳と呼ぶことにしたい。

後期(6世紀)の古墳は、群集墳と単独墳が存在し内部主体の確認されているのは全て横穴式石室である。群集墳は市域南半の山麓、標高30~150m付近の谷筋沿いに分布する。後述する山畑古墳群を除き、10基前後である。調査地点に近い群集墳は、南東約1.5kmに神並古墳群(双円墳1基と円墳17基・6世紀後半に築造開始)とこの古墳群のすぐ北東に隣接する墓尾古墳群(5基うち1基は方墳・7世紀初頭に築造開始)がある。山畑古墳群は、南東約2.8kmに位置し、南に隣接する五里山・花草山古墳群とあわせ約100基の円墳を中心(方墳1基・上円下方墳1基・双円墳2基含む)とする古墳群である。この古墳群は、6世紀前半に築造を開始し、後半に爆発的に築造数が増える典型的な中規模群集墳である。馬具を副葬する古墳が調査された古墳の約5割と他の群集墳に比して多い。被葬者は大和政権に馬に関する職掌で仕えた氏族の墓域と考えられる。

終末期の群集墳は、7世紀前半に築造された墓尾古墳群(北東1.5km)がある。

単独墳は、群集墳の認められない北半にも点在し北東約2kmに坊主山古墳(円墳・円筒埴輪・6世紀前半)などこの時期前半の古墳が知られる。また、南半にも南東約2kmに五条古墳(方墳・一辺約30m・6世紀後半)などが存在する。市域で造営された最後の古墳として標高約360mの山岳部に営まれた切り石造の石室をもつイノラムキ古墳(方墳・一辺15m・7世紀初頭)が存在する。調査地に近い単独墳は、南東約1.4kmの標高80mの丘陵上に位置した市域唯一の前方後円墳、芝山古墳(全長約30m・6世紀前半)である。

周辺で検出されている集落は、継続期間から見て、二つのタイプが存在する。一つは、古墳時代全期間にわたって営まれる集落である。鬼塚遺跡(掘立柱建物・竪穴住居・溝・土壙)、縄手遺跡(南約3km、溝・土壙)がある。他の一つは中期中頃に出現し、後期初頭遅くとも前半までの短期間に集落が営まれるものである。鬼虎川遺跡(掘立柱建物・柵列・溝・土壙)、芝ケ丘遺跡(掘立柱建物・溝・土壙)日下遺跡(土壙・溝・竪穴住居・馬埋葬土壙)神並・西ノ辻遺跡(掘立柱建物・石組貯水施設・土壙)などがある。本遺跡の集落は後者の例である。

弥生時代後期から古墳時代にかけての集落規模が縮小しかつ減少する原因の一つに、自然環境の変化と共に旧大和川の運ぶ土砂により河内湖の水運が衰退したことが考えられる。

中期後半から後期にかけていずれの集落からも、韓式土器・製塩土器が出土している。また、馬の 骨やフィゴの羽口の出土する例も多い。おそらく周辺の各集落ではこの時期、馬を飼い小鍛冶が行な われていたと考えられる。中期中頃に出現する集落の中には、大和政権により配置された渡来人を中 小とする集落の存在が想定される。

飛鳥から奈良時代

市域の山麓部は、大化の改新により施行された国郡制によれば河内国河内郡にあたる。「和名類聚抄」によれば、河内郡には、英多・新居・櫻井・大宅・豊浦・額田・大戸の7郷があり、今回の調査地は大戸郷と推定される地の一画にあたる。

飛鳥時代から奈良時代にかけて石凝寺(大戸郷・北東1.5km)・法通寺(大戸郷・東0.7km)・河内寺(大宅郷・南東2km)が造営される。石凝寺は奈良時代の高僧、行基が建立した寺である。残る2寺は、飛鳥時代後半に在地豪族の氏寺として創建された。河内寺は郡名を冠することや所在地から郡衙に付属した郡寺の性格もあわせもつ。寺院を建立した氏族が関係すると思われる火葬墓や土器棺墓が、山麓部上位付近で検出されている。ほとんど単独出土であるが、群集するものに墓尾古墳群隣接地での検出例がある。

奈良時代の集落は、神並遺跡(大戸郷)と鬼塚遺跡(豊浦郷)や船山遺跡(櫻井郷)で最近、検出されている。鬼塚遺跡は標高28~32m付近で、奈良時代前期から平安時代初頭までの下級貴族の屋敷跡が明らかにされている。水走遺跡からは、奈良時代、河内湖の縁辺で行なわれた祭祀に用いられたミニチュアの竃や甕など多数が出土し、西ノ辻遺跡でも川跡から同種の遺物や国産の小型海獣葡萄鏡が発見されている。これらの遺物は、律令国家が行った祭祀をこの地の居住した人々が忠実に実行したことを示している。

平安時代中期の集落は西ノ辻遺跡で断片的に知られている以外、明確でないが平安時代後期以降、 室町時代の集落は本遺跡や神並・西ノ辻・水走・上六万寺遺跡(南2.7km)などで検出されている。

以上のように本遺跡の位置する河内国河内郡の山麓部は、原始・古代より絶えることなく人々が居住した地ということができる。

参考文献

藤井直正・都出比呂志他 1966年『枚岡市史』第3巻資料編 枚岡市史編纂委員会藤井直正・都出比呂志他 1967年『枚岡市史』第1巻本編 枚岡市史編纂委員会東大阪市文化財協会 1984年『甦る河内の歴史』和田晴吾 1992年「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』第5巻近畿I 角川書店各遺跡発掘調査報告書他

III 層 序

調査地本来の地形は、前述のように東から西に向かう傾斜地であるが16世紀後半と考えられる棚田造成のため部分的な削平を受けている。削平を受けた東端では耕土・床土以下すぐに地山が存在し同一面上で弥生・古墳時代の遺構や近世や近代の耕作用の溝などが存在する。しかし、免れた7C~13A地区付近などでは部分的ではあるが平安・古墳・弥生時代、4・5E地区には弥生時代の包含層が存在した。

棚田による削平を免れ比較的旧状を残す調査地中央部について説明する。詳細は、第4図調査地土層断面図を参照されたい。また、西端付近は縄文海進に起因する海食崖が存在し様相が異なるため遺構の溝で説明する。

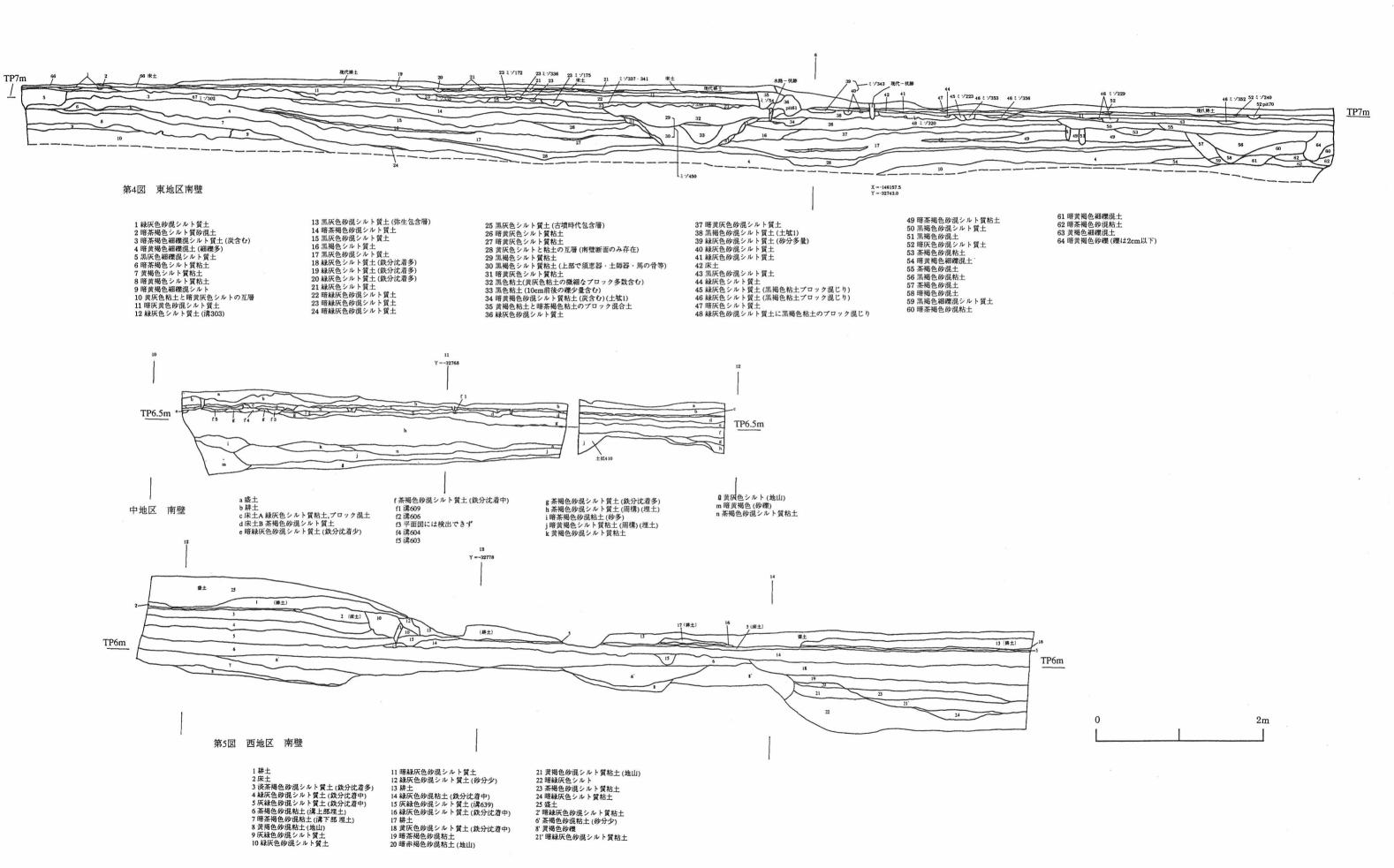
- 第1層 耕土 層厚約20cm。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・国産陶磁器などの細片が出土。
- 第2層 床土 層厚約25cm。3層に分層できるため、わけて説明する。

床土A (黄褐色砂混じりシルト質土、鉄分沈着が多い) 層厚約5cm。上面で耕作用の鋤溝など検出。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器などの細片が出土。

床土B (緑褐色砂混じりシルト質土、鉄分沈着が多い) 層約10cm。上面で耕作用の鋤溝など 検出。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・国産陶磁器などの細片が出土。

床土 C (暗緑褐色砂混じりシルト質土、鉄分沈着が多い) 層厚約10cm。上面で耕作用の鋤溝など検出。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・国産陶磁器などの細片が出土。

- 第3層 灰褐色砂混じりシルト質土 層厚約20cm。12A地区より以西に存在する。上面で耕作用の鋤 溝など検出。土師器・須恵器・弥生土器の他に緑釉陶器などの細片が含まれることから平安 時代前期の包含層である。
- 第4層 茶褐色砂混じりシルト質土層厚約10~30cm。6~9ライン付近に部分的に存在する上面で耕作用の鋤溝や後述する堀上げ田の溝などが存在する。また、明確な遺構は検出していないが北壁断面で柱穴ないし小規模な溝と考えられるものがあり第3層の存在を考えると、今回の調査地の北側に平安時代の集落が存在する可能性がある。土師器・須恵器・弥生土器などの細片が出土。古墳時代後期の包含層である。
- 第5層 黒褐色シルト質土 層厚約10~20cm。上面で耕作用の鋤溝や小型低方墳の周溝が検出された。また、第4層で可能性を考えた平安時代の集落に関係するかと思われる根石とも考えられる上面が平坦な40cm前後の石が北壁断面で検出された。弥生土器・石器が出土した。土器の大半は前期にであるが少量の中期に属すものがあり畿内第II~III様式の段階で形成されたものと思われる。
- 第6層 暗茶褐色細櫟混じりシルト質土 層厚約20cm。地山である。上面で耕作用の鋤溝や小型低方墳の周溝と弥生時代の溝や柱穴・土壙・竪穴住居などが検出された。西に向かい傾斜する。以下、地山層が続く。2~11ライン間の南壁に沿い深堀を行った結果、連続して認められた暗黄褐色シルト混じり土(東端のTP7m)は西に一旦傾斜した後、6ライン付近(TP5.8m)で再度、角度を変えて上昇する。起伏に富む地形であったことが判明した。また、間層でシルトと粘土の互層が認められたことから、ある時期河川が存在したことも明らかになった。



第4・5図 調査地南壁土層断面実測図

IV 遺 構

今回の調査では、弥生時代前期から近代にいたる各時期の遺構を検出した。以下、古い時期から順に主要な遺構について記す。

1. 弥生時代前期の遺構(第6図)

調査地全域で認められた。竪穴住居 2 棟・土壙(貯蔵穴の可能性のあるもの 1 基含む)・溝・ピットなどを検出した。主要な遺構について説明する。

竪穴住居

竪穴住居と考える柱穴群を調査地中央で1棟、西よりで1棟の計2棟を東西に約15mの間を置いて 検出した。東側を竪穴住居1、西側を竪穴住居2と仮称する。

竪穴住居1

7 C・D地区で確認した。掘込み面は小型低方墳築造以降に削平されているが柱穴と考えられる径約20cmのピット201・204・206などと径10cm前後のピット226・227・229などが間隔をあけて径約6mで半円形に巡る。各ピットの深さは10cm前後でかなり上部を削平されている。円形住居とすれば東半分のピットは、未調査地に入る。南側の柱列は土壙503に切られる。竪穴住居2とほぼ同一の形態をもつことから住居と判断した。炉跡は検出していない。

竪穴住居 2

11・12 B、11 C で確認した。掘込み面は古墳築造以降に削平されているが径約10~20cm、深さ10cm前後のピットが間隔をあけて径約7 mで円形に巡る。ピットの一部は、周溝や、弥生時代中期の溝812により切られる。ピットで囲まれた中央よりやや西の位置に炭の入った土壙428を検出した。壁面は焼けた痕跡は認められなかったが炉跡の可能性が考えられる。炉跡とすれば、すぐ東にピット427西にピット429が存在する。ピット群の形態などから上部を削平された住居と判断した。竪穴住居と考えたピット以外にも同様のピットが周辺に見られることから建替えられた可能性も考えられる。

土壙

調査地の西端の傾斜地部分を除きほぼ全体に散漫に分布する。遺物が出土したものとしていないものがある。主要なものについて説明する。

土壙1

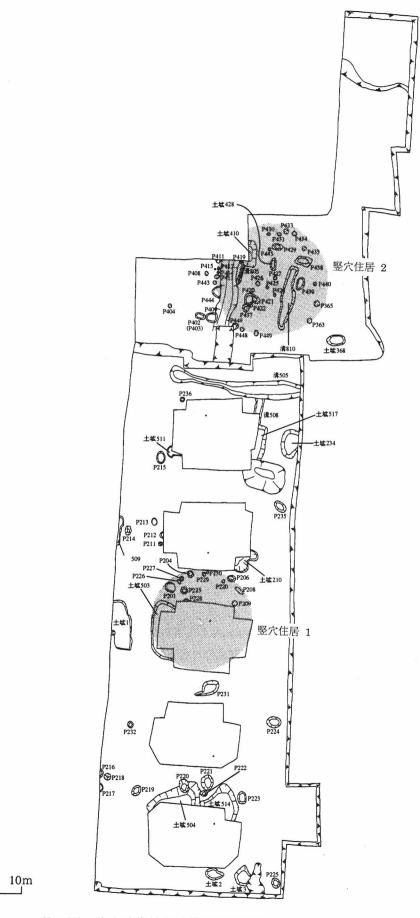
6・7 E地区で検出した。東西3.6m以上南北1.6m以上深さ0.2m以上の隅丸長方形を呈するとみられるもので、南辺は調査区外に延び東辺は小型低方墳の周溝によって切られる。上部は中世末(16世紀後半)と考えられる棚田造成により削平される。多量の土器以外に少量のサヌカイトフレイクが出土した。接合の結果、ほぼ完形に復元できた壷(図19)は土壙の平面および上下に間隔をあけて破片が散布しており、他に接合できた土器にも同様のものがある。縄文土器も体部片が出土している。堆積土は黒褐色砂混じりシルト質土の単一層である。この出土状況から、何らかの理由で不用になった土器を一括投棄したと考える。

土壙2

2 C地区で検出した。平面形が楕円形を呈し、長軸160cm、短軸80cm、深さ24cmである。遺構内 堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。土壙内より弥生土器が出土した。土壙の上部は、直 上に床土が存在し後世に削平されている。

十塘3

2 C地区で土壙 2 の北0.8 m離れて検出した。平面形が楕円形を呈し、長軸160cm、短軸120cm以上、



第6回 弥生時代前期遺構平面実測図

深さ16cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。土壙内より弥生土器が出土した。北肩は古墳時代に属す溝515に切られる。土壙の上部は削平されている。

土壙504

4 D地区で検出した。平面形が不整円形を呈し、長軸360cm、短軸100cm以上、深さ30cmである。 遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。東半分は未調査地に入る。土壙内より弥生土 器が出土した。北に接する土壙514を切り西肩をピット220に切られる。土壙の上部は、直上に床土が 存在し後世に削平されている。

土壙503

6 D地区で検出した。平面形が不整円形を呈し、長軸440cm、短軸160cm以上、深さ30cmである。 遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。北半分は未調査地に入る。土壙内より弥生土 器が出土した。

土壙234

9 B地区で検出した。平面形が楕円形を呈し、長軸220cm、短軸120cm以上、深さ24cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。北肩は調査区外に延びる。土壙内より弥生土器が出土した。

土壙517

9 C地区で検出した。平面形が長方形を呈し、長辺240cm以上、短辺80cm以上、深さ25cmである。 遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。南半分は未調査地に入る。土壙内より弥生土 器が出土した。西に接する溝508を切り東肩を弥生時代中期に属す土壙518に切られる。

土壙410

12 C地区で検出した。平面形が長方形を呈し、長辺180cm、短辺96cm、深さ50cmである。遺構内 堆積土は、2層に分層でき上層は暗茶褐色砂混じりシルト質粘土、下層は暗黄褐色砂混じりシルト質 粘土で両層とも炭を含む。南半分は調査区外に入る。土壙内より弥生土器が出土した。東に接する溝 805を切る。規模から小規模な貯蔵穴の可能性も考えられる。

土壙428

12 B地区で検出した。平面形が長方形を呈し、長辺100cm、短辺32cm、深さ16cmである。遺構内堆積土は、暗茶褐色砂混じりシルト質粘土で炭を多量に含む。土壙内より弥生土器が出土した。多量の炭が認められたことから炉の可能性も考えられる。

溝

調査地の西半で小規模な2条を検出した。

溝508

9・10 C地区で検出した。長さ120cm以上、幅32 cm、深さ20cmで断面形は皿状を呈し、東から西に走る溝である。堆積土は、茶褐色砂混じりシルト質粘土である。溝内より弥生土器が出土した。東を土壙517に、西を弥生時代中期に属す溝505に切られる。

溝805

12 C地区で検出した。長さ200cm以上、幅25 cm、深さ10cmで断面形は皿状を呈し、東から西に走る溝である。堆積土は、暗茶褐色砂混じりシルト質粘土である。溝内より弥生土器の細片が少量出土した。西を土壙410に切られる。

ピット

竪穴住居1・2の周辺で多く検出したが4E地区にも散在する。いずれも、平面形は円形を呈し径

30cm前後、上面が削平されているため浅く検出面から10cm前後の深さしかない。堆積土は黒褐色砂混じり土と暗茶褐色砂混じりシルト質粘土が多い。南壁断面で確認したものは径8cm深さ40cmの杭と思われる。

2. 弥生時代中期の遺構

調査地の中央よりやや西よりで数は少ないが溝3条・土壙1基・ピット1個を検出した。時期は、第 II・III 様式に属す。各遺構とも性格のわかるものはない。主要な遺構について説明する。

溝505

10B~D地区で検出した南北方向の溝である。北端は調査区外に延びる。長さ960cm、以上幅130cm、深さ24cmの規模をもつ。断面は皿形を呈し、堆積土は上層が黄褐色砂質土、下層が茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の第II様式と混入品の多量の弥生時代前期土器が出土した。

溝812

11・12 C地区で検出した東西方向の溝である。東端は試掘トレンチで切られ、西端は調査区外に延びる。長さ480cm以上、幅120cm、深さ32cmの規模をもつ。断面は逆台形を呈し、堆積土は上層が暗茶褐色砂混じりシルト質土、下層が茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の第II様式に属す土器と混入品である多量の弥生時代前期土器と縄文時代後期(図218)晩期土器(図185・186) 2 点が出土した。

溝810

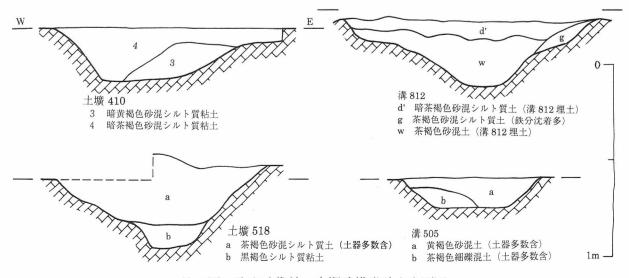
11・12 C地区で検出した東西方向の溝である。長さ480cm、幅100cm、深さ16cmである。断面は皿形を呈し、堆積土は茶褐色砂混じり土である。

土壙518

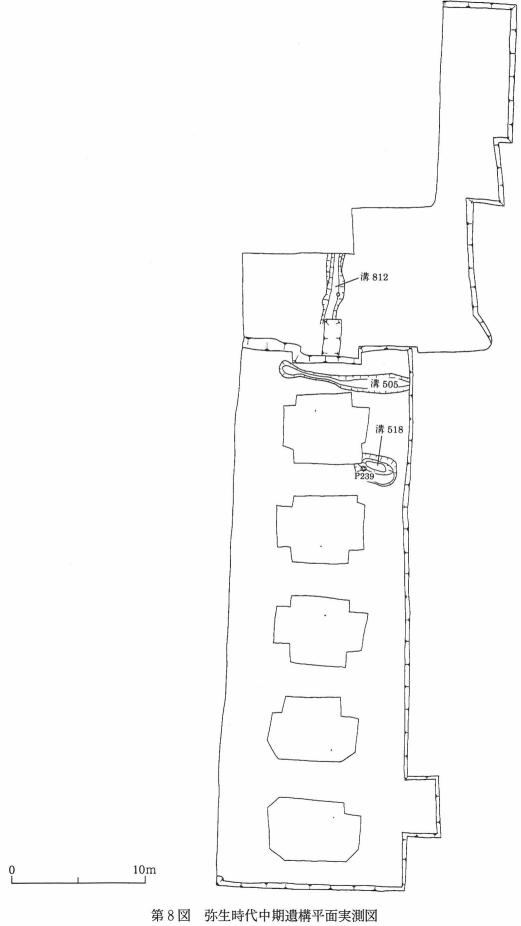
11・12 B 地区で検出した土壙である。南端は未調査区に延びる。平面形が隅丸方形を呈し長辺320cm以上、短辺200cm、深さ96cmの規模をもつ。断面は逆台形を呈し、堆積土は上層が暗茶褐色砂混じりシルト質土、下層が茶褐色砂混じり土である。土壙内から、少量の第II様式に属す土器と混入品である多量の弥生時代前期土器が出土した。形態から見て井戸の可能性も考えられる。

ピット239

溝(土壙) 518の南の肩部分で検出した。径48cm、深さ30cmで堆積土は暗茶褐色砂混じり土である。



第7図 弥生時代前・中期遺構堆積土実測図



土壙を切っていると判断されるためこの時期に属すと考える。

3. 古墳時代中期末から後期の遺構

墳丘部を削平された7基の小型低方墳と溝2条を検出した。小型低方墳から順に説明する。 小型低方墳

7基とも墳丘は削平され周溝のみを検出した。墳丘が最終的に削平された時期は、上部を覆う包含層から緑釉陶器を検出しているので遅くとも奈良時代から平安時代にかけてと考えている。ただ、周溝の堆積土と遺物出土状況からみて、墳丘は築造後さほど時間を経ずに崩れたものと思われる。周溝底部は平坦ではなく一部に深く掘られたところもあり、かなり雑な掘り方である。墳丘の平面形はほぼ形態の判明する1・2・3号墳から見ると、正方形ではなく南北に長い長方形を呈する。墳丘の盛土は、弥生時代前~中期の包含層を削平、掘削して盛り上げているため、各古墳の周溝内より多量の弥生土器が出土した。墳丘に葺石・埴輪は存在しない。以下、1号墳から順に概要を記す。

1号墳

5ラインより西、8ラインより東で周溝と墳丘部分を検出した。墳丘は東西10m南北12.4m(周溝墳丘側肩口より計測、以下同じ)、周溝の幅3.6m深さ1mである。周溝の断面形は逆台形を呈し、堆積土は、5層に分層(第9図)できる。周溝上部堆積土中から祭祀に用いられた後、一括投棄されたと考えられる状況で土師器・須恵器・韓式土器・製塩土器などが、東側周溝の南隅(観察表で溝450と記した)と北側周溝東隅(観察表で溝451と記した)でかたまって出土した。東側周溝の南隅では、他にウマの上顎骨と鉄鏃(図298)鉄滓(重量26.1g)各1点も認められた。馬具の可能性がある鉄製品(図297・299)も出土した。

上部堆積土中より完形に復元できた韓式土器の甕が、東側周溝の北隅(図303)と西側周溝の北隅(観察表で溝500と記した。図306)で各1点置かれた状況で検出した。東側周溝のものは置かれた際、体部の中央に1箇所穿孔されていた。穿孔された際に出た破片も同時に出土している。遺物出土量は、今回検出した古墳の中で最も多い。周溝内出土須恵器はTK216~208に属すが周溝の堆積が一定進んだ段階で供献されたものであるため築造時期は、当然須恵器の示す年代観よりやや古くなる。

2号墳

10ラインより東で周溝と墳丘部分を検出した。墳丘は東西8m南北11m、周溝の幅2.5m深さ0.6mである。1号墳と周溝を共有する形で、南側周溝と北側周溝の一部を検出した。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、2層に分層(第9図)できる。

西側周溝は3号墳により切られるが、一画が掘られていなかった可能性が高い。また南側周溝も1号墳周溝と現状では途切れているため、完全に接合していなかった可能性が高い。3・4号墳に周溝を切られる。少量の須恵器(図358など)が出土した。周溝内出土の須恵器はTK208に属す。

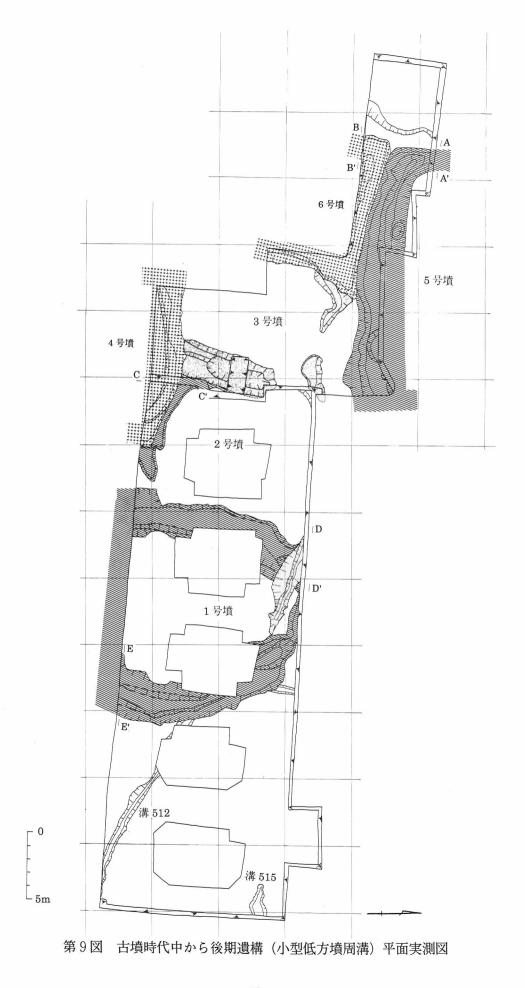
3号墳

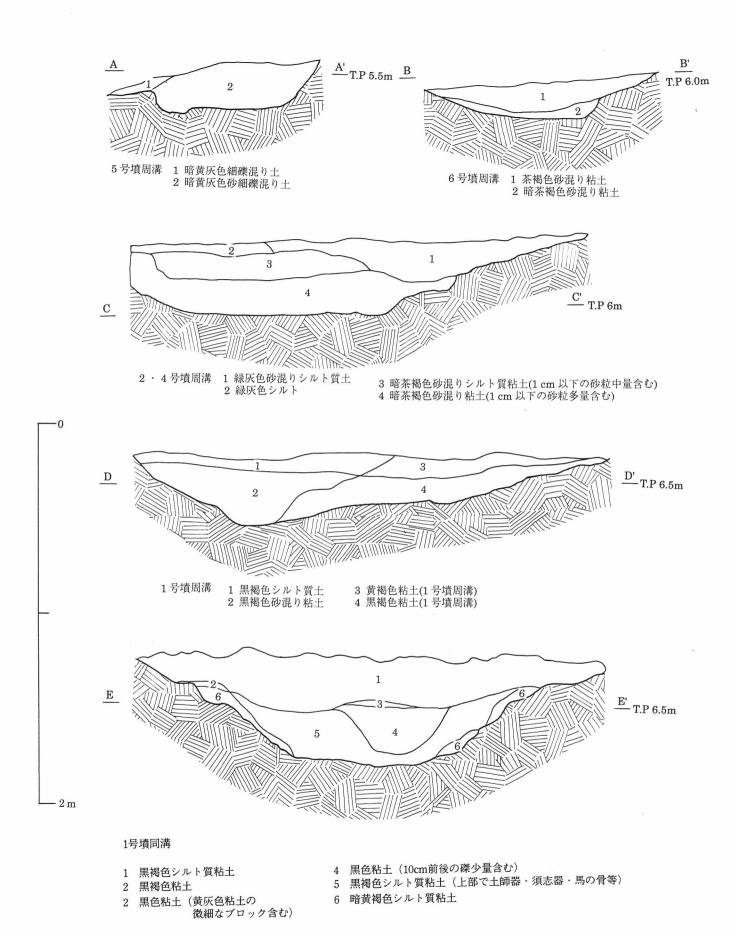
12ラインより東で周溝と墳丘部分を検出した。墳丘は東西約8 m南北約10 m、周溝幅2.8 m深さ0.5 mである。2号墳の西側周溝を切る形で東側周溝と北側周溝を検出した。周溝の断面形は逆台形を呈し、堆積土は、2層に分層(第9図)できる。

北・東側周溝とも削平のためか、本来存在しないのか明らかでないが1画が途切れる。今回検出した他の古墳の周溝の深さから見ると本来途切れていた可能性が高い。周溝内より須恵器・土師器が少量出土しているが細片のため遺物から時期は判断できない。

4号墳

10・11 D地区で周溝を検出した。墳丘は東西12 m 南北不明、周溝幅2.4 m 以上深さ0.4 m である。





第10図 古墳時代中から後期遺構(小型低方墳周溝堆積土)土層断面実測図

2・3号墳の南側周溝を切る形で北側周溝を検出した。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、2層に分層(第9図)できる。周溝内より須恵器・土師器(図352など)少量と、混入品の円筒埴輪の底部破片1点(図351)が出土した。(図382)の須恵器坏身は周溝底部より出土した。(図366)の須恵器甕は6号墳同溝出土品と接合した。周溝内出土須恵器はTK209~217に属す。

5号墳

11~14A地区で周溝検出した。墳丘は東西約12m南北不明、周溝幅3.2m深さ0.5mである。南側周溝と西側周溝の一部を検出した。6号墳に南側周溝を切られる。周溝の断面形は逆台形を呈し、堆積土は、2層に分層(第9図)できる。周溝が完全に埋没した時点で、後述する小石室が築かれる。また、南側中央付近の墳丘裾より、祭祀に用いられたと考えられる須恵器の杯身・蓋が6組と壷1点(図344など)が、まとまめて置かれた状態で出土した。他に須恵器・土師器が出土し、遺物量は1号墳に次いで多い。周溝内出土須恵器はTK47~MT15に属す。

6 号墳

12・13A、12B地区で周溝検出した。墳丘は東西約7m南北7.2m以上、周溝幅1.6m深さ0.4mである。5号墳の南側周溝のほぼ西半分3号墳の西側周溝のほぼ全部を切る形で、北および西側周溝を確認した。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、2層に分層(第9図)できる。周溝内より少量の須恵器・土師器が出土した。完形の須恵器平瓶(図357)は周溝上部堆積土層中から出土した。また、同層より出土した須恵器の大甕(図366)は、4号墳出土のものと接合した。周溝内出土須恵器はMT85~TK43に属す。

7号墳

7・8 B地区において1号墳の北辺に切り合う形で周溝を検出した。東西・南北不明。周溝幅1.6 m深さ0.7mである。1号墳の北側周溝を切るが、一端を検出したに留まり現状では断定できないが、溝の形状と検出層位および須恵器細片が出土しており、古墳の周溝の一部と考える。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、4層に分層(第9図)できる。時期の判断できる遺物は出土していない。他に、調査地西端5・6号墳の西に隣接する縄文海進に起因する傾斜地より、古墳に対する祭祀に関係すると思われるウマの歯や完形の須恵器壷・甕・高杯(図367~371)などが、点在して出土した。

溝

6 ラインより東で 2 条の溝を検出した。以下、説明する。

溝515

3 C地区で検出した東西方向と思われる溝である。東端は調査区外に延びる。長さ240cm以上、幅100cm、深さ10cmである。断面は浅い皿形を呈し、堆積土は茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の土師器・須恵器と弥生時代前期土器が出土した。所属時期は、古墳時代中期後半から後期と考えられる。

溝512

3・4E、6 C地区で検出した南から西よりに湾曲しながら北に走る溝である。南・北端とも調査区外に延びる。長さ21.6m以上、幅0.8m、深さ0.25mである。断面は逆台形を呈し、堆積土は暗茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の土師器・須恵器(図386)と弥生時代前期土器が出土した。1号墳の東側周溝により切られる。遺構の切り合いとTK216に属す遺物からから見て古墳時代中期中頃と考える。

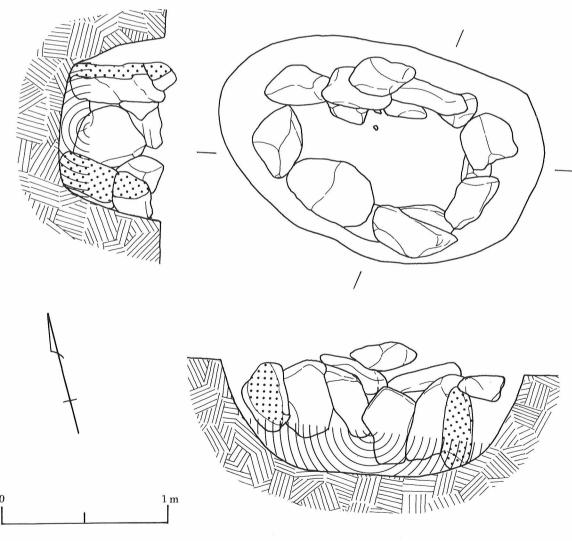
4. 古墳時代後期末から飛鳥時代の遺構

この時期の包含層が、調査地西半で認められることから遺構が存在している可能性もあるが明確なものは知られない。存在しても極くわずかであろう。ただ、小型低方墳(5号墳)の周溝が埋没した段階で造られた小石室を1基検出した。

小石室

6号墳周溝の北2mで検出した。1面が平坦な人頭大からこれよりやや大きめの石を用いて築造した平面が長方形を呈する石室である。石の平らな面を石室内に向け、壁面は2段積みで大きな石を下に小さな石を上に置く。天井石は石室内に落ち込んだ1個を残して削平され存在しない。石室内の埋め土は 土1層で、床面に礫や木炭などは認められなかった。石室の内法は、長辺0.72m短辺0.4m高さ0.48mで墓壙は長辺1.38m短辺0.9m深さ0.48mの平面形は楕円形を呈する。石室内堆積土をすべて水洗したが、混入したと思われる土師器の細片が少量出土しただけで人骨や副葬品と考えられる遺物は出土していない。掘り方も同様である。

時期は、上部を平安時代前期包含層が覆うため平安時代前期以前、古墳時代後期以降であることは 間違いない。石室の形態から見て7世紀後半に属すと考える。



第11図 古墳時代後期末から飛鳥時代遺構(小石室)実測図

5. 鎌倉時代後期の遺構

溝334(幅2.4m・深さ約0.8m)と、溝に囲まれた南北約8m東西45m以上(西端が調査地外に延びる)の島畠を検出した。溝は西に行くほど上部を削平されたためか、深さを減ずる。溝は、当初掘られたものが埋没した後、すぐ側に新しい溝が掘られておりかなり長期にわたって島畠の耕作が行われたことが知られる。遺物は、弥生土器などの混入品が多い。北側にも溝を共有する島畠の存在が想定できる

島畠は、周辺の低地部で現在も見られる掘上げ田と同様の形態であり、段丘先端部にも存在したことが明らかになった。

6. 中世末から近代の遺構

棚田造成後の遺構である。耕作に伴う鋤跡・溝・ピットを、地山・包含層上面からと各床土上面で 検出した。特に床土Aおよび床土C上面で多く検出された。鋤跡は、長さは5 m幅10cm深さ5cm前後 のものが多い。堆積土は、灰褐色シルト質粘土などである。南北方向のものが大半で後述する水路と 並行して認められた。

各遺構内からの遺物は細片がほとんどで、時期を決めるのは困難である。しかし国産陶磁器が少量 見られることから、床土B層とC層は近世に形成されたことは間違いない。

棚田は、最も深いところで0.5m地下げを行い等高線とほぼ並行に南北方向の段を造成している。今回は3個所で確認した。段の西側に水流調節用と考えられる杭を打った幅1m深さ0.6mの水路が認められた。水路は東から1~3と仮称した。段の造成時期は遺物から見て16世紀後半と考えられる。この時期の造成にともない山麓部で一般に認められる石垣は伴っていない。石垣が認められないのは、前述のように本来の地形が緩傾斜地であるため、地下げがさほど必要でなかっためと考えられる。

同様の時期に、鬼塚遺跡・西ノ辻遺跡でも棚田造成が認められ16世紀後半が山麓部における棚田の 開発時期である可能性が高い。

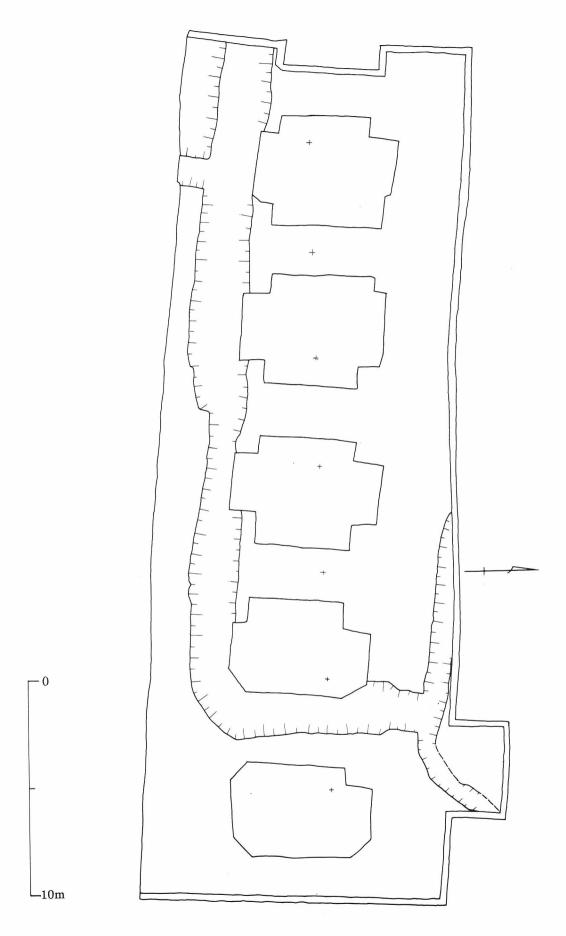
7. 縄文時代の海食崖

遺構ではないが、調査地西端(14ライン付近)で縄文海進に伴う海食崖の一画(傾斜地)を検出した。縄文時代の海食崖は、すでに南約0.6mに位置する鬼虎川遺跡で検出されているが今回はその続きを検出したことになる。今回は海食崖の頂部付近しか検出していない。鬼虎川遺跡と異なり汀線部分まで調査が及んでいないため、縄文時代前期に属す遺物が存在するかどうかは判明しなかった。今後の西側地域での調査に期待したい。

なお、海食崖は古墳時代に一定の堆積が認められるが、平安時代前期までは急な傾斜地として残存していた。調査地においては平安時代前期の層がほぼ水平に堆積していることから、この時期に現在の地形である緩やかな傾斜地となったことが考えられる。



写真1 小型低方墳調査風景



第12図 鎌倉時代後期遺構(溝334)平面実測図

V出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、コンテナ約60個の土器を中心とするものである。遺物の内訳は、多いのが弥生時代前期初頭の土器で、包含層出土のものを含めるとコンテナ約40個ある。ついで古墳時代中期末から後期後半の土器がコンテナ約15個残り約4個が中近世の土器と縄文時代晩期末の凸帯文土器・弥生時代中期土器である。弥生時代前期の石鏃・石斧などもコンテナ約1個分ある。また、獣骨(ウマの骨など)も少量出土した。

なお、土器のうち「在地産」とした土器は、「河内の土器」あるいは「生駒山西麓産」とも呼ばれる胎土に角閃石を含み茶褐色を呈するものである。「他地域産」としたのは、これ以外の土器をさす。 個々の遺物については観察表を作成したのでそれを参照されたい。以下、古い時代から順に説明する。

- 1. 弥生時代の遺物
- 1) 弥生時代前期遺構出土の土器 (第13~21図)

縄文土器

凸帯文土器が極く少数出土した。この時期に使用された土器(縄文系)であるためここで説明する。 深鉢 胎土・色調は弥生土器の砂粒の少ないものとほとんど差がない。粘土紐による内傾接合で成形 する。

弥生土器

畿内第 I 様式古・中段階に属すものが大半であるが、新段階の古い時期とみることのできるものも 少量含まれる。器種は壷・甕・鉢・甕蓋・壷蓋がある。高杯は存在しない。土器は胎土から見て 9 割 以上が在地産で、他地域産は 1 割に満たない。

土器の文様は、量は少ないがへラ描きの重弧文・斜格子文・放射線文・木葉文・竹管文・羽状文・刺突文などと赤色彩文が見られる。赤色彩文は器表の残りが悪いため、鮮明なものはない。甕の頸部外面に施されるへラ描き沈線は2条が多く3条も存在するが、4条以上は認められない。成形は、全て外傾接合である。籾圧痕の付着した土器も見られる。

壷 器形から3種に分類する。

A類 平底あるいは上げ底ぎみに突出する底部と、偏球形の体部から急に細くなる頸部とゆるやかに外反する口縁部をもつ。

B類平底の底部と球形の体部から内傾して立ち上がる頸部と短く外反する口縁部をもつ。

C類 頸部外面に縦方向の密なヘラミガキを施すものである。

胎土は3種とも砂粒を多量に含むものと、さほどでもないものがある。

甕 器形からA~Cの3種類に分類する。

A類 外反する口縁部と頸部の境に1~3条のヘラ描沈線を施す。大半が口縁端部外面中央から下端にかけてヘラによる刻目を施す。沈線の位置は頸部よりやや下がった位置につくものもある。体部は張りの少ないものとやや膨らむがある。

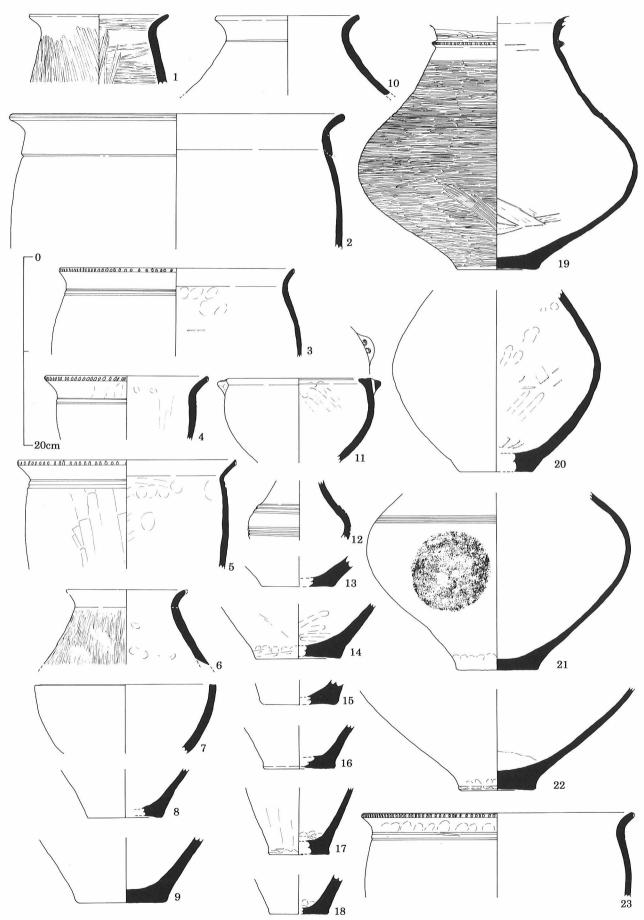
B類 張りの少ない体部から口縁部が外反するものである。口縁部と頸部境の外面に段をもつ。

C類 張りの少ない体部とゆるやかに外反する口縁部をもつ。口縁端部外面中央から下端にかけて へラによる刻目を施すものと刻目をもたないものがある。

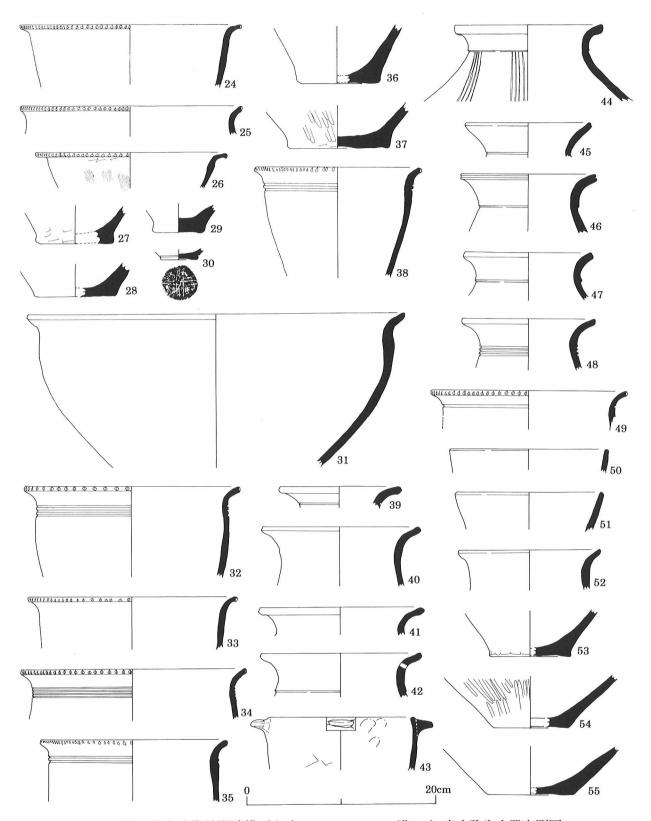
壷と同じく胎土は砂粒を多量に含むものとさほどでもないものがある。

鉢 器形からA・B・C類の3種に分類する。

A類 把手付の鉢である。半球形の体部からゆるやかに内彎する口縁部をもつ。口縁端部は内側に



第13図 弥生時代前期遺構(土壙1・503) 出土弥生土器実測図



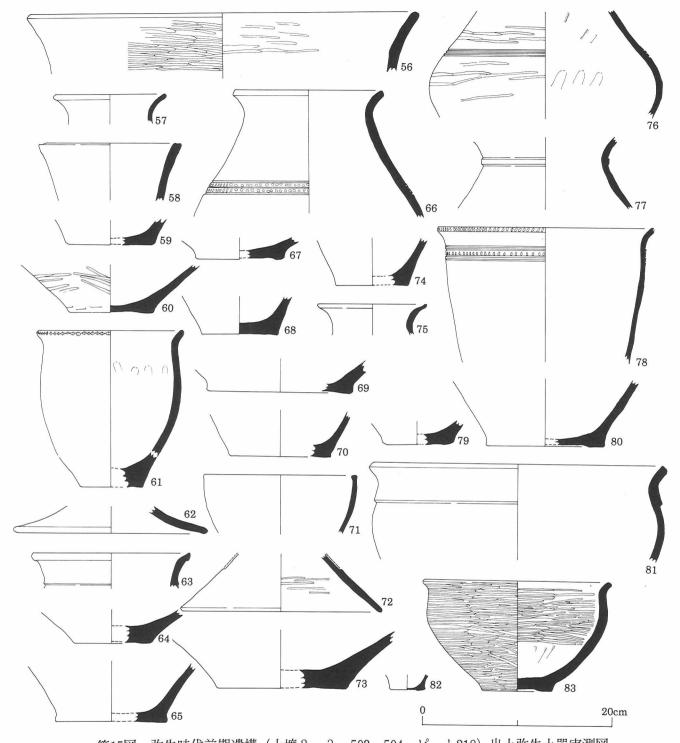
第14図 弥生時代前期遺構(土壙234・410・517、溝508)出土弥生土器実測図

肥厚する。口縁端部外面に相対して把手をつける。把手には焼成前に棒状工具で2個の紐穴をあける。

B類 半球形の体部をもつ直口の鉢である。

C類 口縁部が外反し頸部に段をもつ鉢である。

甕蓋 傘形の器体をもつ。



第15図 弥生時代前期遺構(土壙2・3・503・504・ピット218)出土弥生土器実測図

壷蓋 円板状のものが多くまだ定型化していないものである。

土壙1出土土器(図1~11·13~23)

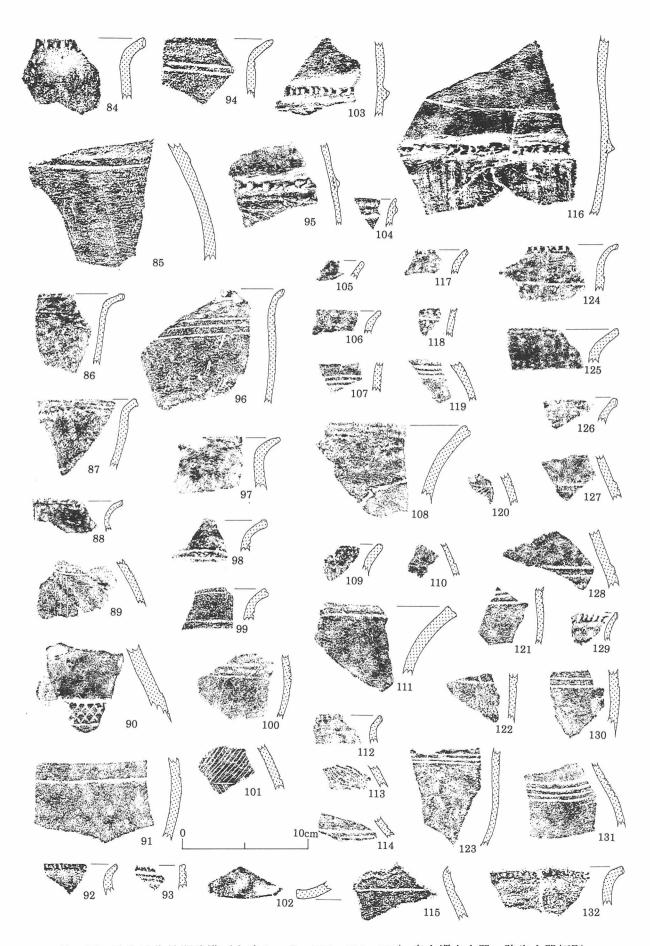
弥生土器

壷 A類 (図10・19など) B類 (図20など) C類 (図1・6) がある。

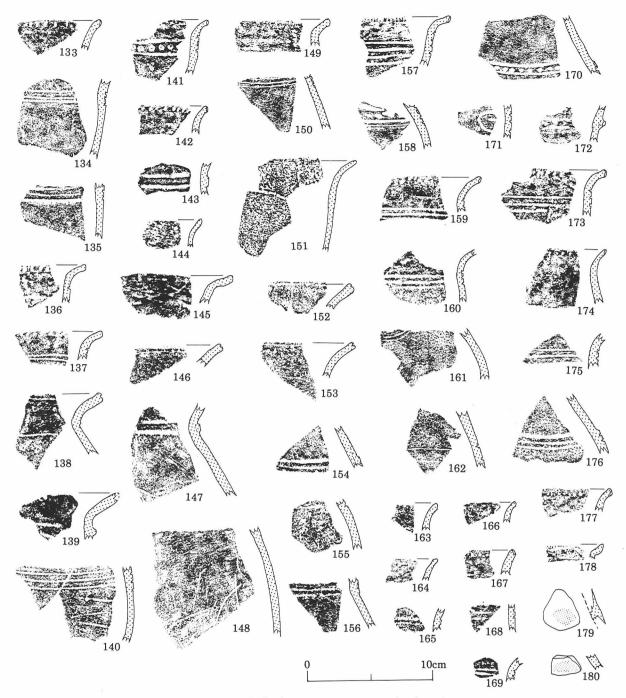
甕 A類 (図3など) B類 (図2など) C類 (図84など) がある。

甕蓋 (図102) が1点出土している。

鉢 A類 (図11) B類 (図7) がある。



第16図 弥生時代前期遺構(土壙1・2・503・504・507)出土縄文土器・弥生土器拓影



第17回 弥生時代前期遺構(土壙234・410・517)出土弥生土器拓影

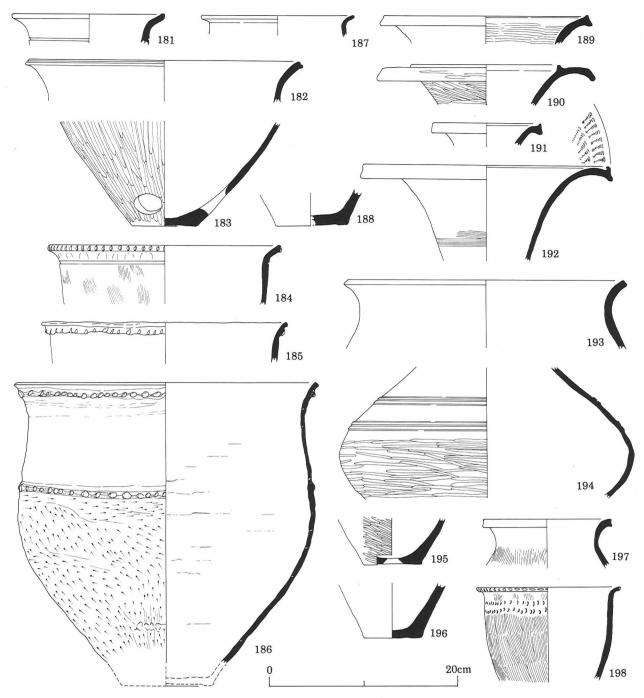
縄文土器

深鉢 2点(図103・116)出土しているがいずれも胴部の破片である。胎土・色調は弥生土器の砂粒の少ないものとほとんど差がない。粘土紐による内傾接合で成形し、体部下半をヘラケズリで調整する。

土壙410出土土器(図24~35・39~43)

弥生土器

- 壷 A類 (図39など) B類 (図40など) がある。赤色顔料を塗布した (図179・180) もある。
- 甕 A類 (図32など) C類 (図24など) がある。
- 鉢 A類 (図43) B類 (図51) C類 (図31) がある。



第18図 弥生時代中期遺構(土壙518、溝505・溝812)出土縄文・弥生土器実測図

土壙234出土土器 (図36~38・44~48)

弥生土器

壷 A類 (図40など) B類 (図46など) がある。(図171) は体部にヘラ描き線刻が見られる。

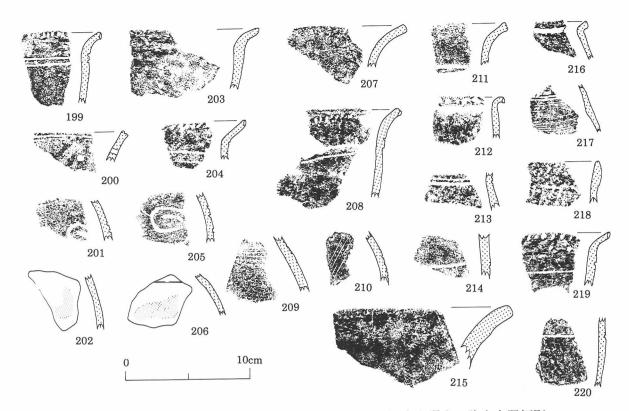
甕 A類(図38など) B類(図149) C類(図142) がある。

土壙517 (図52~55・136~140・145~148・156・165)

弥生土器

壷 A類 (図138など) B類 (図52) がある。(図139・147) のように頸部に削出し凸帯をもつのが 多いが (図138) は段をもつ。

甕 A類 (図137など) C類 (図145) がある。



第19図 弥生時代中期遺構(土壙518、溝505・812)出土縄文・弥生土器拓影

溝508出土土器 (図49・50)

弥生土器

甕 A類 (図49) がある。頸部に1条のヘラ描き沈線を施す。

鉢 B類 (図50) がある。

土壙503出土土器 (12・63~65・72・73・82・86~91・95~101)

壷 A類 (図63) B類 (図99など) がある。(図63) 頸部に段を強調する1条のヘラ描き沈線が施される。削出し凸帯上にヘラ描き沈線で斜格子文を施す(図90)や羽状文(図101)がある。(図12) は小形の壷である。

甕 A類 (図93など) B類 (図91) C類 (図86など) がある。3条のヘラ描き沈線 (図96) や上下に引いたヘラ描き沈線の中に竹管文を施す (図100) が見られる。(図61) の口縁部の刻み目は口縁端部下端から施される。

甕蓋 (図72) がある。内外面に煤が付着する。

縄文土器

深鉢 (図95) がある。体部の破片で貼付け凸帯に施された刻み目はD字形である。

土壙504出土土器 (図61・62・68~71・75・79~81・112~114・121~123・130・131)

弥生土器

壷 A類 (図111) B類 (図75) がある。(図113) は木の葉文が施される。

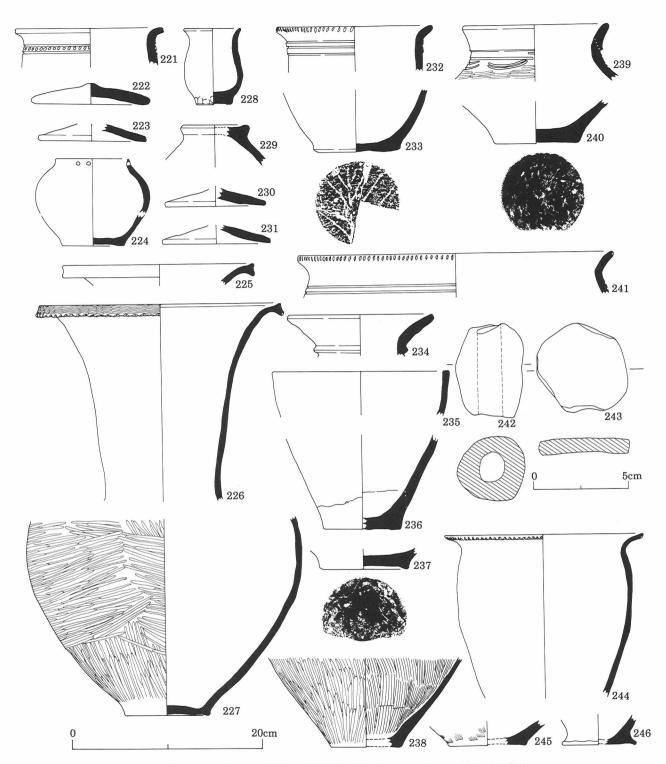
甕 A類 (図121など) C類 (図61) がある。3条のヘラ描き沈線が見られる。(図61) の口縁部の刻み目は口縁端部下端から施される。

甕蓋 (図62) がある。内面に煤が付着する。

鉢 B類(図71) C類(図81)がある。

土壙 2 出土土器(図56~60・66・74・105~110・117~120・124~129)

弥生土器



第20図 包含層(小型低方墳周溝)出土弥生土器・土製品実測図

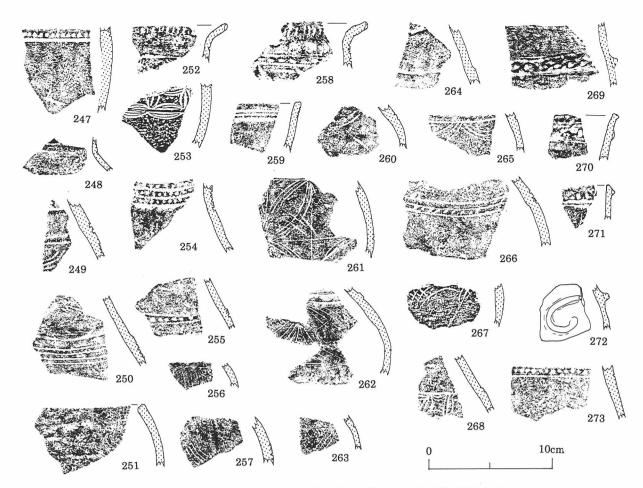
壷 A類 (図57) B類 (図56など) がある。(図66) は肩部にヘラ描き沈線で区画された中に竹管 文が上下に2段に施される。

甕 A類(図124) C類(図118など)がある。(図124)は 1 条のヘラ描き沈線で段を強調する。(図117)などの口縁部端部の刻み目は斜め上から施される。

土壙 3 出土土器 (図67·76~78)

弥生土器

壷 A類 (図77ほか) がある。(図76) は肩部に3条のヘラ描き沈線を施す。



第21図 包含層(小型低方墳周溝他)出土縄文・弥生時代前期土器拓影

甕 A類 (図78) がある。上下各 2 条のヘラ描き沈線で区画した中央に楕円形の刺突文を施す。 他に遺構出土土器として、ピット218から鉢 C 類 (図83) が 1 点、土壙507から縄文土器の口縁部 (図104) が 1 点出土した。

2) 包含層出土の弥生時代前期土器・土製品(第20~21図)

弥生時代中期の遺構、小型低方墳の周溝や包含層から多量の土器が出土した。全て図示していないが壷・甕・鉢・甕蓋・壷蓋と土錘(図242)・土製円板(図243)および縄文土器の深鉢が6点(図185・186・182・269~271)ある。高杯および紡錘車は出土していない。

3) 弥生時代中期の土器(第18~20図)

遺構と包含層(小型低方墳の周溝を含む)から少量の畿内第II様式に属す土器が出土した。

土壙518出土土器(図183·189~192·216)

壷 (図189~192) と鉢 (図216) が出土した。底部近くの体部に穿孔された (図183)がある。

溝505出土土器 (図197他)

壷 (図197) が出土した。

溝812出土土器 (図217他)

壷の体部(217)が1点出土した。外面に櫛描き直線文が施される。

4) 弥生時代の石器 (第22・23図・図版46~52)

遺構・包含層より石鏃・石錐・ピエス、エスキエ・石匙・石核・凸刃削器・複刃石器・削器・石斧・砥石の製品と剥片が出土した。個々については、一覧表(表 2)を作成したので参照されたい。この他に、多数の剥片(総数442点)が出土している。なお、サヌカイト石材の産地を併記したが、報告者の肉眼観察によるものである。参考程度に記したが、いずれ理化学的な産地同定を行いたいと考えている。最終的な石材産地はそれをもって確定したい。

出土した弥生土器のほとんどが前期であるので大半が同時期のものと思われるが、出土土器と同様 少数の中期に属すものがある。

石鏃 全部で39点(図1~8など)出土したが前期に属すのは35点で1類の凹基無茎式が多く(31点)2類の平基無茎式(4点)も存在する。未製品1点と、縄文時代晩期に見られる五角形鏃(図版47-25)も1点存在する。最大長が1cmの小形品も含まれる。金山産が約8割を占めると思われる。

5類とした凸基有茎式は2点(図13など)で形態から見て中期に属す。石材は二上山産と考える。 石錐 15点(図9~12など)出土した。一部、中期に属すものが含まれると思われるが、識別できない。棒状を呈する3類7点、不定形な大きい頭部と短い錐部をもつ4類1点、逆L字状の形態をもつ5類7点である。5類が多いのが特徴でこれは前期に属すと考えて良いであろう。金山産は12点、8割と考える。

ピエス・エスキエ 10点 (図版50-63~72など) 出土した。金山産は6点、6割と考える。

石匙 2点(図14・図版51-74)出土した。金山産は1点、約1割と考える。

石核 1点(図版51-75)出土した。二上山産と考える。

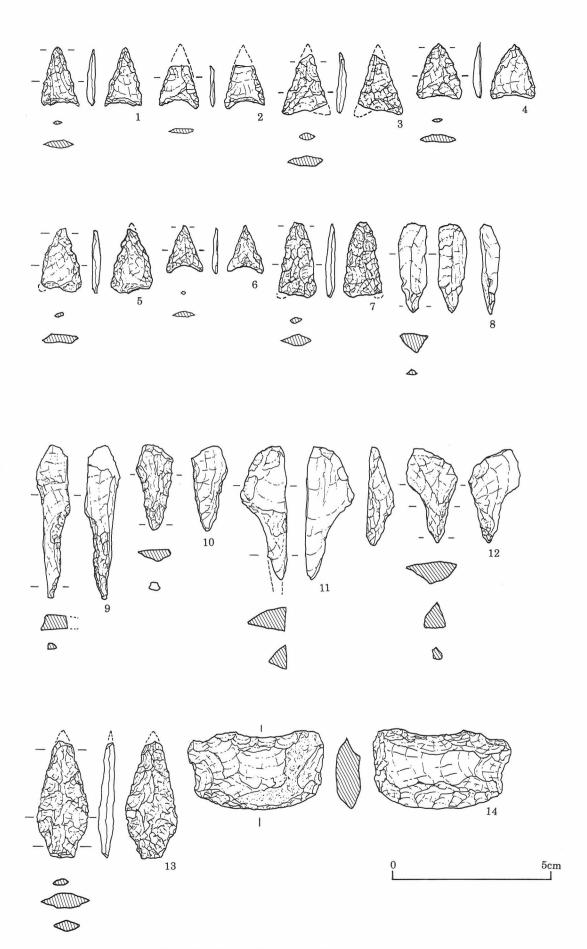
凸刃、複刃削器・削器各1点(図版48・51-52・53・73)ある。金山産は2点、約7割と考える。

石斧 2点(図15・17)出土した。太型蛤刃石斧で石材は角閃石安山岩とハンレイ岩である。包含層出土であるが形態から、ともに前期に属すと考える。

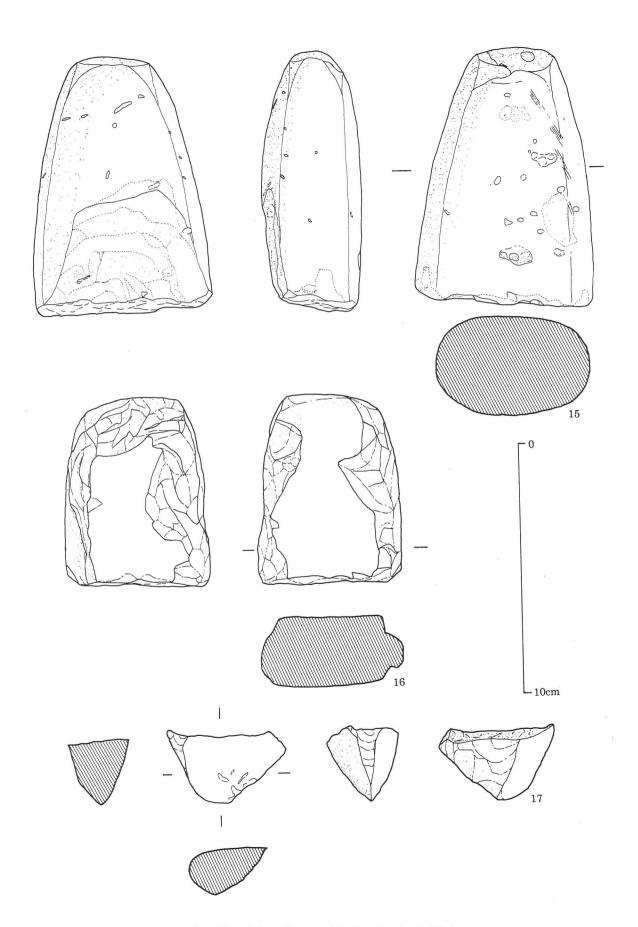
砥石 1点(図16)出土した。ハンレイ岩製で古墳時代包含層出土であるが形態から前期に属すと 考える。形態は石斧に似るがもろい材質から砥石と判断した。

1 dest	0.45			4 類		5	類
1類	2 類	3 類	a	b	С	a	b
1類	2 類	3 類	4 類	5 類			

表1 石鏃・石錐形態分類表(河内平野遺跡群の動態IIIより、一部改編)



第22図 弥生時代石器 (石鏃・石匙) 実測図



第23図 弥生時代石器 (石斧・砥石) 実測図

表 2 弥生時代石器一覧

			_			- 1 -	e le		7-11	残存状況
番号	挿図番号 図版番号	器種	型式	出土地区・遺構・層名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材 産地	发仔认况
1	13 46-13	石鏃	5 類 a 形態	東地区東床土 溝 150	3.65	1.59	0.49	2.4	サヌカイト 二上山	先端欠失
2	7 46-7	石鏃	1類	4A 層 12B	2.38	1.18	0.36	0.8	サヌカイト 二上山	先端欠失 基端欠失
3	6 46-6	石鏃	1類	4B 層 11B	1.49	1.19	0.19	0.2	サヌカイト 二上山	先端欠失
4	5 46-5	石鏃	1 類	中地区 4B 層上面 溝 700	2.02	1.28	0.27	0.7	サヌカイト 金山	先端欠失
5	4 46-4	石鏃	1 類	中地区3層	1.82	1.14	0.25	0.5	サヌカイト 金山	完形
6	3 46-3	石鏃	1 類	M 層 11B	1.65	1.40	0.3	0.6	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
7	2 46-2	石鏃	1 類	4B 層 11C	1.60	1.45	0.4	0.3	サヌカイト 二上山	先端欠失
8	1 46-1	石鏃	1類	4 層 12A	1.75	1.20	0.3	0.4	サヌカイト 金山	完形
9	48-51	石鏃	5類b形態	溝 503	3.25	1.70	0.5	2.3	サヌカイト 二上山	先端欠失
10	47-35	石鏃	1類	中地区 12D 溝 334	1.75	1.75	0.4	1.2	サヌカイト 金山	先端欠失
11	48-40	石鏃	1類	4B 層 9C	2.30	1.70	0.5	1.4	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
12	47-21	石鏃	1 類	4B 層 9C	2.75	1.90	0.5	1.7	サヌカイト 金山	先端欠失
13	47-24	石鏃	1 類	4A 層 11B	2.80	1.95	0.5	1.4	サヌカイト 金山	先端欠失
14	47-28	石鏃	2 類	4A 層 12B	1.60	1.65	0.3	0.7	サヌカイト 二上山	先端欠失
15	47-25	石鏃	1類	4A 層 5C	1.55	1.60	0.25	0.8	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
16	48-49	石鏃	2 類	4B 層 9C	1.65	1.40	0.5	1.3	サヌカイト 二上山	先端欠失
17	47-27	石鏃	1 類	4A 層 12B	2.35	1.25	0.3	1.0	サヌカイト 金山	完形
18	48-43	石鏃	1類	4B 層 4E	1.15	1.65	0.3	0.5	サヌカイト 金山	先端欠失
19	47-30	石鏃	1類	4 層上面 溝 502	1.80	1.15	0.2	0.4	サヌカイト 二上山	先端部欠 失
20	47-23	石鏃	1 類	4A 層 8C	2.20	1.65	0.4	1.3	サヌカイト 金山	基端欠失
21	48-47	石鏃 (未製品)		4D 層上面 11C	2.10	1.90	0.6	2.8	サヌカイト 金山	
22	48-42	石鏃	1類	4A 層 6D	1.90	1.65	0.3	1.1	サヌカイト 金山	基端欠失
23	48-45	石鏃	1 類	4A 層 10B	1.45	1.35	0.4	0.6	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
24	47-32	石鏃	1類	5E 溝 450	1.55	1.55	0.3	0.6	サヌカイト 金山	先端欠失

番号	挿図番号 図版番号	器 種	型式	出土地区・遺構・層名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材 産地	残存状況
25	48-48	石鏃	5 角形	4A 層 6D	1.00	1.75	0.3	0.9	サヌカイト 二上山	先端欠失 基部欠失
26	48-39	石鏃	2 類	4D 層 12B	1.25	1.95	0.4	1.2	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
27	47-22	石鏃	1類	4A 層 5C	2.35	1.60	0.7	2.4	サヌカイト 金山	基端欠失
28	48-46	石鏃	1類	4A 層 8D 溝 456	2.55	1.85	0.3	1.8	サヌカイト 金山	基端欠失
29	47-38	石鏃	2 類	東地区東3層	2.30	1.75	0.3	1.1	サヌカイト 二上山	基端欠失
30	47-34	石鏃	1類	4B層 9C	1.65	1.65	0.2	0.5	サヌカイト 金山	基端欠失
31	47-20	石鏃	1類	4B 層 9C	2.65	2.15	0.3	1.1	サヌカイト 金山	先端欠失
32	47-29	石鏃	1類	4A 層 8C	1.25	1.85	0.4	0.7	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
33	48-41	石鏃 (未製品)		東地区中 溝 334	2.45	1.55	0.4	1.6	サヌカイト 金山	
34	48-44	石鏃	1類	東地区中床土	2.15	1.55	0.5	1.3	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
35	47-26	石鏃	1類	4A 層 9C	2.35	1.35	0.3	0.6	サヌカイト 金山	基端欠失
36	47-33	石鏃	1類	5 層上面 溝 811 上層	1.25	1.40	0.3	0.9	サヌカイト 金山	完形
37	47-37	石鏃	1類	表採	1.95	1.00	0.2	0.4	サヌカイト 金山	基端欠失
38	47-31	石鏃	1 類	4A 層 11B	1.50	1.85	0.4	1.0	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
39	47-36	石鏃	1類	5 層上面 12C ピット 410	1.40	1.60	0.3	0.8	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
40	9 46-9	石錐	5 類	4B層 7C	4.82	0.93	0.59	4.4	サヌカイト 金山	完形
41	12 46-12	石錐	5 類	東地区中床土 溝 236	3.01	1.47	0.81	2.7	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
42	8 46-8	石錐	3 類	西地区 13A 水路 3	2.80	0.73	0.68	1.1	サヌカイト 金山	完形
43	10 46-10	石錐	3 類	東地区中3層	2.64	1.13	0.47	1.1	サヌカイト 金山	完形
44	11 46-11	石錐	5類	6E 溝 450 上層	4.14	2.68	0.85	2.6	サヌカイト 二上山	錐部先端 欠失
45	49-56	石錐	5類	ピット2	2.30	1.85	0.40	1.5	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
46	49-57	石錐	3類	4D 層 12C	4.40	1.40	0.9	4.9	サヌカイト 二上山	錐部先端 欠失
47	49-59	石錐	5 類	4D 層 12C	5.45	1.75	1.50	12.3	サヌカイト 金山	完形
48	49-62	石錐	3類	5 層 溝 508D	4.95	1.55	0.6	4.4	サヌカイト 完形	完形
49	49-61	石錐	3 類	東地区東 4 層 溝 334	4.05	1.35	0.8	3.8	サヌカイト 二上山	完形

番号	挿図番号 図版番号	器種	型 式	出土地区・遺構・層名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材 産地	残存状況
50	49-55	石錐	3 類	東地区西 3 層	3.30	1.15	0.7	2.6	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
51	49-60	石錐	5 類	東地区中 溝 334	5.15	1.70	0.5	14.2	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
52	49-54	石錐	4 類	5 層上面 11C ピット 403	2.35	2.40	0.5	2.4	サヌカイト 金山	完形
53	48-50	石錐	3類	東地区東床土 溝 170	2.65	1.15	0.7	1.4	サヌカイト 金山	完形
54	49-58	石錐	5 類	5 層上面 12C ピット 410	2.35	1.45	0.6	2.2	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
55	50-69	ピエス・ エスキーエ		4D 層 12C	2.05	2.95	0.8	4.4	サヌカイト ニ上山	完形
56	50-65	ピエス・ エスキーエ		東地区東第3層	4.15	4.10	0.6	13.8	サヌカイト 金山	完形
57	50-63	ピエス・ エスキーエ		4A 層 12A	2.05	2.35	0.7	4.9	サヌカイト 金山	完形
58	50-67	ピエス・ エスキーエ		4A 層 10C	3.45	1.85	0.7	4.2	サヌカイト 金山	完形
59	50-70	ピエス・ エスキーエ		東地区中 4 層 溝 334	3.95	3.40	1.0	19.4	サヌカイト 二上山	完形
60	50-71	ピエス・ エスキーエ		4B 層 4D 溝 459	2.55	1.85	0.5	2.2	サヌカイト 二上山	完形
61	50-68	ピエス・ エスキーエ		4B 層上面 10D	1.45	2.05	0.6	2.7	サヌカイト 金山	完形
62	50-64	ピエス・ エスキーエ		4B 層 11C	2.85	3.45	0.9	11.5	サヌカイト 金山	完形
63	50-72	ピエス・ エスキーエ		4A 層 9B 溝 455	3.55	2.80	0.7	7.6	サヌカイト 二上山	完形
64	50-66	ピエス・ エスキーエ		4A 層 8C	2.85	2.55	0.8	5.5	サヌカイト 金山	完形
65	14 46-14	石匙		4B 層 8B	4.35	2.40	0.9	12.4	サヌカイト 二上山	完形
66	51-74	石匙		5 層 溝 508E9E	4.40	5.65	0.7	16.4	サヌカイト 金山	完形
67	48-52	凸刃削器		5 層上面 12B 溝 800	6.15	4.50	0.8	22.1	サヌカイト 金山	完形
68	51-73	複刃削器		4B 層 8E	8.75	6.45	1.2	76.0	サヌカイト	完形
69	48-53	削器		5E 溝 450	5.50	8.35	0.9	28.3	サヌカイト 金山	完形
70	51-75	石核		6D 島東壁	5.75	7.25	2.1	100.9	サヌカイト 二上山	完形
71	15 52-15	大型蛤刃 石斧		4B層 8C	10.25	7.05	3.9	460.0	角閃石 安山岩	先端欠失
72	17 51-17	大型蛤刃 石斧		5 層 溝 505 北	3.05	4.75	2.6	32.4	ハンレイ岩	刃部残存
73	16 52-16	砥石		4A 層 11B	5.65	7.55	2.8	248.3	ハンレイ岩	完形

2. 古墳時代の遺物 (第24~29図)

古墳時代の土器は、前述の様に5世紀後半から6世紀後半の須恵器・土師器・韓式土器が見られる。 韓式土器は、軟式のものである。古墳に供献されたものが多く、完形品が多い。須恵器は群集墳に副 葬されたいわゆる副葬用の須恵器と共通の器種が存在する。

1) 小型低方墳出土の遺物

1号墳出土遺物(第24~26図)

土師器 (図281・282・284・286・288~292・293・301・304・305)

角閃石を含む在地産のものと他地域産の2者がある。

甕(図286・292・293・301・304・305) と高杯(281・282・284・288~291) がある。甕は口縁端部を内側にわずかに肥厚させる布留系の(図293・304・305) と口縁部を肥厚させない(図286・292・301) がある。(図288) は口縁部が外反する高杯である。

製塩土器 (図279・280)

図示したのは外面が無文である。大半は同類であるが、平行タタキを施すものが少量認められる。 韓式土器 (図274・276・295・296・303・306)

胎土からみると角閃石を含む在地産のものと他地域産の2者があるが、外面にタタキの施されるものは、全て他地域産である。

長胴甕(図274)鍋(図295)甕(図276・303・306)甑(図296)がある。(図274)は器体外面と口縁部内面をハケで仕上げる。(図303・306)は外面に格子タタキが施される。(図303)は体部中位の穴部分の破片は同時に出土し接合した。(図276)は体部外面に平行タタキを施した後へラ削りする。(図296)は外面に縄蓆文タタキを施す。把手下面中央に竹管による刺突が1箇所認められる。甑は他に外面をハケで仕上げる在地産のものが出土している。

須恵器 (図300・309~311・314・315・318~320)

有蓋高杯蓋 (図315) ・蓋杯 (図309~311) 壷 (図300) 椀 (図314) 高杯 (図319・320) 甕 (図318) がある。(図310) は、天井部外面のヘラ削りは逆時計回りである。(図321) は杯部内面に火ぶくれが 認められる。いずれも焼成は良好である。

金属製品 (図297~299)

鉄鏃(図298)現存長11.cm、最大刃幅1.3cmの長頸鏃である。茎の先端を欠失する。他に馬具の可能性がある破片が2点(図297・299)出土した。

出土遺物は、須恵器型式のTK216~TK208に属すと考える。

2号墳出土遺物 (第28図)

須恵器 (図358~360·362·364)

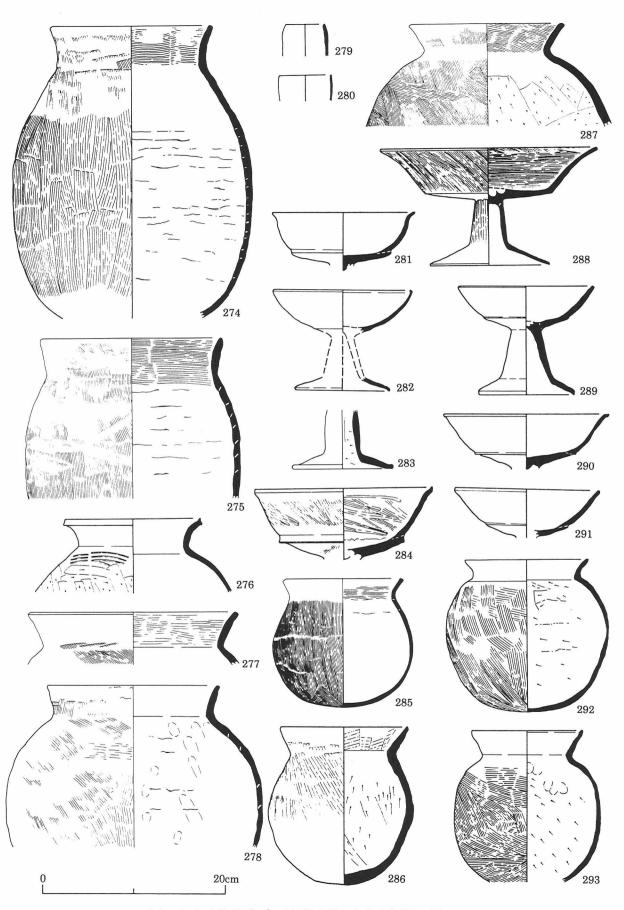
壷 (図358) ・甕 (図362) 杯蓋 (図359・360) ・有蓋高杯 (図364) がある。(図359) は口径 12.7cm天井部外面を時計回りでヘラ削りする。(図364) は類例の少ない大型の製品である。杯底部内面に一部ナデにより消され、はっきりしないが青海波ないしは同心円のタタキが認められる。

土師器は図示できるものがない。(図364) は、やや古い要素を残すが他は須恵器型式のTK208に属すと考える。

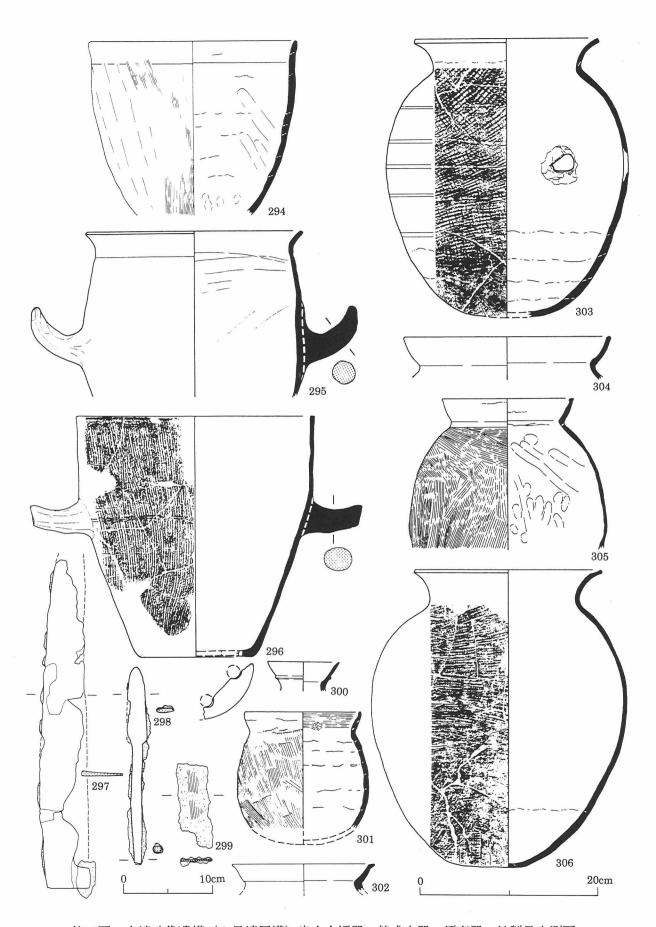
4号墳出土遺物(第28・29図)

須恵器(図365・366・382)

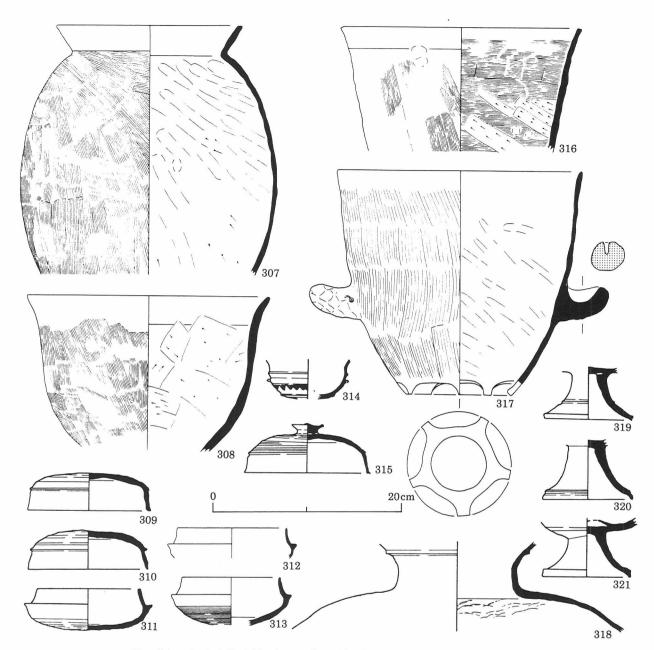
甕(図366) 杯身(図382) 脚付壷(図365) がある。(図366) は上述のごとく 6 号墳周溝出土品と接合した。



第24図 古墳時代遺構(1号墳周溝)出土土師器・製塩土器実測図



第25図 古墳時代遺構(1号墳周溝)出土土師器・韓式土器・須恵器・鉄製品実測図



第26図 古墳時代遺構(1号墳周溝)出土土師器·須恵器実測図

土師器 (図352・353)

杯(図352)羽釜(図353)がある。(図352)は内面に放射状の暗文が認められる。

円筒埴輪(図351)底部径13cmの小型品である。外面に縦方向のハケを施す。今回の調査で出土した唯一の埴輪である。

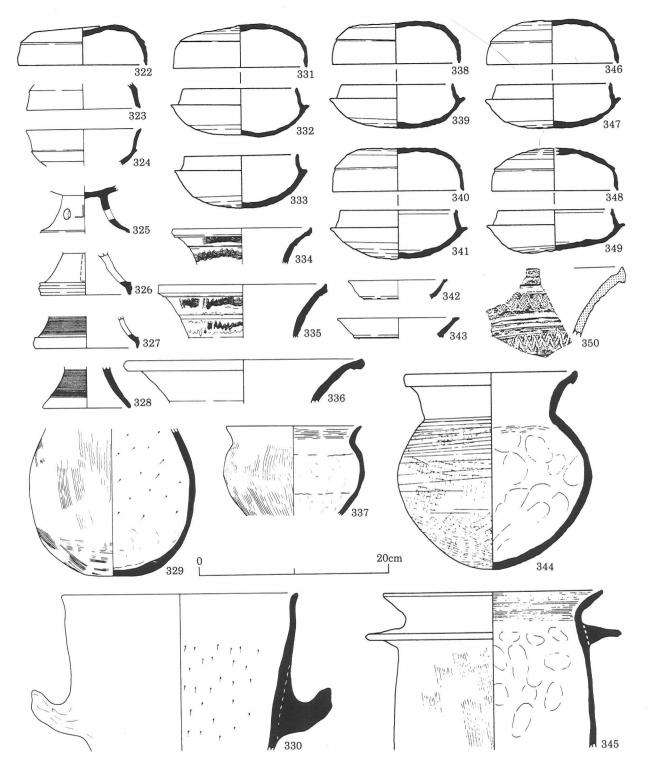
出土遺物は、須恵器型式のTK209~TK217に属すと考える。したがって、円筒埴輪は混入品と判断できる。

5号墳出土遺物(第27図)

須恵器 (図322・325~328・331~333・338~341・344・346~350)

蓋杯 (図322・331~333・338~341・346~349) 有蓋高杯 (325~328) 壷 (344) などがある。 (322・333) は出土状況から見て本来組み合っていたものと考える。

土師器 (図309・330・337・345)



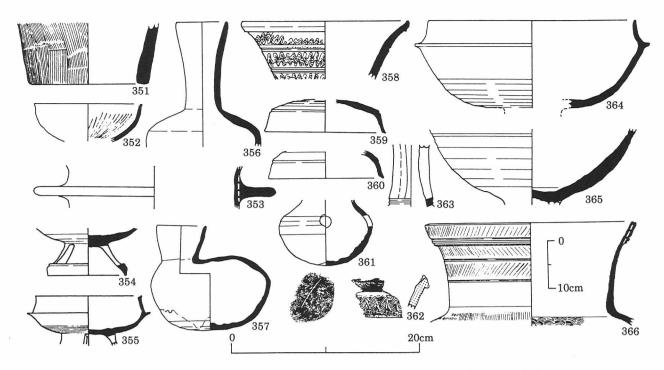
第27図 古墳時代遺構(5号墳周溝)出土土師器・須恵器実測図

在地産の羽釜(図345)と甕(図337)・甑(図330)・小型壷などが出土している。出土遺物は、 須恵器型式のTK47~MT15に属すと考える。この時期の羽釜は数少ない資料である。

6号墳出土遺物 (第28図)

須恵器 (図356・357・361・363・366)

長頸壷 (図356) 曃 (図361) 高杯 (図363) 平瓶 (図357) 甕 (図366) などがある。



第28図 古墳時代遺構(4・6号墳周溝)出土土師器・須恵器実測図

十師器

図示できるものがない。(366) を除き須恵器型式のTK43~TK209に属すと考える。

2) 傾斜地出土遺物(第29図)

土師器・須恵器・砥石・ウマの歯などが出土した。土師器は図示できるものがない。

須恵器 (図367~371)

甕(図367・368) 壷(図369) 高杯(図371) がある。(図368) は体部外面に平行タタキを施す。 (図369) は蓋がつく壷である。頸部外面に波状文を施す。

出土遺物は、(図367~370) が須恵器型式のMT15~TK10に(図371) がTK209に属すと考える。 したがって、(図367~370) は5号墳に(図371) は6号墳に伴う祭祀に用いられたものと考えられる。

3) その他遺構出土遺物(第29図)

溝512・515から須恵器が少量出土したが図示できるのは溝512出土品である。

溝512出土遺物

須恵器 (図386)

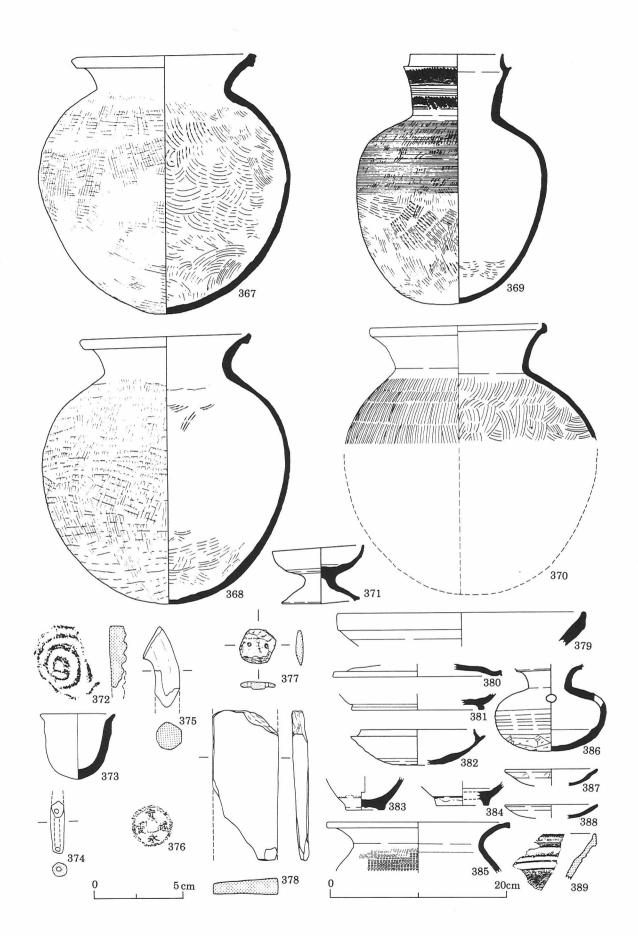
聴が1点出土した。現存器高9.8cm□縁部を欠失するが、他は完存する。底部に手持ちヘラ削りを施す。TK216に属すと考える。

4) 包含層出土遺物

少量の韓式土器・須恵器・土師器と石製品が出土した。石製品は(図377)は包含層出土の径 2 cm の滑石製双孔円板である。今回の調査では滑石製品はこれ一点が出土した。

3. 奈良時代以降の遺物 (図380・381・383・384・387・388)

奈良時代から平安時代前期に属す少量の須恵器・緑釉陶器などがある。図示できるのは須恵器の蓋(図380) 杯(図381) である。鎌倉時代後期から近世の遺物で図示できるのはは、13世紀前半の土師器小皿(図387・388) と15世紀後半の和泉型瓦器擂鉢(図379) 15世紀代の龍泉窯系青磁椀(図384) 17世紀代の肥前陶器(図383) がある。



第29図 古墳から江戸時代遺構・包含層出土土師器・須恵器・国産陶器・石製品・古銭他実測図

出土遺物観察表

		T				3.1公中(1.2/				
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
1	土壙1	弥生土器	壺	口径 (14.3) 器高 (7.4)	・口縁部ヘラミガ キ ・体部ヘラミガキ	・□縁部ヨコナデ ・体部ヘラミガキ	内面10YR4/4 褐色 10YR1.7/1 黒色 外面10YR4/4 褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 雲母中量	口縁部 ~体部 1/4	• 内面煤付着 • 在地産
2	土壙1	弥生土器	塑	口径 (34.5) 器高 (14.2)	・ナデ	・口縁端部へラ描 沈線・口縁部ヨコナデ・頭部横方向のナデ・肩部段をもつ (やや風化している)・体部ナデ	内面10YR 3/1~3/2 黒褐色 外面10YR4/3 にぶい黄褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量 微細な雲母微量	口縁部 ~体部 1/5	・内面煤付着 ・在地産
3	土壙 1	弥生土器	甕	口径 (24.4) 器高 (9.3)	ロ縁部と体部の境 ユビオサエ体部ナデ(工具痕 あり)	・口縁端部刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・肩部ヘラ描沈線 2条 ・ナデ(板ナデ?)	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 微細な雲母微量	口縁部 ~体部 1/10	• 在地産
4	土城1	弥生土器	甕	口径 (16.8) 器高 (6.7)	・体部ナデ (工具痕 あり)	・口縁端部刻み目 ・口縁端ヨコナデ ・頸部へラ描沈線 2条 ・ナデ(板ナデ?)	内面10YR5/1 褐灰色 7.5YR6/4~ 7/4 にぶい橙色 外面10YR5/1 褐灰色 7.5YR6/4~ 7/4 にぶい橙色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量 微細な雲母微量	口縁部 ~体部 1/5	・在地産
5	土城1	弥生土器	獲	口径 (22.8) 器高 (11.5)	・口縁部と体部の境 ユビオサエ ・細かいハケメ後 ナデ (やや風化している)	 口縁端部刻み目 口縁端ヨコナデ・ユビオサエ 肩部ヘラ描沈線2条 縦方向のナデ 	にぶい黄褐色	少量 クサリ礫微量	口縁部 ~体部 1/4	・在地産・外面に黒斑あり
6	土城1	弥生土器	壺	頸径 (11.0) 器高 (7.9)	・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ・体部ヘラミガキ	内面2.5Y8/2 灰白色 外面7.5YR 6/4~6/6 にぶい橙色 ~橙色	4.0以下の長石 多量 黒色砂粒少量 クサリ礫・雲母 微量	口縁部 ~肩部 1/4	• 他地域産
7	土壙 1	弥生土器	鉢	口径 (19.0) 器高 (7.2)	The second secon	・風化のため調整 不明	内面7.5YR5/1 褐灰色 外面7.5YR 6/4~6/6 にぶい橙色 ~橙色 7.5YR3/1 黒褐色	4.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 多量クサリ礫	口縁部 ~体部 1/8	• 在地産
8	土城1	弥生土器	甕底部	器高 (5.1) 底径 (7.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	を 内面10YR4/3 にぶい黄褐色 外面10YR5/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量	底 部 1/5	・在地産
9	土壙 1	弥生土器	甕底部	居 器高 (6.9) 底径 (8.4)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の角閃石 ・長石多量	底 部 1/2	• 在地産
10	土壙 1	弥生土器	壺	口径 (14.8) 器高 (8.4)		・口縁部ヨコナデ・頸部段をもつ	内面10YR8/1 灰白色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色	3.0以下の長石 多量白色砂粒・ 黒色砂粒多量	口縁部 ~体部 1/5	・他地域産

***		1			調整・	手注				
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
11	土壙1	弥生土器	把手付鉢	口径 (14.9) 器高 (8.9)	・ユビオサエ残る (風化のため調整 不明)	口縁部に把手を施し2孔を穿つ風化のため調整不明	内面2.5Y5/1 黄灰色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色	4.0以下の長石 多量 3.0以下の角閃石 中量 微細な雲母少量	口縁部 ~体部 1/5	• 在地産
12	土壙503	弥生土器	壺	器高 (6.1)	・風化のため調整不明	・肩部段の上にヘ ラ描沈線2条 ・体部細いヘラ描 沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい橙色 外面7.5YR5/4 にぶい橙色 断面7.5YR5/4 にぶい橙色	1.0以下の雲母 ・クサリ礫少量 3.0以下の長石・ 角閃石多量	1/3	• 在地産
13	土壙1	弥生土器	壺底部	器高 (3.1) 底径 (7.7)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	内面7.5YR4/2 灰褐色 外面7.5YR4/4 褐色	4.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石 多量雲母少量	底 部 1/7	・在地産
14	土城1	弥生土器	壺底部	器高 (5.8) 底径 (8.9)	・ナデ	・板ナデ? ・底部ヘラケズリ	内面10YR 4/1~2/1 褐灰色~黒色 外面10YR7/3 にぶい黄橙色	3.0以下の長石 多量 微細な黒色砂粒 中量 微細な雲母微量	体 部 〜底部 1/4	・他地域産 ・内面煤付着
15	土壙1	弥生土器	甕底部	器高 (2.5) 底径 (7.6)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明	10YR5/4~3/2 にぶい黄褐色 ~黒褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量クサリ礫微 量	底 部 1/3	・在地産 ・内外面とも風 化著しい
16	土城1	弥生土器	甕底部	器高 (4.6) 底径 (7.4)	・風化のため調整 不明	・底部ヨコナデ (風化している)	内面2.5Y6/2 灰黄色 外面5YR 4/2~4/3 灰褐色 ~にぶい赤 褐色	6.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量クサリ礫・ 雲母微量	底 部 1/4	・在地産
17	土城1	弥生土器	甕底部	器高 (7.0) 底径 (6.2)	・体部ナデ	体部板ナデ?・底部ナデ	内面10YR5/4 にぶい黄褐色 外面5YR 5/4~4/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石 少量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 微量 微細な白色砂粒 ・黒色砂粒多量		・在地産・外面火をうける
18	土壙 1	弥生土器	甕底部	器高 (4.2) 底径 (6.2)	・ナデ	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量雲母微量ク サリ礫少量	底 部 1/4	• 在地産
19	土壙 1	弥生土器	壺	頸径 (12.9) 器高 (26.8) 底径 (8.3) 腹径 (29.6)	・ナデ	・頸部に1条の凸帯刻み目・体部ヘラ描沈線3条・ヘラミガキ	灰白色	3.0以下の長石 多量雲母少量	体 部 ~底部 1/2	• 他地域産
20	土壙 1	弥生土器	壺	器高 (19.1) 底径 (7.6)	・ハケメ後ナデ	・風化のため調整不明	内面10YR 4/1~2/1 褐灰色~黒 色 外面10YR7/3 にぶい黄橙色	3.0以下の長石 多量 微細な黒色砂粒 中量 微細な雲母微量		• 在地産

番					調整・	手法		A ALGLES ()	TH: #	備考
母号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	加 考
21	土壙1	弥生土器	壺	器高 (18.6) 底径 (8.7) 腹径 (27.8)	・風化のため調整 不明	・肩部ヘラ描沈線 3条 ・底部ユビオサエ後 ヨコナデ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/2 灰褐色	3.0以下の長石・ 角閃石多量雲母 微量	底部完形 体 部 2/5	• 在地産
22	土壙1	弥生土器	壺	器高 (10.6) 底径 (8.2)	・風化のため調整不明	・底部接合部のユ ビナデ痕あり ・風化のため調整 不明	内面2.5Y6/1 黄灰色 外面7.5YR 6/4~5/3 にぶい橙色 ~にぶい褐 色	6.0以下の長石・ 5.0以下の角閃石 多量クサリ礫・ 雲母微量	体 部 〜底部 1/3	・在地産 ・外面一部に黒 斑あり
23	土壙1	弥生土器	甕	口径 (28.1) 器高 (8.9)	・風化のため調整 不明	口縁端部刻み目ロ縁部ヨコナデ肩部ヘラ描沈線2条	7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 中量 5.0以下の角閃石 多量クサリ礫微 量	口縁部 ~体部 1/3	• 在地産
24	土壙234	弥生土器	蓮	口径 (23.2) 器高 (6.5)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR4/3 によい赤褐色 外面5YR4/3 によい赤褐色 断面5YR5/2 灰褐色	2.0以下の長石・ 0.5以下の雲母 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	口縁部 1/5	・在地産 ・体部外面黒 斑あり
25	土壙234	弥生土器	甕	口径 (23.2) 器高 (2.9)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面7.5YR5/6 明褐色 外面7.5YR4/1 褐灰色 断面7.5YR5/6 明褐色	2.0以下の角閃石 多量 2.0以下の長石・ 0.5以下の雲母 少量	1/10	• 在地産
26	土壙234	弥生土器	甕 (又は鉢)	口径 (20.0) 器高 (3.6)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・ハケメ (風化著し い)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 0.5以下の雲母 中量	1/8	• 在地産
27	土城234	弥生土器	甕又は 壺底部		・風化のため調整不明	・ハケメ (風化して いる)	内面10YR5/4 にぶい黄褐色 外面10YR5/4 にぶい黄褐色 断面10YR5/4 にぶい黄褐色	多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/5	・在地産 ・外面一部黒 色化(煤又 は黒斑)
28	土壙234	弥生土器	甕又は 壺底部		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	E 内面10YR5/3 にぶい黄色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少	1/3	・在地産
29	土壤234	弥生土器	甕又は壺底部		・風化のため調整不明	・底部ヘラケズリ・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面2.5Y6/2 灰黄色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	多量 1.0以下のクサリ 礫少量	完形	・在地産
30	土壙234	弥生土器	悪又に 壺底部		・風化のため調整不明	・・底部へラ描線刻 ・体部下方底部と の境界にヘラ相 沈線1条		3.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石・ 0.5以下の雲母 中量 2.0以下のクサリ 礫少量	完形	・在地産 ・底部外面の 一部と内面 全体黒色化

番					調整・	手法				
号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
31	土壙234	弥生土器	鉢	口径 (39.7) 器高 (12.1)	・ナデ	・口縁部ナデ ・体部ヘラケズリ後 ヘラミガキ	内面10YR6/4 にぶい黄褐色 外面2.5Y 6/3〜5/1 にぶい黄色 〜黄灰色	2.0以下の長石・ 角閃石多量クサ リ礫微量	口縁部 1/2	・在地産
32	土壙410	弥生土器	甕	口径 (22.5) 器高 (9.6)	・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目 ・肩部ヘラ描沈線 3条	口縁部2.5YR5/6 明赤褐色 体部10YR6/3 にぷい黄橙色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量雲母中量	口縁部 1/10	• 在地産
33	土壌410	弥生土器	蹇	口径 (21.8) 器高 (5.5)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 (風化著しい)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	1/7	• 在地産
34	土壙410	弥生土器	甕	口径 (23.4) 器高 (5.3)	・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目 ・体部上方へラ描 沈線4条	內面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の角閃石 多量 2.0以下の長石・ 0.5以下の雲母 中量 1.0以下のクサリ 礫極少量	1/10	・在地産 ・一部に煤付 着
35	土壙410	弥生土器	甕	口径 (19.4) 器高 (6.4)	・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目 ・肩部ヘラ描沈線 2条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/4	・在地産
36	土壙234	弥生土器	甕又は 壺底部		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR5/3 にぶい黄橙色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石・ 5.0以下の角閃石 多量 3.0以下の雲母 中量 1.0以下のクサリ 礫少量	底 部 1/4	• 在地産
37	土壙234	弥生土器	壺底部	器高 (4.7) 底径 (10.7)	・風化のため調整 不明	・体部ハケメ後へ ラミガキ (風化 している) ・底部ヘラケズリ 後ナデ		5.0以下の角閃石 多量 5.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ 礫・0.5以下の雲 母少量	完 形	• 在地産
38	土壙234	弥生土器	甕	口径 (17.1) 器高 (7.2)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・肩部へラ描沈線 2条	内面2.5Y5/3 黄褐色 外面2.5Y3/2 黒褐色	4.0以下の長石 多量 角閃石・雲母	口縁部 1/10	• 在地産
39	土壙410	弥生土器	壺	口径 (12.4) 器高 (2.2)	・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線 1条以上	内面10YR5/4 にぶい黄橙色 外面10YR5/4 にぶい黄橙色 断面10YR5/4 にぶい黄橙色	2.0以下の角閃石 多量 2.0以下の長石・ 1.0以下のクサリ 礫・1.0以下の雲 母少量		・在地産 ・外面赤色顔 料付着
40	土壙410	弥生土器	壺	口径 (16.4) 器高 (6.3)	・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明	下内面5YR7/6 橙色 外面5YR7/6 橙色 断面5YR7/6 橙色	4.0以下の長石 極多量 4.0以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 極少量	1/7	・他地域産

77					調整・	手法		0 -f-01-df-75/	T40 -	備考
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	畑 与
41	土壙410	弥生土器	壺	口径 (16.8) 器高 (3.0)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 中量 1.5以下の長石・ 0.5以下の雲母 少量	1/7	・在地産
42	土壙410	弥生土器	壺	口径 (16.6) 器高 (4.7)	・風化のため調整 不明	・頸部に段をもつ (風化している)	10YR4/4 褐色	1.0以下の長石・ 角閃石	口縁部 1/7	・口縁部内 面一 部煤付着
43	土壙410	弥生土器	把手付 鉢	口径 (15.0) 器高 (5.6)	・ナデ	ロ縁部直下に把 手を施すナデ	内面10YR5/4 にぶい黄橙色 外面10YR 5/6~2/1 黄褐色~黒 色	1.0以下の長石 1.0以下の角閃石 雲母	口縁部 1/4	• 在地産
44	土壙234	弥生土器	壺	口径 (15.4) 器高 (8.0)	・風化のため調整不明	・頸部に段をもつ ・段直下に縦の4 条1単位のヘラ 描沈線	10YR5/3 にぶい黄褐色	5.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/2	• 在地産
45	土壙234	弥生土器	壺	口径 (12.8) 器高 (3.4)	・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線 1条 (削出凸帯の可能 性あり)	にぶい橙色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ	1/10	・在地産
46	土壙234	弥生土器	壺	口径 (14.0) 器高 (6.1)	The second of the second of	・口縁部ヘラ描沈 線1条 ・頸部段をもつ	5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/7	。在地産
47	土壙234	弥生土器	壺	口径 (13.1) 器高 (4.9)		・頸部段をもつ (風化している)	10YR5/3 にぶい黄橙色	3.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/7	• 在地産
48	土壙234	弥生土器	壺	口径 (13.9) 器高 (5.4)	and the second of the second	・頸部ヘラ描沈約 3条	2.5Y7/1 灰白色 外面5YR6/6 橙色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量クサリ礫少 量		• 在地産
49	蔣508	弥生土器	· 一	口径 (20.2 器高 (4.1)		・ ロ縁端部刻み目 ・ ロ縁部直下へき 描沈線 1 条	内面5YR4/1 にぶい赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少	1/10	・在地産 ・内外面煤付 着(二次焼 成?)
50	溝508	弥生土器	季 鉢	口径 (16.2 器高 (2.5		・風化のため調整 不明	を 内面10YR4/6 赤色 外面10YR4/6 赤色 断面10YR4/6 赤色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量		• 在地産 (二 次焼成?)

					調整・	手法				
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内面	外面	色 調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
51	土壙410	弥生土器	鉢	口径 (15.0) 器高 (4.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量	1/7	• 在地産
52	土城517	弥生土器	壺	器高 (4.2)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	1.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/3	• 在地産
53	土城517	弥生土器	底部	器高 (4.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR6/4 にぶい橙色	5.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母 少量	1/3	・在地産 ・外面黒斑あ り
54	土壙517	弥生土器	底部	器高 (5.4)	・風化のため調整不明	・ヘラミガキ (風化著しい)	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/3	• 在地産
55	土壙517	弥生土器		器高 (5.0)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/1 褐灰色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR6/3 にぶい橙色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量 5.0以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 少量	1/3	・在地産
56	土壙 2	弥生土器	壺	口径 (40.4) 器高 (6.3)	・横方向のヘラミ ガキ (風化している)	・横方向のヘラミ ガキ (風化している)	内面7.5YR 7/6~7/3 橙色~ にぶい橙色 外面7.5YR 7/6~7/3 橙色~ にぶい橙色 断面7.5YR6/1 褐灰色	5.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	1/10	・他地域産 ・外面一部黒 色化
57	土壙2	弥生土器	壺	口径 (11.6) 器高 (3.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/6	・在地産
58	土壙 2	弥生土器		口径 (14.8) 器高 (6.1)		・風化のため調整不明	E 内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母	1/6	• 在地産
59	土壙 2	弥生土器	底部	器高 (2.6) 底径 (9.4)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明	E 内面5YR5/1 褐灰色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4	6.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	底 部 1/5	• 在地産
60	土壙 2	弥生土器	底部	器高 (5.0) 底径 (9.0)	・風化のため調整不明	・体部分割のヘラ ミガキ・底部ヘラミガキ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	多量 0.5以下の雲母 中量	底 部 3/4	• 在地産

番					調整・	手法		1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 2 - 2	74 +-	H+: -+x.
母号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
61	土壙504	弥生土器	甕	口径 (15.05) 器高 (16.4) 底径 (6.5)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・底部平底	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR 6/3~2/2 にぶい褐色 ~黒褐色	2.0以下の長石・ 角閃石・雲母・ クサリ礫	口縁部 〜体部 ほぽ完形	• 在地産 • 外面煤付着
62	土壙504	弥生土器	甕蓋	口径 (20.0)器高 (2.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	10YR5/3~3/1 にぶい黄褐色 ~黒褐色	1.0以下の長石・ 雲母・角閃石	口縁部 1/7	• 在地産 • 内面煤付着
63	土壙503	弥生土器	壺	口径 (16.4) 器高 (3.7)	・風化のため調整不明	・頸部段をもつ (又は沈線)	内面10YR6/3 にぶい黄色色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	4.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫 0.5以下の雲母 中量	1/8	• 在地産
64	土壙503	弥生土器	壺底部	器高 (3.6) 底径 (8.0)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 5.0以下の角閃石 多量 2.0以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 少量	1/3	・在地産 ・底部内面黒 斑あり
65	土壙503	弥生土器	底部	器高 (6.3) 底径 (11.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	5.0以下の長石 多量 5.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/4	・在地産 ・外面煤付着 ・80と同一固 体
66	土壙 2	弥生土器	壺	口径 (15.4) 器高 (13.3)	・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線 沈線文間に2条の円 形刺突文	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面2.5YR6/6 橙色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 クサリ礫微量	口縁部 1/4	• 在地産
67	土壙3	弥生土器	壺底部	器高 (2.3) 底径 (9.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR2/1 黒褐色 外面5YR4/4 によい赤褐色 断面5YR4/4 によい赤褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母 少量	底 部 1/4	・在地産 ・内外面煤付 着
68	土壙504	弥生土器	底部	器高 (4.0) 底径 (7.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の雲母・ クサリ礫少量	底 部 完 形	・在地産 ・外面下方一 部に黒斑あ り
69	土城504	弥生土器	底部	器高 (3.4) 底径 (15.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/2 灰褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石 少量 6.0以下の角閃石 多量	1/5	・在地産
70	土城504	弥生土器	底部	器高 (4.8) 底径 (10.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	E 内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の雲母	1/4	・在地産 ・内面煤付着

.T.					調整・	手法				
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内面	外面	色 調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
71	土壙504	弥生土器	鉢	口径 (15.8)器高 (6.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面10YR6/4 にぶい黄橙色 断面10YR6/4 にぶい黄橙色	5.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	1/8	・在地産
72	土壙503	弥生土器	甕蓋	口径 (20.6) 器高 (6.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明 (ヘラミガキ)	内面2.5YR4/6 赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面2.5YR4/6 赤褐色	2.0以下の長石・ 角閃石中量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少 量	1/10	・在地産 ・内外面煤付 着
73	土壌503	弥生土器	底部	器高 (6.2) 底径 (13.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/6 明褐色 外面5YR7/3 にぶい橙色 断面5YR7/3 にぶい橙色	3.0以下の長石・ 5.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/4	• 在地産
74	土壙 2	弥生土器	底部	器高 (5.0) 底径 (7.6)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	6.0以下の長石・ 5.0以下の角閃石 多量	底 部 1/4	• 在地産
75	土壙504	弥生土器	壺	口径 (11.4) 器高 (5.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/3 にぶい赤褐色 外面5YR5/3 にぶい赤褐色 断面5YR5/3 にぶい赤褐色	5.0以下の角閃石 中量 1.0以下の長石・ クサリ礫少量	1/7	・在地産
76	土壙3	弥生土器	靈	器高 (11.4) 腹径 (24.4)	・ハケメ・ユビナデ (風化している)	・肩部ヘラ描沈線 3条 ・横方向のヘラミ ガキ	にぶい褐色	3.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	胴 部 1/5	• 在地産
77	土壙3	弥生土器	壺	器高 (7.5) 頸径 (13.0)	・風化のため調整不明	・頸部貼付凸帯 (風化著しい)	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	1.0以下のクサリ 礫少量 2.0以下の雲母少	頸 部 1/5	• 他地域産
78	土壙 3	弥生土器	甕	口径 (22.5) 器高 (14.1)	ALL AL MARKS OF TRACE AND ASSOCIATION	・口縁端部刻み目 ・肩部へう描沈線 4条 2・3条間に楕円 形の刺突文	明褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 クサリ礫微量	1/3	• 在地産
79	土城504	弥生土器	底部	器高 (2.5) 底径 (7.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	3/10	• 在地産
80	土城504	弥生土器	底部	器高 (6.9) 底径 (12.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR4/3 にぶい赤褐色 外面5YR4/3 にぶい赤褐色 断面5YR4/3 にぶい赤褐色	5.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 ・雲母少量 1.0以下のクサリ 礫少量	3/10	・在地産 ・外面に煤付 着 ・65と同一個 体

					調整・	手法				
番号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
81	土壙504	弥生土器	鉢	口径 (30.5) 器高 (10.1)	・風化のため調整不明	・肩部段をもつ (風化している)	7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR7/1 明褐灰色	角閃石・長石多 量	口縁部小破片	• 在地産
82	土壙503	弥生土器	底部	器高 (1.6) 底径 (3.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	1/2	・在地産
83	ピット218	弥生土器	鉢	口径 (19.0) 器高 (11.5) 底径 (7.4)	・ヘラミガキ ・底部風化してい る	ヘラミガキ・底部平底	内面7.5YR2/1 黒色 10YR6/3 にぶい黄巻色 外面7.5YR2/1 黒色 7.5YR5/3 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 角閃石多量白色 砂粒・黒色砂粒 多量雲母少量	2/5	• 在地産
84	土壙1	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	10YR5/3 にぶい黄褐色	3.0以下の長石・ 角閃石多量クサ リ礫・雲母微量	口縁部小破片	• 在地産
85	土壙1	弥生土器	広口壺		・横方向のミガキ	ナデ・削出凸帯	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面2.5Y7/1 灰白色 2.5Y2/1 黒色	3.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量白色砂粒・ 黒色砂粒多量	体 部 小破片	• 在地産
86	土壙503	弥生土器	壅		・風化のため調整 不明 (表面落剝)	・口縁端部刻み目	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
87	土城503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ 雲母少量	小破片	・在地産
88	土城503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	1.0以下の長石 3.0以下の角閃石 中量 0.5以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
89	土城503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線 2条 その直下に縦方 向にヘラ描沈線 4条	灰白色 外面7.5YR8/3	3.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ 礫中量	小破片	• 他地域産
90	土壙503	弥生土器	壺		・風化・落剝のため調整不明	・肩部段をつけた 上に斜格子文と ヘラ描沈線1条		2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量		• 在地産 • 外面黒色化

番					調整・	手法		A ALEL	ER -	(±± +v.
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
91	土壙503	弥生土器	甕又は鉢		・風化のため調整不明	・口縁部直下へラ 描沈線2条(又は 削出凸帯)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少 量	小破片	・在地産 ・外面黒斑あ り
92	土壙 1	弥生土器	甕		・口縁部ヨコナデ	・口縁端部刻み目・口縁部ヨコナデ	内面10YR5/3 にぶい黄褐色 外面10YR5/6 黄褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
93	土壙 1	弥生土器	鉢		・口縁部ヨコナデ	ロ縁部ヨコナデロ縁部ヘラ描沈線3条	10YR3/2 黒褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
94	土壙1	弥生土器	甕		・口縁部板ナデ (工具痕あり)	・口縁端部刻み目 ・口縁端ヨコナデ ・肩部へラ描沈線 2条 ・体部ナデ	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR 6/1〜2/1 褐灰色〜黒色	2.0以下の長石 少量 3.0以下の角閃石 多量 微細な白色砂粒 ・黒色砂粒多量 クサリ礫	口縁部小破片	• 在地産
95	濟503	縄文土器	深鉢		・風化のため調整不明	・肩部貼付凸帯に 刻み目 ・体部下方へラケ ズリ	にぶい橙色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
96	土壙503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ 描沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
97	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・ハケメ (風化して いる)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/1 褐灰色	2.0以下の角閃石	小破片	・在地産
98	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯	内面10YR5/2 灰黄褐色 外面10YR7/2 にぷい黄橙色 断面10YR7/2 にぷい黄橙色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量 2.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
99	土城503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描 沈線 ・頸部削出凸帯(又 は沈線)	褐灰色	6.0以下の長石 多量 1.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
100	土壙503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ 描沈線2条とそ の間に刺突文		1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ	小破片	・在地産

*					調整・	手法				
番号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
101	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部羽状文	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 5.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少 量	小破片	• 在地産
102	土壙1	弥生土器	甕蓋		・口縁部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ	10YR4/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 クサリ礫・雲母	小破片	• 在地産
103	土壙 1	縄文土器	深鉢		・ナデ	・貼付凸帯上に刻 み目 ・ナデ	7.5YR5/4~4/2 にぶい褐色 ~灰褐色	1.0以下の長石 2.0以下の角閃石	小破片	• 在地産
104	土壙507	縄文土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁部直下貼付 凸帯 上に刻み目	内面7.5YR6/6 橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色 断面7.5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石・ 角閃石中量 0.5以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	・在地産
105	土壙2	弥生土器	壺又は甕		・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
106	土壌2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
107	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下へラ 描沈線3条	にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.5以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ	小破片	・在地産
108	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面5YR5/4 にぷい赤褐色 断面7.5YR5/4 にぷい褐色	1.0以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母	小破片	• 在地産 • 内面煤付着
109	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR7/6 橙色 外面7.5YR7/6 橙色 断面7.5YR7/6 橙色	3.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 他地域産
110	土壙 2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・ヘラ描沈線 1 条 (模様の可能性あ り)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 0.5以下のクサリ	小破片	• 在地産

番				注导(am)	調整・	手法			T.D	A44 -47
母号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
111	土壙504	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR4/1 褐灰色 断面7.5YR4/1 褐灰色	3.0以下の長石・ 1.5以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
112	土壙504	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の角閃石 中量 0.5以下の長石・ 雲母少量	小破片	・在地産
113	土壙504	弥生土器	壺		・ナデ	・体部木葉文様	内面10YR7/3 にぶい黄橙色 外面5YR6/6 橙色 断面5YR6/6 橙色	3.0以下の長石 多量	小破片	・他地域産
114	土壙504	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部段をつけた 上にヘラ描沈線 1条以上		1.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 少量	小破片	• 在地産
115	土壙1	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部へラ描沈線 1条	7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
116	土壙 1	縄文土器	深鉢		・ナデ	・口縁部ヨコナデ ・口縁部と体部の 境貼付凸帯1条 その上に刻み目 ・体部ケズリ	内面10YR6/4 によい黄橙色 外面7.5YR 5/6~3/2 明褐色 ~黒褐色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
117	土壙 2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	中量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	• 在地産
118	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面2.5Y6/2 灰黄色 断面2.5Y6/2 灰黄色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産 ・風化著しい
119	土壙 2	弥生土器	壺	,	・風化のため調整不明	・体部削出凸帯上 にヘラ描沈線 2 条		2.0以下の長石・ 角閃石多量 2.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	• 在地産
120	土壙 2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・木の葉文様	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	3.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 中量 2.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母 少量		• 在地産

番	\mu_14.	es es	nn w/	N. 1917 N	調整・	手法	A ===	会与針伽種(mm)	残 存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	发行	畑 写
121	土壤504	弥生土器	蹇		・ナデ	・体部へラ描沈線 3条	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面2.5Y6/2 灰黄色 断面2.5Y6/2 灰黄色	1.0以下の長石 少量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 極少量	小破片	・在地産
122	土壙504	弥生土器	蹇		・ナデ	・体部へラ描沈線 1条	内面7.5YR7/3 にぶい橙色 外面2.5Y7/2 灰黄色 断面7.5YR7/3 にぶい橙色	6.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産
123	土壙504	弥生土器	翘		・ナデ	・体部へラ描沈線 3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	4.0以下の長石・ 6.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	小破片	• 在地産
124	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ 描沈線1条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・内面一部黒 斑あり
125	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・	小破片	・在地産 ・口縁部内面 の一部黒斑 あり
126	土壙 2	弥生土器	雅		・風化のため調整不明	・口縁端部一部刻み目	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	0.5以下のクサリ	小破片	・在地産
127	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた 上にヘラ描沈線 1条	8 50 8	4.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
128	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた 上にヘラ描沈線 1条		5.0以下の長石・ 角閃石多量 0.5以下の雲母 少量	小破片	• 在地産 • 内面黒色化
129	土壙504	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR4/3 にぶい赤褐色 外面5YR4/3 にぶい赤褐色 断面5YR4/3 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・ 角閃石中量	小破片	・在地産
130	土壙504	弥生土器	甕		・ナデ	・体部ヘラ描沈線 2条以上	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぷい褐色	1.0以下の雲母 少量	小破片	・在地産

番						調整・	手法			wn	
号	遺構・層	種 類	器	形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
131	土壙504	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・体部段をつけた 上にヘラ描沈線 3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 少量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
132	土壙1	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	• 口縁端部刻み目	内面7.5YR4/1 褐灰色 外面7.5YR4/3 褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量	小破片	• 在地産
133	土壙234	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	3.0以下の角閃石 多量 2.0以下の長石・ 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
134	土壙234	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ 描沈線3条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・ 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	・在地産
135	土壙234	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・口縁部直下削出 凸帯 その上にヘラ描 沈線1条	にぶい黄橙色	3.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ 2.0以下のクサリ 礫・0.5以下の雲 母少量	小破片	• 在地産
136	土壙517	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ 描沈線2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR4/3 褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・ 角閃石中量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産
137	土壤517	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ 描沈線2条	内面7.5YR7/3 にぶい橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ	小破片	・在地産
138	土壙517	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・口縁端部へラ描 沈線1条 ・頸部に段をもつ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	多量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産
139	土壙517	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色 断面7.5YR6/4 にぶい橙色	3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ	小破片	・在地産 ・内外面一部 黒斑あり
140	土壙517	弥生土器	魏	Ī		・風化のため調整不明	・口縁部直下へラ 描沈線3条	内面10YR7/2 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下のクサリ	小破片	・在地産

777						調整・	・手法				
番号	遺構・層	種類	器	形	法量(cm)	内 面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
141	土壙234	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ 描沈線2条その 間に竹管文	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面5YR4/4 にぶい赤褐色 断面5YR4/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	• 在地産
142	土壙234	弥生土器	甕			・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面5YR4/4 にぶい赤褐色 断面5YR4/4 にぶい赤褐色	5.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
143	土壙234	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯 1 帯	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	3.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少 量	小破片	・在地産
144	土壙410	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面2.5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面2.5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
145	土壙517	弥生土器	甕			・風化のため調整 不明(強いヨコナ デ)		内面7.5YR4/3 褐色 外面7.5YR4/3 褐色 断面7.5YR4/3 褐色	1.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産 ・内外面一部 黒色化
146	土壙517	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・口縁端部へラ描沈線	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 6.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
147	土壙517	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・頸部貼付凸帯	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぷい黄橙色	2.0以下の角閃石 1.0以下の雲母 多量 1.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産 ・外面一部黒 斑あり
148	土壙517	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・肩部へラ描線刻あり	内面10YR6/3 にぶい黄色 外面5YR5/4 にぶい褐色 断面5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下のクサリ	小破片	・在地産 ・内外面黒斑 あり
149	土壙234	弥生土器	甕			・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石・ クサリ礫少量	小破片	• 在地産
150	土壙234	弥生土器	壺			・風化のため調整不明	・肩部細いヘラ描 沈線3条	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ		・在地産

番	SHAROMORES NO. 10				調整・	手法	77 310	A + At- \$4m \$45 (7d /=	備考
号	遺構・層	種類	器	形 法量(cm)	内 面	外 面	色 調	含有鉱物種(mm)	残 存	1 用 与
151	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面2.5YR5/1 赤灰色 外面2.5YR6/4 にぶい橙色 断面2.5YR6/4	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
152	土壙410	弥生土器	壺	2	・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描 沈線1条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
153	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部へラ描 沈線1条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫極少量	小破片	・在地産
154	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた 上にヘラ描沈線 2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面10YR5/3 にぶい黄褐色 断面10YR5/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石・ 角閃石中量	小破片	・在地産 ・176と同一 個体
155	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線 1条以上	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	1.5以下の長石 多量 3.0以下の角閃石 少量	小破片	• 在地産
156	土壙517	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯上 にヘラ描沈線 2 条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ	小破片	• 在地産
157	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ 描沈線4条	内面7.5YR3/1 黑褐色 外面7.5YR3/1 黑褐色 断面7.5YR3/1 黑褐色	3.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ クサリ礫少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	• 在地産 • 内外面黒色 化(煤?)
158	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部刺突文その 上方にヘラ描沈 線1条(以上)下 方2条	にぶい黄橙色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産量
159	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 (風化著しい) ・体部上方へラ描 沈線3条	明赤褐色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産 ・32と160と 同一個体
160	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・頸部上方へラ描 沈線3条	内面2.5YR5/6 明赤褐色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・32と159と 同一個体

番	No. Commercial Commerc				調整・	手法	在 部	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	占有驱物性(IIIII)	72, 15	E. HIA
161	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整 不明	・肩部2条1単位 の重孤文	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
162	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部へラ描沈線 2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ クサリ礫・雲母 少量	小破片	• 在地産
163	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	4.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ 雲母少量	小破片	・在地産
164	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ クサリ礫少量	小破片	• 在地産
165	土壙517	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下削出 凸帯	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	多量	小破片	在地産
166	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/2 灰褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
167	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 (風化著しい)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR3/1 黒褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
168	土壙410	弥生土器	延	9	· ナデ	・体部上方へラ描 沈線2条	内面7.5YR6/6 橙色 外面7.5YR6/6 橙色 断面7.5YR6/6 橙色	1.0以下の角閃石 少量 2.0以下の長石・ 1.0以下のクサリ 礫中量		・在地産
169	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部上方へラ描 沈線2条	内面2.5YR4/6 赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面2.5YR4/6 赤褐色	1.0以下の角閃石 中量 1.0以下の長石・ 雲母少量	小破片	・在地産
170	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた 上にヘラ描沈線 1条 段と沈線の間に 刺突文	にぶい黄橙色 外面5YR5/4	1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ		・在地産 ・255と 同 個体

番					調整・	手法	4	A		/++ -+r
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
171	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描線刻	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 2.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の 雲 母 少量	小破片	・在地産 ・201と205と 同一個体
172	土壙368	縄文土器	深鉢		・風化のため調整不明	・貼付凸帯上に刻み目	内面2.5YR4/6 赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	1.0以下の長石 中量 5.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	小破片	• 在地産
173	土壤410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・体部上方へラ描 沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR5/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/4 によい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫極少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産
174	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目 (風化著しい)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
175	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部上方へラ描 沈線2条	内面7.5YR3/1 黒褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石 中量	小破片	• 在地産
176	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた 上にヘラ描沈線 2条		2.0以下の長石・ 角閃石中量	小破片	・在地産 ・154と同一 個体
177	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量		• 在地産
178	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部ふくらみ をもつ	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	小破片	• 在地産
179	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	3.0以下のクサリ	小破片	・他地域産 ・赤色顔料塗 布 ・180と 同 一 個体
180	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	1.0以下のクサリ	小破片	・他地域産 ・赤色顔料塗 布 ・179と 同 一 個体

番				N. E.	調整・	手法	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色 調	含有弧物性(IIIIII)	73 17	VHI →
81	土壙518	弥生土器	壺	口径 (15.8) 器高 (3.2)	・風化のため調整 不明	・頸部ヘラ描沈線 1条	にぶい褐色 外面7.5YR5/4	1.0以下の角閃石 中量 1.0以下の長石・ 0.5以下のクサリ 礫少量	1/8	・在地産 ・内面一部黒 色化
.82	土壙518	弥生土器	壺	口径 (28.4) 器高 (4.3)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぷい褐色 断面7.5YR5/4 にぷい褐色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
183	土壙518	弥生土器	壺底部	器高 (11.0) 底径 (6.6)	・風化のため調整 不明	・ヘラミガキ	内面10YR8/3 浅黄橙色 外面10YR8/3 浅黄橙色 断面10YR8/3 浅黄橙色	1.0以下の長石・ クサリ礫少量	底完形	・他地域産 ・体部下方規 成後外面からの穿孔を り
184	潾505	弥生土器	甕	口径 (24.2) 器高 (6.0)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ 描沈線1条 ・体部細かいハケ メ(風化してい る)	内面2.5YR5/4 にぶい赤褐色 外面2.5YR5/4 にぶい赤褐色 断面2.5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 ・クサリ礫多量 0.5以下の雲母 中量	1/8	・在地産
185	溝812	縄文土器	深鉢	口径 (25.6) 器高 (4.2)	・ヨコナデ	・口縁部直下1条 の貼付凸帯に刻 み目 ・ヨコナデ	内面10YR4/4 褐色 10YR6/3〜3/1 にぶい黄橙色 〜黒褐色 外面10YR4/4 褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石	口縁部 1/8	• 在地産
186	溝812	縄文土器	深鉢	口径 (27.1 ~31.5) 器高 (28.3)	ロ縁部ヨコナデ体部ナデ	・口縁部直下と口 縁部 ・体部の境貼付凸 帯に刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・体部ケズリ	黄褐色	1.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/4	・在地産
187	土壙518	弥生土器	甕	口径 (15.8) 器高 (2.2)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	内面7.5YR4/2 灰褐色 外面7.5YR4/2 灰褐色 断面7.5YR4/2 灰褐色	1.0以下の長石・ 角閃石中量 0.5以下のクサリ 礫少量	1/6	・在地産
188	土壙518	弥生土器	底部	器高 (3.5) 底径 (6.6)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明(ハケメ)	下 内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の角閃石 中量 2.0以下のクサリ		・在地産
18	土壙518	弥生土器	+ 壺	口径 (21.2) 器高 (3.1)	・粗いハケメ	・ヨコナデ	内面10YR7/3 にぶい黄橙色 外面10YR7/3 にぶい黄橙色 断面10YR7/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/7	• 他地域産 • 弥生中期
19	土壙518	弥生土器	高杯	口径 (内15.4) (外22.8) 器高(4.2)		・杯部左上りのヘラミガキ・口縁部横方向のヘラミガキ (風化している)	灰白色	1.0以下の長石 中量	1/4	・他地域産 ・弥生中期

番					調整・	手法		A + AL46-55()	T-P +	##: ±#.
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
191	土壙518	弥生土器	壺	口径 (11.2) 器高 (2.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/2 灰白色 断面7.5YR8/2 灰白色	1.0以下の長石・ クサリ礫少量	1/7	• 他地域産 • 弥生中期
192	土壙518	弥生土器	壺	口径 (25.6) 器高 (10.0)	・口縁部扇形文2 段(風化している)	・頸部7条1単位 の直線文(風化 している)	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/2 灰白色 断面7.5YR8/2 灰白色	2.0以下の長石・ 1.0以下のクサリ 礫中量	1/4	• 他地域産 • 弥生中期
193	溝505上層	弥生土器	壺	口径 (28.8) 器高 (7.2)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	口縁部 1/5	• 在地産
194	溝505上層	弥生土器	壺	器高 (13.8) 腹径 (30.8)	・風化のため調整不明	・肩部削出凸帯上 にヘラ描沈線1 条 ・体部削出凸帯上 にヘラ描沈線1 条	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量	体 部 1/4	• 在地産
195	溝812	弥生土器	底部	器高 (4.7)	・風化のため調整不明	・ヘラミガキ	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	3/5	・在地産・底部穿孔あり・外面一部黒斑あり
196	溝812	弥生土器	底部	器高 (5.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・ 角閃石中量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/5	・在地産
197	灣505	弥生土器	壺	口径 (13.2) 器高 (5.0)	・風化のため調整不明	・6条/cmのハケ メ	内面5YR7/3 にぶい橙色 外面5YR7/3 にぶい橙色 断面5YR7/3 にぶい橙色	2.0以下のクサリ	1/4	• 他地域産 • 弥生中期
198	溝505 2 層	弥生土器	甕	口径 (15.0) 器高 (9.3)	・体部風化している	・口縁端部刻み目 ・体部(肩)半載竹 管文2段 ・体部ハケメ(風化 している)	外面2.5YR5/6	3.0以下の角閃石 多量 6.0以下の長石・ 1.0以下の雲母 中量 2.0以下のクサリ 礫少量	口縁部 1/4	・在地産
199	土壙518	弥生土器	笼		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ 描沈線2条	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
200	游505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部へラ描 沈線1条・口縁部円孔(残存 1ヶ所)	にぶい赤褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	在地産

番					調整・	・手法	- m	A + A+ bbm IF (础 左	備考
号	遺構・層	種類	器形	/ 法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	加 号
201	潾505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部へラ描線刻	外面7.5YR5/4	5.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産 ・171と205と 同一個体
202	溝812 第 5 層上面	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明 ・体部赤色顔料塗 布	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	3.0以下の角閃石 中量 2.0以下の長石・ 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
203	土壌518	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面10YR4/1 褐灰色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	6.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	小破片	• 在地産
204	溝812	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ 描沈線2条	内面2.5YR4/4 にぶい赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面2.5YR4/6 赤褐色	2.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
205	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描線刻	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ	小破片	・在地産 ・171と201と 同一個体
206	溝812 第 5 層上面	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明 ・体部に赤色顔料 塗布	にぶい赤褐色	5.0以下の長石 少量 1.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫極少量	小破片	• 在地産
207	土壙518	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明			小破片	• 在地産
208	游505	弥生土器	甕	,	・風化のため調整不明	・ 口縁端部刻み目 ・ 口縁部直下段を つけた上に(逆 段)へラ描沈線 1 条	外面5YR5/4	2.0以下の長石・ 角閃石多量 0.5以下の雲母 少量	小破片	• 在地産
209	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部細いヘラ描 沈線4条	内面5YR7/6 橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4		小破片	・他地域産
210	漭505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部細いヘラ描 沈線 4 条	i 内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色		小破片	・在地産

					調整・	手法				
番号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内面	外面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
211	土壙518	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁部直下削出 凸帯	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
212	潾505	弥生土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面10YR7/4 にぶい黄橙色 外面10YR7/4 にぶい黄橙色 断面10YR7/4 にぶい黄橙色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 0.5以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 少量	小破片	・在地産
213	溝812	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線 2条	内面10YR6/2 橙色 外面10YR6/2 橙色 断面10YR6/2 橙色	2.0以下の長石 多量 0.5以下のクサリ 礫少量	小破片	• 他地域産
214	溝812	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ 描沈線1条	内面10YR3/1 黑褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
215	濟812	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 3.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
216	土壙518	弥生土器	無頸壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明 ・口縁部直下に円 孔あり(残存1ヶ 所)	にぶい橙色	1.0以下のクサリ	小破片	・他地域産 ・弥生中期 ・外面黒色化
217	藩 812	弥生土器	壺		・4条/cmの粗い ハケメ(風化して いる)	• 肩部櫛描直線文 (条単位不明)	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色 断面10YR8/2 灰白色	2.0以下の長石中量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・他地域産 ・弥生中期 ・外面一部黒 斑あり
218	溝812	縄文土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁端部に板状 に貼付けた上級 文を施している と思われる (風化著しい) ・体部垂下ヘラ描 沈線	にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4	多量	小破片	・在地産 ・縄文後期 縁帯文土器
219	溝812	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ 描沈線1条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	• 在地産
220	溝812	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下へラ 描沈線1条 ・体部細かいハケ メ (風化している)	にぶい赤褐色 外面5YR5/4	3.0以下の長石 多量 1.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産

30%					調整・	手法			wn -t-	A4444
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
221	溝451	弥生土器	甕	口径 (15.1) 器高 (4.0)	・風化のため調整 不明	・口縁端部へラ描 沈線1条・肩部へラ描沈線 2条沈線文間に 楕円形の刺突文	10YR6/3 にぶい黄橙色	4.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/7	• 在地産
222	溝450	弥生土器	壺蓋	口径 (12.0) 器高 (2.2)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整 不明	10YR5/4 にぶい黄橙色	2.0以下の長石 角閃石・クサリ 礫	1/4	・在地産
223	溝500	弥生土器	壺蓋	口径 (11.2) 器高 (1.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	0.5以下の雲母	3/10	・在地産
224	满500上層	弥生土器	無頸壺	口径 (7.6) 器高 (9.2) 底径 (6.4)	・ナデ	・風化のため調整 不明 ・口縁部に円孔 2ヶ1対	にぶい橙色	2.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ 礫多量	底 部 3/5 口縁部 3/10	• 他地域産
225	溝 500	弥生土器	壺	口径 (20.0) 器高 (2.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぷい橙色	2.0以下の長石 多量	3/10	•他地域産 •弥生中期
226	漭500下層	弥生土器	壺	口径 (25.4) 器高 (20.6)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 8条1単位の波 状文 ・頸部風化してい る	内面7.5YR5/6 明褐色 外面7.5YR5/6 明褐色 断面7.5YR5/6 明褐色	6.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下の雲母 少量	1/4	• 在地産 • 弥生中期
227	4 B層	弥生土器	壺	器高 (20.5) 底径 (8.8) 腹径 (29.0)	不明	・ヘラミガキ	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面2.5YR4/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	多量 2.0以下の雲母 少量	底部完形体 部 1/2	・在地産
228	4 A 層	弥生土器	ミ <i>ニチュ</i> 壺	口径 (5.9) 器高 (7.9) 底径 (3.7)	・ナデ	・ナデ	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR4/2 灰褐色 断面7.5YR3/1 黒褐色	3.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量クサリ礫少 量	1	・在地産 ・一部黒斑あ り
229	溝451	弥生土器	甕蓋	器高 (4.3) 天井部 (7.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明	E 内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量		・在地産 ・鉢底部の可 能性あり
230	溝800	弥生土器	+ 壺蓋	口径 (10.4)器高 (1.8)	955000	・風化のため調整不明	性 内面10YR2/2 無色 外面10YR4/2 灰黄褐色 断面10YR4/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	1/8	・在地産 ・内面全体煤 付着

番					調整・	手法	fr	A == AL4(-45)	TA +-	Att: -tr.
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
231	满809	弥生土器	壺蓋	口径 (11.2) 器高 (1.9)	・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明	内面7.5YR4/3 褐色 外面7.5YR4/3 褐色 断面7.5YR4/3 褐色	4.0以下の長石・ 角閃石多量 0.5以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 少量	1/8	・在地産 ・内外面一部 煤付着
232	溝450	弥生土器	甕	口径 (16.0) 器高 (4.8)	・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目 ・肩部削出凸帯お よび段をもつ	内面10YR4/2 灰黄褐色 外面10YR5/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石 多量角閃石・ク サリ礫	口縁部 1/10	• 在地産
233	溝450上層	弥生土器	甕底部	器高 (6.4) 底径 (9.0)	・ハケメ後ナデ	・ハケメ後ナデ ・底面に木葉痕	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR7/6 橙色 底部7.5YR7/1 明褐灰色	2.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量白色砂粒 ・黒色砂粒多量 微細な雲母微量	底 部 3/4	• 他地域産
234	溝500	弥生土器	壺	口径 (15.0) 器高 (4.3)	・風化のため調整 不明	• 頸部貼付凸帯	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/5	・在地産
235	4 B層	弥生土器	鉢	器高 (4.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 中量	2/5	・在地産 ・内外面の一 部の黒斑あ り
236	4 B層	弥生土器	甕底部	器高 (9.9) 底径 (8.0)	・風化のため調整 不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR4/2 灰褐色	2.0以下の長石 多量 角閃石・雲母・ク サリ礫少量	底 部 1/4	・在地産
237	東地区東 4 B層	弥生土器	底部	器高 (2.2) 底径 (9.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぷい黄橙色	3.0以下の長石 中量 5.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母 少量	底 部 1/2	・在地産 ・外面黒斑あ り ・底部外面モ ミ圧痕あり
238	溝500アゼ	弥生土器	底部	器高 (9.4) 底径 (7.2)	・ハケメ (風化著し い)	・ヘラミガキ (風化著しい)	内面10YR7/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面10YR7/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石 多量 黒色砂粒少量	1/5	・他地域産 ・弥生中期
239	溝450	弥生土器	壺	口径 (14.9) 器高 (5.8)	・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ ・体部ヘラミガキ	10YR5/4 にぶい黄褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/4	• 在地産
240	溝450	弥生土器	底部	器高 (4.0) 底径 (8.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	多量	3/5	・在地産 ・外面黒斑あ り ・底部外面モ ミ圧痕あり

番					調整・	手法	/z. =na	A = At Mm == (碓 方	備考
子	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残 存	畑 考
41	溝800	弥生土器	甕	口径 (32.6) 器高 (4.4)	・体部ナデ	・口縁端部刻み目 ・肩部ヘラ描沈線 2条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下の雲母 少量	1/7	・在地産
42	溝450上層	土製品	土錘	長さ (5.0) 幅 (3.6) 厚さ (3.3) 内径1.3×1.5		・ナデ・ユビオサエ	内面10YR6/4 によい黄橙色 外面10YR6/4 によい黄橙色 断面10YR6/4 によい黄橙色	1.0以下の長石 2.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	完形	• 在地産
43	溝450	土製品	円板	長径 (4.6) 短径 (4.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整 不明 (ハケメ)	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面2.5YR6/4 にぶい橙色 断面2.5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石 中量 5.0以下の角閃石 多量 2.0以下のクサリ 礫少量		• 在地産
244	4 B層	弥生土器	甕	口径 (20.6) 器高 (17.0)	・風化のため調整 不明	・口縁端部刻み目 ・体部風化のため 調整不明	内面5YR7/4 にぶい橙色 外面5YR7/4 にぶい橙色 断面5YR7/4 にぶい橙色	5.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 少量 3.0以下のクサリ 礫中量	1/5	・在地産
245	溝500上層	縄文又は弥生土器	底部	器高 (2.5) 底径 (8.0)	・風化のため調整 不明	• ハケメ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面10YR5/2 灰黄褐色 断面10YR5/2 灰黄褐色	3.0以下の角閃石 多量 3.0以下の長石 1.0以下の雲母 中量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/4	・在地産
246	4 B層	弥生土器	底部	器高 (3.1) 底径 (7.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR3/1 黒褐色 外面7.5YR5/4 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR5/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 2.0以下のクサリ 礫少量 1.0以下の雲母 中量	7/10	・在地産
247	溝450上層	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部上方へラ描 沈線 2条その間に刺 突文	にぶい赤褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
248	溝500	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線 2条 その間に竹管文	内面5YR5/3 にぶい赤褐色 外面5YR5/3 にぶい赤褐色 断面5YR4/1 褐灰色	2.0以下の長石 少量 1.0以下の角閃石 中量	小破片	• 在地産
249	漭500上層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線 2条 重孤文(3条1 対)	にぶい褐色	2.0以下の角閃石 中量	小破片	• 在地産
250	4 B層	弥生土器			・風化のため調整不明	・肩部段を施した 上にヘラ描沈線 4条		2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ クサリ礫・雲母 少量		• 在地産

317.					調整・	手法				
番号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内面	外面	色 調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
251	4 B層	弥生土器	無頸壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 4.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産 ・内面一部黒 色化
252	溝450	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ 描沈線 1 条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	4.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	小破片	• 在地産
253	溝450	弥生土器	壺		・ヘラミガキ	・体部重孤文・ヘラミガキ	10YR4/4 褐色	2.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石 多量 雲母少量	小破片	・在地産
254	满501	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・ヘラ描沈線 4 条 それぞれの沈線 文と沈線文の間 に刺突文計 3 帯	にぶい褐色	2.0以下の角閃石 中量 2.0以下の長石 少量 1.0以下のクサリ 礫極少量 2.0以下の雲母 極少量	小破片	• 在地産
255	溝500 南北アゼ下	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段を施した 上にヘラ描沈線 1条その間に刺 突文	にぶい黄橙色	1.0以下の長石 少量 3.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産 ・170と 同 一 個体
256	東地区第3層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部羽状文	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面10YR6/4 にぶい黄橙色 断面10YR6/4 にぶい黄橙色	0.5以下の長石 少量 1.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産
257	東地区乙	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部重孤文 (4 条1単位)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
258	溝450下層	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・体部上方へラ描 沈線3条 上2条の間に横 長の刺突文	外面10YR6/2	2.0以下の長石・ 角閃石多量	小破片	・在地産 ・外面一部黒 斑あり
259	溝450	弥生土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ 描沈線3条	内面5YR4/2 灰褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	• 在地産 • 直立口縁
260	溝450	弥生土器	· 壺		・風化のため調整不明	・重孤文(2条1単 位)	i 内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	多量 2.0以下のクサリ 礫中量		• 在地産

番	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
号 261	潾501	弥生土器	壺		内 面 ・風化のため調整 不明	外 面 ・肩部+基調へラ線刻の間に×基調の木葉文(3条1対)	内面7.5YR7/3 にぶい褐色 外面7.5YR7/3 にぶい褐色 断面7.5YR7/3 にぶい褐色	1.0以下の長石 少量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
262	4 B層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部削出凸帯上 にヘラ描沈線1 条木葉文区画に 細い沈線	内面5YR5/3 にぶい赤褐色 外面5YR5/3 にぶい赤褐色 断面5YR5/3 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 多量 1.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産
263	4 B層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・細い沈線と木葉文	内面7.5YR5/6 明褐色 外面7.5YR5/6 明褐色 断面7.5YR5/6 明褐色	2.0以下の長石・ 角閃石多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産
264	溝450上層	弥生土器	壺		・ハケメ	・肩部段をもつ	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぷい赤褐色 断面5YR5/4 にぷい赤褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	小破片	• 在地産
265	溝450上層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	• 肩部下向重孤文	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 少量 2.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産 ・外面黒斑あ り
266	灣501	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線 3条その間に刺 突文	内面10YR6/2 灰黄褐色 外面5YR5/4 にぷい赤褐色 断面5YR5/4	3.0以下の長石 少量 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫・雲母極少量	小破片	・在地産
267	溝451	弥生土器	壺		・ユピオサエ	・ヘラ描沈線による重弧文	10YR4/4 褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石 中量	体 部 小破片	• 在地産
268	4 A層	弥生土器	壺		・ヘラミガキ	・肩部段を施した 上に重孤文(2 条1単位)と+ 基調の木葉文	黒褐色	2.0以下の長石・ 4.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
269	溝450上層	縄文土器	深鉢		・風化のため調整不明	・肩部貼付凸帯上に刻み目	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面10YR5/2 灰黄褐色	2.0以下の角閃石	小破片	・在地産
270	溝450	縄文土器	鉢		・ヨコナデ・ナデ	・口縁部直下貼付 凸帯上に刻み目	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR4/1 褐灰色 断面7.5YR4/1 褐灰色	1.0以下の長石 中量 1.0以下の角閃石 多量 0.5以下のクサリ 礫・雲母少量		 在地産

117.					調整・	手法				
番号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外面	色 調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
271	4 B層	縄文土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁部貼付凸帯 上に刻み目	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面5YR4/4 にぶい赤褐色 断面10YR3/1 黒褐色	1.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量	小破片	• 在地産
272	4 B層	弥生土器	壺		・風化のため調整 不明	・肩部わらび手文状に貼付	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
273	落込下層断面	弥生土器	壺		・ナデ	・頸部ヘラ描沈線 2条その間に刺 突文	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	1.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ 礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・内面の一部 に黒斑あり
274	1号墳 (溝450)	韓式土器	甕	口径 (16.8) 器高 (31.85)	口縁部横方向の ハケメ5条/cm体部ナデ底部ナデ	 ・口器部コナデデー・頸筋コカー・ ・頸筋 カー・ ・原部カー・ ・原部カー・ ・水・ ・・ <li< td=""><td>内面5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色 10YR7/2 にぶい黄橙 外面5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色</td><td>2.0以下の長石・ 角閃石</td><td>1/5</td><td>• 在地産</td></li<>	内面5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色 10YR7/2 にぶい黄橙 外面5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石・ 角閃石	1/5	• 在地産
275	1 号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (19.3) 器高 (17.3)	・口縁部横方向の ハケメ7条/cm・頸部横方向のハケメ7条/cm・肩部ナデ・体部ナデ	・口縁部斜め方向の ハケメ7条/cm ・頸部斜め方向の ハケメ7条/cm ・肩部縦方向のハ ケメ条/cm ・体部縦方向のハ ケメ7条/cm	6/4~6/6 にぶい橙色 ~橙色	2.0以下の長石・クサリ礫・黒色砂粒	口縁部 1/7	
276	1号墳 (溝450上層)	韓式土器	甕	口径 (14.8) 器高 (8.1)		・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部タタキ後へ ラケズリ	内面2.5YR8/2 灰白色 外面2.5YR8/2 灰白色	2.0以下の長石	口縁部 4/5	・外面肩部に 黒班あり
277	1号墳 (溝450上層)	土師器	魏	口径 (22.1) 器高 (5.7)	・口縁部ヨコナデ後 横方向のハケメ 6条/cm ・頸部横方向のハ ケメ6条/cm ・肩部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデデ・頸部ヨコナデ・肩部斜め方向の ハケメ 6 条/cm	内面7.5YR6/4 ~5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 ~5YR6/4 にぶい橙色		小破片	·在地産
278	1号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (18.5) 器高 (17.4)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ユビオサエ ・体部ユビオサ エ・ユビナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部縦方向のハ ケメ5条/cm ・肩部斜め方向の ハケメ5条/cm ・体部斜め方向の ハケメ5条/cm	外面5YR5/6 明赤褐色 10YR2/2	3.0以下の長石・ 黒色砂粒・雲母	口縁部 1/4	
279	1 号墳 (溝450上層)	土師器	製塩土器	口径 (4.3) 器高 (3.5)	・口縁部ヨコナデ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	内面7.5YR8/3 浅黄橙色 外面7.5YR8/3 浅黄橙色	微粒のクサリ礫 ・長石	小破片	
280	1号墳 (溝450上層)	土師器	製塩土器	口径 (5.6) 器高 (2.8)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	内面7.5YR8/6 浅黄橙色 外面7.5YR 8/4~1/8 浅黄橙色 ~灰白色	微粒のクサリ礫・白色砂粒	小破片	

番					調整・	手法	A777	A A444-45/	T-P: -	£#1: ±±7-
号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
281	1号墳 (溝450上層)	土師器	高杯	口径 (15.5) 器高 (6.2)	口縁部ヨコナデ体部ヨコナデ底部ナデ	・口縁部ヨコナデ・体部ヨコナデ・底部ナデ・ヨコナデ	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色	2.0以下の長石・ 雲母 微粒の黒色砂粒	杯部 3/5	・外面一部煤 ける
282	1 号墳 (溝450上層)	土師器	高杯	口径 (14.8) 器高 (11.0)	・杯部ナデ ・覆部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ・体部ナデ・底部ナデ・覆部ヨコナデ	内面2.5YR6/6 橙色 外面2.5YR6/6 橙色	1.0以下の長石・ クサリ礫・黒色 砂粒・雲母	杯部 2/5 覆部 ほぼ完形	
283	1 号墳 (溝451)	土師器	高杯	口径 (10.8) 器高 (6.4)	・ケズリ	・柱状部ナデ ・覆部ヨコナデ	内面10YR 7/3~7/4 にぶい黄橙色 外面10YR 7/3~7/4 にぶい黄橙色	微粒のクサリ礫 白色砂粒・黒色 砂粒	脚部 小破片	・内面に工具 痕残る
284	1号墳 (溝451)	土師器	高杯	口径 (19.3) 器高 (7.7)	・口縁部ヨコナデ ・体部横方向のヘ ラミガキ ・底部横方向のヘ ラミガキ	・口縁部ヨコナデ ・体部斜め方向の ヘラミガキ ・底部ヨコナデ・ヘ ラミガキ	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石 ・クサリ礫・雲母	杯部 1/2	• 在地産
285	1 号墳 (溝450上層)	土師器	蓬	口径 12.3 器高 (13.95)	・口縁部横方向のハケメ後ヨコナデ・頸部後方向のハケメ後間カーナデ・肩部ナデ・体部ナデ・底部ナデ	・口縁部ハケメ(方向 不明)後ヨコナデ ・頸部ハケメ(方向不明)後ヨカ戸のハケメ8条/内のハケメ8条/内のハケボ部8条方向のハケボ部8条方向のハケボ部8条/Cm・底部条/Cm	内面7.5YR5/3 にぶい橙色 外面5YR7/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・ 黒色砂粒・雲母	日縁部ほぼ完形	
286	1号墳 (溝450上層)	土師器	翘	口径 (13.8) 器高 (17.1)	・口縁部ヨコナデ後 横方向のハケメ・頸部ヨコナデ後 横方向のハケメ・肩部ナデ・体部ケズリ・底部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部縦方向のハ ケメ7条/2.3cm ・肩部縦方向のハ ケメ7条/2.3cm ・体部上半縦方向の ハケメ7条/2.3cm ・体部下半ナデ ・底部ナデ	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石 ・雲母	1/4	• 在地産
287	1号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (16.2) 器高 (11.3)	・口縁部斜め方向の ハケメ9条/cm・頸部斜め方向の ハケメ9条/cm・肩部ナデ・体部ケズリ	・口縁部縦方向のハケメ後ヨコナデ・頸部縦方向のハケメ後ヨコナデ・肩メ9条/cm・体部縦方向のハケメ9条/cm・体部縦方向のハケメ9条/cm	にぶい橙色	3.0以下の長石・ 雲母	口縁部 2/5	・外面一部煤ける
288	1号墳 (溝451)	土師器	高杯	口径 (23.6) 器高 (12.8)	・口縁部斜め方向 のハケメ (条数 不明) ・体部横方向のハケメ (条数方向の ・底部横方向のハケメ (条数方向のハケメ (条数下明) ・柱状部ナデ・覆部コナデ		外面5YR6/4 にぶい橙色		1/2	脚部に黒斑あり
289	1 号墳 (游451)	土師器	高杯	口径 (14.4) 器高 (11.8)	・杯部風化のため 調整不明 ・柱状部シボリメ ・覆部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部風化のため 調整不明 ・底部風化のため 調整不明 ・柱状部風化のた め調整不明 ・覆部ヨコナデ	橙色~灰白色 10YR 5/1~2/1	4.0以下の長石・クサリ礫・黒色砂粒	2/5	
290	1 号墳 (溝451)	土師器	高杯	口径 (18.6) 器高 (6.0)		・ヨコナデ	内面7.5YR 7/4~6/4 にぶい橙色 外面7.5YR 7/4~6/4 にぶい橙色			内外面とも に風化著し い

番					調整・	手法	/z 200	A+ >+ Shifted ()	础 左	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm) -	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	佣 考
291	1号墳 (溝451)	土師器	高杯	口径 (15.6) 器高 (5.1)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面10YR 8/1~6/1 灰白色 外面10YR 8/1~6/1 灰白色 10YR3/1 黒褐色	2.0以下の長石	杯部 3/4	内外面とも に風化著し い
292	1 号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (13.4) 器高 (16.6)	・口縁部ヨコナデ・頸部ヨコナデ・肩部ケズリ・体部ケズリ・底部ケズリ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部縦方向のハケメ5条/cm ・体部縦方向のハケメ5条/cm ・底部縦方向のハケメ5条/cm	内面2.5YR 7/2~4/1 灰黄色 ~黄灰色 外面2.5YR 7/3~3/1 淡橙色 ~暗赤灰色 2.5YR7/6 橙色	5.0以下の長石・ 黒色砂粒・雲母	1/4	・外面体部一部煤ける
293	1号墳 (溝450上層)	土師器	翅	口径 (11.9) 器高 (16.4)	 口縁部ヨコナデ 頸部ヨコナデ 肩部ケズリ後ユビオサエ 体部ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 	 口縁部ココナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部横方向のハケメ6条/cm ・体部斜め方向のハケメ6条/cm ・底部外ののハケメ6条/cm 	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色	3.0以下の長石	1/3	
294	1号墳 (溝451)	土師器	甑	口径 (22.7)器高 (19.1)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ・ユビナ デ ・底部ユビオサエ	 ・口縁部ヨコナデ ・体部縦方向のハケメ (条数不明) ・底部縦方向のハケメ (条数不明) ・風化著しい 	内面10YR6/4 にぷい黄橙色 外面7.5YR6/6 橙色 10YR6/2 灰黄褐色	5.0以下の長石・ クサリ礫・雲母 黒色砂粒	口縁部 1/2	
295	1号墳 (溝451)	韓土土韓	鍋	口径 (23.6) 器高 (18.4)	・口縁部上半ヨコナデ・口縁部下半板ナデ後ナデ・体部板ナデ後ナデ	・口縁部上半ョコ ナデ・口縁部下半ナデ・把手ユビナデ・体部ナデ	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色	2.0以下の長石・クサリ礫	2/5	・外面に黒班 あり
296	1号墳 (溝451)	韓式土器	甑	口径 (26.5) 器高 (27.8)	口縁部ヨコナデ体部ナデ底部ナデ	 ・口縁部上半ヨコナデ ・口縁部下半縄目タタキ4条/cm ・把手ナデ・ヘラケズリ・体部縄でタタキ4条/cm ・底部縄目タタキ4条/cm 	灰黄色	1.0以下の長石 微粒の雲母	1/4	・韓式系土器 ・外面底部に 黒班あり
297	1 号墳 (溝500)	鉄製品	用途 不明	長さ (18.1) 幅 (2.5) 厚さ (0.3)		*			9	/
298	1 号墳 (溝450上層)	金属製品	鉄鏃	長さ (11.0) 幅 (1.25~0.4) 厚さ 0.3~0.45 重さ 11.9g					基部欠失	• 全面錆付着
299	1 号墳 (溝450上層)	金属製品	馬具	長さ (4.65) 幅 (1.9) 厚さ (0.5) 重さ (3.5g)					小破片	・全面錆付着 ・木目残る
300	1号墳 (溝451)	須恵器	瑶	口径 (7.9) 器高 (3.3)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色 断面 N6/ 灰色	微粒の長石	口縁部小破片	

番					調整・	手法		A -1-11-11-150	7.0	ttt: -tr.
番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
301	1号墳(溝451)	土師器	甕	口径(12.8) 器高(13.2)	 ロなから ロなから での での	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部縦方向のハ ケメ 5~6条/cm ・体部縦方向のハ ケメ 5~6条/cm	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色	5.0以下の長石 2.0以下の角閃石 クサリ礫・雲母	2/5	・在地産 ・外面体部煤 ける
302	1 号墳 (溝451)	土師器	甕	口径(15.7) 器高(3.0)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面10YR 8/2~3/1 灰白色 ~黒褐色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面10YR3/1 黒褐色	1.0以下の長石 ・クサリ礫・雲 母・黒色砂粒	口縁部小破片	
303	1号墳(溝451)	韓式土器	雍	口径 20.2 器高(30.7)	・口頸部ヨコナデ・肩部ナデ・体部ナデ・底部ナデ	 口頸部ヨコナデ 肩部格子目タタキ 2.5×2.5条/cm 体部格子目タタキ 2.5×2.5条/cm 底部格子目タタキ 2.5×2.5条/cm たが8と2.5条/cm後 ナデ 	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR6/4 にぶい黄橙色	1.0以下の長石 微粒の雲母	日縁部ほぼ完形	・体部に1孔 あり ・外面体部に 黒班あり
304	1号墳(溝451)	土師器	甕	口径(22.8) 器高(4.8)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面10YR 5/3~3/1 にぶい黄褐色 ~黒褐色 外面10YR 5/3~3/1 にぶい黄褐色 ~黒褐色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 2/5	内外面とも に風化著し い
305	1号墳(溝451)	土師器	甕	口径(14.5) 器高(16.8)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ユビオサエ・ ユビナデ後ナデ ・体部ユビオサエ・ ユビナデ後ナデ	・口縁部ヨコナデ・頸部ヨコナデ・肩部斜め方向のハケメ8条/cm・体部縦方向のハケメ8条/cm	内面2.5YR5/6 明赤褐色 10YR7/3 にぶい黄橙色 外面10YR 6/2~2/1 灰黄色~黒色	2.0以下の長石 ・雲母	小破片	
306	1号墳 (溝500)	韓式土器	甕	口径(20.8) 器高(32.9)	・口縁端部ョコナデ・口縁部ナデ・頸部ナデ・肩部ナデ・体部ナデ・底部ナデ	 ・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部タタキ3.5×4 条/cm ・体部タタキ3.5×4 ・底部タタキ3.5×4 条/cm 	灰白色	2.0以下の長石 微粒の雲母	1/2	・外面に黒班 あり
307	1号墳 (溝450上層)	土師器	斑	口径(19.4) 器高(26.0)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ユビナデ後 ナデ ・体部ユビナデ後 ナデ ・底部ケズリ	ケメ 8 条/cm	5/2~1.7/1 灰褐色~黒 色	2.0以下の長石・クサリ礫・雲母角閃石	1/3	・在地産
308	1号墳 (溝450上層)	土師器	甑	口径(25.3) 器高(16.3)	・口縁部ヨコナデ・体部板ナデ後ナデ・底部板ナデ後ナデ	縦方向のハケメ	にぶい黄橙色 外面10YR 7/3~6/1		口縁部 1/4	・外面体部に黒班あり
309	1号墳(溝450上層)	須恵器	杯蓋	口径(12.75) 器高(4.0)	・口縁部ヨコナデ・ 回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナテ 後ナデ	回転ナデ ・体部回転ヘラケ	灰白色 外面7.5Y 6/1~8/1	1.0以下の長石	4/5	・ロクロ回転 反時計まわ り
310	1号墳(溝450上層)	須恵器	杯蓋	口径12.65 器高 4.1	ロ縁部ヨコナデ・回転ナデ体部回転ナデ天井部回転ナラ後ナデ	回転ナデ ・体部回転ヘラケ	灰色 外面 N6/ 灰色	2.0以下の長石	ほぼ完形	

番					調整・	手法				
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色 調	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
311	1 号墳 (溝450上層)	須恵器	杯	口径(10.8) 器高(4.4)	・口縁部ヨコナデ・体部回転ナデ・底部回転ナデ・ヘラ状工具によるナデ	・口縁部ヨコナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ後ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N8/ 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	4/5	・ロクロ回転 反時計まわ り
312	1 号墳 (溝450上層)	須恵器	杯	口径(11.4) 器高(3.1)	・口縁部ヨコナデ・体部回転ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色 断面7.5R5/2 灰赤色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部小破片	
313	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯	口径(10.4) 器高(5.0)	・口縁部ヨコナデ・体部回転ナデ・底部回転ナデ・ナデ	・口縁部ヨコナデ・体部上半回転ナデ・体部下半カキメ・底部カキメ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	杯部 1/3	・ロクロ回転 反時計まわ り
314	1 号墳 (溝450上層)	須恵器	椀	器高(4.15)	・回転ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ ・底部波状文・ヘラ ケズリ	内面 N8/~6/ 灰白色~灰 色 外面 N6/ 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	小破片	
315	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯蓋	口径13.1 器高 5.2	・口縁部ヨコナデ・ 回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ 後タタキ後ナデ	・口縁部ヨコナデ・ 回転ナデ ・体部カキメ ・天井部回転へラ ケズリ ・つまみ回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色 断面10R5/1 赤灰色	3.0以下の長石	ほぼ完形	・つまみ上面 と外面体部 灰かぶり
316	1号墳 (溝450上層)	土師器	甑	口径(24.6) 器高(12.9)	・口縁部ヨコナデ・ロ縁部ア半横方向のハケメ10条/cm ・体部上半横方向のハケメ10条/cm ・体部ア・メ10条/cm ・体がメ10条/ のハケメ10条/ ののかがよりもの ・スナール・ユピー オサエ	・口縁部上半ヨコナデ・ロ縁部下半ユビオサエ後ナデ・体部縦方向のハケメ10条/cm(不明瞭)	7/4~7/1 にぶい橙色	3.0以下の長石 ・クサリ際・雲 母・角閃石	小破片	• 在地産
317	1 号墳 (溝450上層)	土師器	甑	口径(25.6) 器高(23.5) 底径(11.0)	・口縁部ヨコナデ ・体部ユビナデ ・底部ユビナデ	 ・口縁部 ・日本 ・日本<td>明褐色 外面7.5YR5/6 明褐色</td><td>2.0以下の長石 ・クサリ礫・雲 母・角閃石</td><td>1/2</td><td>・把手に竹管 痕残る ・在地産</td>	明褐色 外面7.5YR5/6 明褐色	2.0以下の長石 ・クサリ礫・雲 母・角閃石	1/2	・把手に竹管 痕残る ・在地産
318	1号墳 (溝450下層)	須恵器	甕	器高(9.4) 頸径(12.8)	・頸部回転ナデ・肩部タタキ後スリケシ	・頸部回転ナデ・肩部ナデ	内面 N5/~9/ 灰色~白色 外面10R6/1 赤灰色 N9/ 白色 5Y4/3 暗オリーブ色	1.0以下の長石	小破片	・内面頸部灰 かぶり ・外面に灰釉 付着
319	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯	器高(5.6) 裾径(9.1)	・底部ナデ・柱状部ナデ・回転 ナデ・覆部回転ナデ	・底部回転ナデ・脚部回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面2.5GY5/1 オリーブ灰色	1.0以下の長石	底部 小破片 脚部 3/4	
320	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯	器高(6.3) 裾径(9.35)	・底部ナデ・脚部ナデ	・底部回転ナデ・脚部回転ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	1.0以下の長石	底部 小破片 脚部 4/5	

番			HCT HII - TT/		調整・	手法		A At-64-55()	Tel: +=	備考
母号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	畑 ち
321	1号墳(溝450)	須恵器	高杯	器高(9.1) 裾径(6.2)	・回転ナデ	・底部回転ナデ後 ヘラケズリ・脚部回転ナデ	内面 N7/~6/ 灰白色~灰色 外面 N7/~5/ 灰白色~灰色	1.0以下の長石	底部 小破片 脚部完形	・外面脚部灰かぶり
322	5号墳 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径13.4 器高 4.2	・口縁部ヨコナデ・ 回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ナデ・ ナデ	・□縁部ヨコナデ・ 回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ヘラケズリ	内面 N5/ 灰色 外面 N6/ 灰色	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転 反時計まわ り
323	5号墳 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径(11.6) 器高(2.7)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面7.5Y7/1 灰白色 外面7.5Y7/1 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 小破片	
324	5号墳(溝800)	須恵器	高杯	口径(11.9) 器高(3.75)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石	口縁部小破片	
325	5号墳(溝800)	須恵器	高杯	器高(5.0)	・底部回転ナデ後 ナデ・脚部回転ナデ	・底部回転ナデ ・脚部回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	3.0以下の長石	脚部 2/5	・柱状部に円 孔 ・線刻あり
326	5号墳 (溝800)	須恵器	高杯	器高(4.5) 裾径(9.2)	・回転ナデ	回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	2.0以下の長石	脚部 1/5	・三方向透孔 あり ・外面覆部灰 かぶり
327	5号墳 (溝800)	須恵器	高杯	器高(10.8) 据径(3.4)	・回転ナデ	・カキメ・回転ナデ	内面 N7/~N6/ 灰白色~灰色 外面 N7/~N6/ 灰白色~灰色 断面7.5R4/2 灰赤色	1.0以下の長石	脚部小破片	・外面覆部灰かぶり
328	5号墳 (溝800)	須恵器	高杯	器高(4.3) 裾径 9.0	・回転ナデ	・カキメ・回転ナデ	・ 内面 N7/ 灰白色 外面 N9/~N5/ 白色~灰色	1.5以下の長石	脚部ほぼ完形	・外面覆部灰かぶり
329	5号墳 (溝800)	土師器	34E	器高(15.4) 腹径 17.35	体部斜め方向の ケズリ底部ユビオサエ	 体部縦方向のハケメ7条/cm(不明瞭) ・底部乱方向のハケメ7条/cm(不明瞭) 	にぶい黄褐色 外面10YR5/4 にぶい黄褐色	3.0以下の角閃石 2.0以下の長石・ 雲母	底部ほぼ完形	・外面底部に 煤付着 ・在地産
330	5号墳 (溝800)	土師器	飯	口径(24.3)器高(16.4)	・口縁部風化のた め調整不明 ・体部ケズリ	・口縁部風化のため調整不明 ・体部風化のため 調整不明 ・把手ユビオサコ 後ナデ	にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色	閃石	小破片	• 在地産

番	VIII 144 🖂	105 W.T.	nn w/	V- E1 / V	調整・	手法	4. ⊕	A + At Am 45 (难 左	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	1/相 与
331	5 号墳 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径14.0 器高 4.6	・口縁部ヨコナデ・ 回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ナデ・ ナデ	・口縁部ヨコナデ・ 回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ヘラ ケズリ	内面 N8/ 灰白色 外面 N3/ 暗灰色	3.0以下の長石・ 黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転 時計まわり
332	5号墳(溝800)	須恵器	杯	口径11.9 器高 5.1	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ	内面 N8/ 灰白色 外面 N9/~N6/~ N4/ 白色~灰色	2.0以下の長石 ・黒色砂粒	完形	ロクロ回転時計まわり外面体部から底部灰かぶり
333	5号墳 (溝800)	須恵器	杯	口径11.8 器高 5.5	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・ナデ	・口縁部回転ナデ・底部回転へラケズリ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	2.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり
334	5 号墳 (溝800)	須恵器	甕	口径(14.6) 器高(3.8)	・灰かぶりのため調整不明	・波状文 9 条/cm	内面7.5Y5/1 灰色 外面 N6/ 灰色 断面2.5YR6/2 灰赤色	1.0以下の長石	口縁部	
335	5号墳 (溝800)	須恵器	魏	口径(17.6)器高(5.7)	・灰釉付着のため 調整不明	• 波状文 5 条/0.5cm (不明瞭)	内面7.5Y7/1~5/3 灰白色~ 灰オリーブ色 外面 N7/ 灰白色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 1/6	
336	5 号墳 (溝800)	須恵器	塾	口径(24.4) 器高(4.6)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面10Y8/1~N7/ 灰白色 外面10Y8/1~N7/ 灰白色	0.5以下の長石	口縁部小破片	
337	5号墳 (溝800)	土師器	小型壺	口径(14.0) 器高(8.75)	ロ頸部横方向の ハケメ5~7条/cm肩部ユビオサエ体部ユビオサエ	 口頸部ヨコナデ 肩部縦方向のハケメ5~7条/cm 体部縦方向のハケメ5~7条/cm 風化著しい 	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 2.5YR7/4~N4/ 淡赤橙色		1/3	
338	5 号墳 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径13.3 器高 4.5	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ 後ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N7/ 灰白色 外面 N5/ 灰色	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転 時計まわり
339	5号墳 (溝800)	須恵器	杯	口径11.7 器高 4.6	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ後 ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	2.0以下の長石・ 黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり
340	5号墳 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径13.75 器高 4.55	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ 後ユビオサエ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	4.0以下の長石 ・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり

番					調整•	手法	A 311	含有鉱物種(mm)	残 存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	口,日本行心理()	Д T	NID -3
341	5 号墳 (溝800)	須恵器	杯	口径12.2 器高 5.15	ロ縁部回転ナデ体部回転ナデ底部回転ナデ後ユビオサエ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転 時計まわり
342	5号墳 (溝800)	須恵器	瓱	口径(10.3) 器高(1.9)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N7/~N6/ 灰白色~灰色 外面 N7/~N6/ 灰白色~灰色	0.5以下の白色砂 粒・黒色砂粒	口縁部小破片	
343	5号墳 (溝800)	須恵器	暤	口径(12.6) 器高(2.05)	回転ナデ	・回転ナデ	内面 N6/~N/4 灰色 外面 N6/~N/4 灰色 断面2.5YR5/2 灰赤色	0.5以下の長石	口縁部小破片	
344	5 号墳 (溝800)	須恵器	壺	口径17.9 器高20.8	・口頸部回転ナデ・肩部ユビオサエ・体部ユビオサエ・底部ユビオサエ	・口頸部回転ナデ ・肩部格子目タタ キ後カキメ ・体部上半格子目 タタキ後カキメ ・体部下半格子目 タタキ ・体部下半格子目 タタキ	内面10Y7/1 灰白色 外面10Y7/1 灰白色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	
345	5号墳 (溝800)	土師器	羽釜	口径(23.1) 器高(16.5)	・口縁部ヨコナデ 後横方向のハケメ9条/cm・体部ユビオサエ	・口縁部ヨコナデ・鍔ヨコナデ・体部縦方向のハケメ9条/cm	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石 2.0以下の角閃石 ・雲母	口縁部 2/5	・外面口縁部 と鍔に煤付 着 ・在地産
346	5号墳 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径13.6 器高 4.7	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ 後ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り後ナデ	15 March 1	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり
347	5号墳(溝800)	須恵器	杯	口径11.8 器高 4.6	回転ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ・未調整	内面 N7/ 灰白色 外面 N9/ 白色 N6/ 灰色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり・外面体部から底部灰かぶり
348	5号墳(溝800)	須恵器	杯蓋	口径(13.3) 器高(4.5)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ ・同心円当て具痕	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・天井部回転へラケズリ・ヘラ切り		3.0以下の長石 ・黒色砂粒	3/7	・ロクロ回転 時計まわり
349	5号墳(溝800)	須恵器	杯	口径(12.1)器高(4.5)	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ナデ・ナ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラクズリ・ヘラ切り後ナデ	内面 N5/ 灰色 外面 N6/~N7/ 灰色~灰白	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	3/5	・ロクロ回転時計まわり
350	5号墳(溝800)	須恵器	器台		回転ナデ	• 波状文 7 条/1.3cm	n 内面7.5Y8/1 灰色 外面 N6/ 灰色 断面7.5R5/1 赤灰色	2.0以下の長石	口縁部小破片	・内面灰かぶ り

番					調整・	手法				
号	遺構・層	種 類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
351	4 号墳 (溝501)	土師器	円筒埴輪	器高(6.45) 底径(12.7)	・ナデ	・縦方向のハケメ 6条/cm	内面5YR8/4 淡橙色 外面5YR8/4 淡橙色	3.0以下の長石 ・クサリ礫	底部小破片	2
352	4 号墳 (溝501)	土師器	杯	口径(11.2)器高(4.0)	・口縁部ヨコナデ・体部放射状暗文	口縁部ヨコナデ体部ユビオサエ 後ナデ	内面5YR7/6 浅黄橙色 外面7.5YR8/4 橙色	0.5以下の長石 ・黒色砂粒	小破片	・内外面共にやや風化
353	6号墳 (溝814)	土師器	羽釜	器高(4.5) 鍔径(25.6)	・ナデ	・ナデ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5GY6/1 オリーブ灰色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5GY6/1 オリーブ灰色	3.0以下の長石・ 黒色砂粒・雲母	鍔小破片	
354	6号墳 (溝814)	須恵器	高杯	器高(4.9) 裾径(8.2)	・底部回転ナデ・タタキ・脚部回転ナデ	・底部回転ヘラケ ズリ・脚部回転ナデ	内面7.5Y8/1 灰白色 外面7.5Y8/1 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	脚部 2/5	・三方透かし あり
355	6号墳 (溝814)	須恵器	高杯	口径(11.1) 器高(4.55)	ロ縁部回転ナデ体部回転ナデ底部回転ナデ・タタキ	口縁部回転ナデ体部回転ナデ・底部カキメ	内面 N8/ 灰白色 外面10Y3/1 オリーブ黒色 断面7.5R5/2 灰赤色	2.0以下の長石	小破片	・四方透かし あり
356	6 号墳 (溝814)	須恵器	長頸瓶	口径 5.1 器高(13.2)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N5/~N7/ 灰色~灰白色 外 面 N5/~2.5 Y8/1 灰色~灰白色	1.0以下の長石	口頸部 完形	・外面一部灰かぶり
357	6号墳(溝814)	須恵器	平瓶	口径(5.1) 器高(11.5)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N8/ 灰白色 7.5Y2/2~6/3 オリーブ黒色 ~オリーブ 黄色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	6/7	・外面に自然 釉付着 ・外面底部釉 だれあり
358	4号墳 (溝501)	須恵器	壺	口径(17.4)器高(6.1)	・回転ナデ	・波状文 6 条/1.1cm	内面 N6/~N5/ 灰色 外面 N6/~N5/ 灰色	1.0以下の長石	1/4	
359	4号墳(溝501)	須恵器	杯蓋	口径(12.7)器高(3.4)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ 後ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラ ケズリ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石	1/4	・ロクロ回転 時計まわり
360	4 号墳 (溝501)	須恵器	杯蓋	口径(12/9) 器高(2.9)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ	口縁部回転ナデ体部回転ナデ・ヘラケズリ	内面 N7/ 灰白色 外面7.574/1~3/2 灰色~ オリーブ黒色 断面7.5R5/2 灰赤色	3.0以下の長石	小破片	・外面に自然 釉付着

番	No. 144	THE NAME	nn	N+ EL()	調整・	手法	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	그 14대	日日本小小田(山山)	/A 13	4
361	6 号墳 (溝814)	須恵器	惡	器高(9.8) 腹径(7.0)	・回転ナデ	 ・肩部回転ナデ ・体部上半回転へ ラケボブリ ・体部ズリリ ・体部ズリリ板へ ラケボブリ後ナデ ・底部後ナデズリをデデ 	内面 N8/ 灰白色 7.5Y5/3 灰オリーブ色 外面 N8/ 灰白色 7.5Y5/3 灰オリーブ色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	体部以下完形	・外面一部に 自然釉付着 ・外面底部に 線刻あり
362	4 号墳 (溝501)	須恵器	34E		・回転ナデ	• 波状文 9 条/1.5cm	内面7.5Y6/1 灰色 外面 N6/ 灰色 2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色 断面10R5/1 赤灰色	1.0以下の長石	小破片	
363	6 号墳 (溝814)	須恵器	聪		・回転ナデ	・回転ナデ	内面2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色 外面 N7/ 灰白色	2.0以下の長石	脚部 小破片	
364	4 号墳 (溝501)	須恵器	高杯		・回転ナデ	・回転ナデ	内面2.5GY4/1 条暗オリー ブ灰色 外面 N7/ 灰白色 5Y4/3 暗オリーブ色 断面7.5R6/2 灰赤色	2.0以下の長石	杯部 1/4	・長方形三方透かしあり
365	4 号墳 (溝501)	須恵器	台付壺	器高(8.0)	・体部回転ナデ・たまのでは、	・体部回転ナデ・回 転へラケズリ ・底部回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N8/ 灰白色 2.5YR7/3~5/2 淡赤色 ~灰赤色	2.0以下の長石	1/4	
366	6 号墳 (溝814)	須恵器	大甕	口径(42.7) 器高(21.9)	口頸部灰かぶりのため調整不明肩部タタキ	・口頸部灰かぶりのため調整不明・肩部タタキ	内面7.5Y7/1~6/3 灰白色~ オリーブ黄色 5Y4/2 反オリーブー 外面7.5Y7/1~6/3 灰白色~ オリーブ黄色 5Y4/2 灰オリーブー	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	口頸部 1/7	
367	傾斜地	須恵器	甕	口径19.35 器高29.2	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・肩部同心円当て具度 ・体部同心円当て 具痕 ・底部同心円当て具度	・口縁部回転ナデ ・頸部四転ナデ ・肩部格子目タタ キ後回転ナデ ・体部格子目タタ キ後回転ナデ ・底部平行タタキ	内面 N8/~7/ 灰白色 外面 N8/~7/ 灰白色	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転 時計まわり
368	傾斜地下層	須恵器	甕	口径(18.7) 器高(30.2)	- 口縁部回転ナデ - 頸部回転ナデ - 肩部タタキ(不明瞭) - 体部タタキ(不明瞭) - 底部タタキ	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・肩部平行タタキ ・体部平行タタキ ・底部平行タタキ ・風化著しい	内面 N8/~5/ 灰白色~灰色 外面 N8/~5/ 灰白色~灰色 ・黒色砂粒	3.0以下の長石	1/2	
36	傾斜地下層	須恵器	壺	口径10.5 器高28.3	・口頸部回転ナデ ・肩部同心円当で 具痕後ナデ ・体部同心円当で 具痕筋可心円当で 具痕後ナデ ・底部同心円当で 具痕後ナデ	条/1.8cm・カキ メ後櫛描直線文 ・肩部平行タタキ	外面 N8/~2.5 GY2/1 灰白色~馬 色		ほぼ完形	・ロクロ与また り の 両肩部一 が 面肩部一 部 自然 釉 付
37	傾斜地 下層	須恵器	甕	口径(19.2) 器高(30.0)	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・肩部同心円当て 具痕	・口縁部回転ナデ・頸部回転ナデ・肩部平行タタキ	内面 N8/~6/ 灰白色~灰色 外面 N8/~6/ 灰白色~灰色		口縁部ほぼ完形	

番	\rds.646 ==	Sign were	EEE #7	가무/- \	調整・	手法	色 調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	己 嗣	口:日邓科沙理(川川)	14 H	Er bnu
371	傾斜地 下層	須恵器	高杯	口径10.2 器高 6.6 裾径 8.7	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部ナデ ・脚部回転ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ・脚部回転ナデ	内面 N9/~7/ 白色~灰色 外面 N7/~4/ 灰白色~灰 色	2.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転 半時計まわ り
372		縄文土器	深鉢	器高(4.2)	・風化のため調整不明	・渦巻状文様	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色	2.0以下の長石 ・角閃石		・在地産 ・緑帯文土器
373		土師器	小壺	口径(4.0)器高(3.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぷい黄橙色 外面10YR6/3 にぷい黄橙色	2.0以下の角閃石 1.0以下の長石 0.5以下の雲母	口縁部 2/5 全体 4/5	・在地産
374	東地区 Z	土製品	土錘	長さ(2.9) 幅 (0.8) 厚さ(0.8)		・ナデ	内面2.5YR7/4 淡赤橙色 外面2.5YR7/4 淡赤橙色	2.0以下の長石 0.5以下のクサリ礫	1/2	
375	東地区東床土	土師器	三足釜	器高(4.5) 幅 (1.4) 厚さ(1.4)	・ナデ	・ナデ	内面5YR8/3 淡橙色 外面5YR8/3 淡橙色	1.0以下のクサリ礫 0.5以下の長石	脚部小破片	
376	東地区耕土	銅銭	寛永通宝							・初鋳年1636 年
377	東地区東 第3層	石製品	双孔円板	長さ(2.0) 幅 (2.0) 厚さ(0.4)			内面2.5GY4/ 暗オリーブ 灰色 外面2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色			・滑石製・二孔あり
378	西地区傾斜地	石製品	砥石	長さ(8.3) 幅 (3.7) 厚さ(0.9)			内面7.5YR8/1 灰白色 外面7.5YR8/1 灰白色		1/2	
379	東地区 第 4 層溝321	瓦器	擂鉢	口径(27.4) 器高(3.7)	・ナデ	・ナデ	内面5Y6/1 灰色 外面 N4/ 灰色 断面5Y8/1 灰白色	2.0以下の長石	口縁部小破片	
380	東地区東 床土	須恵器	蓋	口径(18.6)器高(1.3)	・回転ナデ	回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石	小破片	

番					調整・	手法	. ≃π. π. π	A 士 A	残存	備考
号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	内 面	外 面	色調	含有鉱物種(mm)	发 任	ин <i>1</i> 5
381	東地区東 床土	須恵器	杯	器高(1.3) 底径(14.6)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	1.0以下の長石	底部 小破片	
382	4 号墳 南側西壁断面 G層	須恵器	杯	口径(12.7) 器高(3.95)	・回転ナデ	・口縁部回転ナデ・体部回転ナデ・底部回転ヘラケズリ	内面 N9/ 白色 外面 N3/ 暗灰色 7.5YR8/4 浅黄橙色	1.0以下の長石 ・石英	2/5	
383	東地区東床土	国産陶器	碗	器高(3.7) 底径(4.2)	・回転ナデ後施釉	・体部回転ナデ後 施釉 ・底部回転ナデ	内面7.5Y5/2 灰オリーブ色 外面10R6/4 にぶい赤橙色 10Y8/1 灰白色 断面10R6/4 にぶい赤橙色	1.0以下の長石	底部 1/2	・唐津焼
384	中地区 ピット312	磁器	青磁碗	器高(2.6) 底径(5.6)	・体部回転ナデ・ケ ズリ後施釉 ・底部回転ナデ・ケ ズリ	・体部回転ナデ・ケ ズリ後施釉 ・底部回転ナデ・ケ ズリ	内面2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色 外面2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色	微粒の黒色砂粒	底部 1/7	• 青磁 • 削出高台
385	東地区西水路北側包含層	器上定韓	- <u>32</u>	口径(20.1) 器高(5.7)	・ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部縦方向のハ ケメ8条/cm・格 子目タタキ2×3 /cm²	内面10YR8/2~8/3 灰白色 ~浅黄橙色 外面10YR8/2~8/3 灰白色 ~浅黄橙色	3.0以下の長石・クサリ礫・黒色砂粒	口縁部	
386	溝 5 1 2	須恵器	璲	器高(4.8) 頸径 9.8 腹径12.5	・頸部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部ヘラ状工具 によるナデ	・頸部回転ナデ ・体部へラ状工具 によるナデ ・底部ヘラケズリ・ ユビオサエ後へ ラケズリ	内面7.5Y4/1 灰色 N7/ 灰白色 外面7.5Y4/1 灰色 N7/ 灰白色 斯面7.5R4/2 灰赤色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	頸部以下 ほぼ完形 (口縁部 欠失)	・内面底部・ 外面体部に 自然釉付着
387	溝 3 3 4	土師器	ш	口径(10.3) 器高(1.75)	・口縁部ヨコナデ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ・ユビオ サエ	内面10YR8/3 浅黄橙色 外面10YR8/3 浅黄橙色	0.5以下の長石	2/5	・灯明皿 ・口縁部一部 に煤付着
388	溝 3 3 4	土師器	ш	口径(10.3) 器高(1.5)	・口縁部ナデ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ・体部ナデ	内面10YR8/3 浅黄橙色 外面10YR8/3 浅黄橙色	0.5以下の長石	1/3	・灯明皿 ・口縁部一部 に煤付着
389	4 A層	須恵器	甕		・回転ナデ	・回転ナデ・波状文 10条/0.65cm	内面5Y6/1~5/1 灰色 外面5Y6/1~5/1 灰色	3.0以下の長石	口縁部小破片	

V ま と め

今回の調査で明らかになった点と今後に明かにすべき問題点を個条書きにして以下記す。

- (1)縄文時代の海進に伴う河内湾の海食崖の頂部を検出した。鬼虎川遺跡に続いて2例目である。 調査区外であるため同遺跡のように汀線部分が確認できなかったが、縄文時代前期の遺物が包含され ている可能性がある。今後注意すべきと考える。
- (2) 弥生時代前期の遺構は、上部が削平されて柱穴の最下部のみが残存したと判断される前期初頭の竪穴住居 2 棟(径約 7 m と 6 m の円形)・土壙(貯蔵穴の可能性のあるもの 1 基含む)・溝を検出した。この時期の住居址は、山賀遺跡などで掘立柱建物、神戸市大開遺跡で竪穴住居が検出されているが例は少ない。炉跡が明確でないが、2号住居内の炭が多量に出土した土壙428が炉跡とすれば東西に近接して柱穴が見られることから武末氏が分類する松菊里型住居 C型との関連を想定できるかもしれない。

集落の構成は、周辺部の調査を待たなければならないが、北と南に生駒山地から西下する小河川で 区画された河内潟を間近にひかえ、大阪湾や六甲山地などが一望できる低位段丘上に立地したことは 間違いない。

(3) 弥生時代前期の遺物のなかで最も量の多い弥生時代前期古・中段階の土器は山麓部では従前、鬼塚遺跡C地点・水走遺跡出土品以外あまり知られていない。前者は包含層、後者は貝塚出土品である。今回の調査では貝塚などに比べて短期間に営まれたと考えられる土壙などの遺構内出土品が多い。縄文時代晩期末の土器と弥生土器が共伴した土壙が3基(土壙1・503・234)存在する。土壙1出土品についてはすでに検討したことがある。出土状況などから見て縄文土器と弥生土器が同時に使用されていたと判断される。出土した縄文時代晩期末の土器(貼付け凸帯をもつ体部片も含む)は、包含層出土品を加えても10点である。同時期の弥生土器は、図示しただけでも約250点あり図示していないものが他に100点以上存在することから3%以下と非常に少ない。

土器底部に籾圧痕の認められるのもある。これらの弥生土器は従前、河内で知られている中では最 も古い時期に属すものの一つである。

石器は、石包丁など直接農耕にかかわるものはないが、石鏃39点・石錐15点・太型蛤刃石斧 2点・石匙 2点・ピエス・エスキエ10点・凸刃削器 1点・複刃削器 1点・削器 1点・石核 1点・砥石 1点の計73点が遺構・包含層から出土した。他に多数の剥片が存在することから石器の製作を行っていたことが判明した。少数の中期に属すものが含まれるが大半は前期前半のものと見てよい。石鏃・石錐の形態は、縄文時代晩期に存在するものと変わらない。しかし、石鏃は縄文時代晩期では複数の形態が認められるが、この時期の主流は凹基無茎式に変化している。石材の産地は、約 8 割が香川県金山産と考える。金山産の石器は前代にもわずかに存在が認められるが、この時期により以上に瀬戸内地域との交流が盛んであったことを示している。

他に土錘が1点出土し、この地の人々は半農半漁の生活を営んでいたと思われる。今回検出した遺構や遺物は、河内における弥生時代開始期を考えるうえに非常に重要な資料ある。今後、さらに他遺跡との比較・分析・検討を進めていきたい。

(4) 弥生時代中期の遺構は、溝2条・土壙1基を検出したにとどまる。遺物の出土量も少なく集落の縁辺部にあたる場所であろう。立地から見て調査地の北側に当時の集落の存在が想定される。また、他地域産の土器が目に付くが絶対量が少なく判断できない。また、方形周溝墓の供献土器などに見られる底部近くを穿孔された壷が出土している。

(5) 古墳時代中期末から後期に営まれた小型低方墳からなる群集墳は、従前は山麓部において検出されていないものである。これについては以前に検討したことがある。最近、南約3kmにある段上遺跡から中期後半の小型低方墳が2基検出され円筒・朝顔型・家形埴輪や韓式土器、ウマの歯などが出土しているが、本遺跡のような長期間に渡り営まれたものではなさそうである。埴輪をもつことから、本古墳群の被葬者よりも上位に位置する人々の墓である可能性が高い。

5世紀後半から7世紀後半までの約200年間の継続期間と、古墳の数から見て一氏族が世代毎に古墳を築いた可能性が高い。主体部は、削平されているため不明である。しかし、石室をもつ古墳であれば石材が包含層中などから出土する可能性が高いが確認できていない。他遺跡の例から見て木棺直葬であったと考えられる。

韓式土器を供献する小規模な方墳からなる群集墳は、平野部の城山遺跡でも検出されているが、今 回検出したものと周溝を共有あるいは切合いしない点や中期後半に限られるなどの点で異なる。

河内では現在ほとんど類例のない古墳群の形態である。今後、古墳の築造時期・順序を明らかにしたうえで、被葬者の出自や南約200mに所在する古墳時代中期(5世紀前半)の塚山古墳との関係などを検討していく必要がある。

(6) 1号墳の周溝から出土した韓式土器をはじめとする遺物は、5世紀後半に属す量のまとまった良好な一括資料である。特に須恵器は、東大阪市内から出土している中では最も古い時期に属すものの一つである。また、同時に使用された土師器の実態も明らかにすることができた。ウマの上顎骨も出土している。ウマの骨・歯は、今回検出した古墳の各周溝より出土した。鉄滓の出土は小鍛冶を想定させ、被葬者の職掌の一つが馬具の製作などであったことを考えさせる。製塩土器の存在も、以前から指摘されているように馬に関係するものかもしれない。

今回出した資料は小型低方墳の被葬者に対する祭祀に用いられた物の実態を明かにするだけでな く、まだ不明な点の多いこの時期の土器を知るうえに重要である。

この古墳群の被葬者は、以前に指摘したように大和政権に馬に関する職掌(馬の飼育・訓練と馬具の製作など)で仕えた渡来人を始祖にもつ一族であったと考える。

- (7) 奈良時代から平安時代前期の遺構は確認していないが、包含層が存在することから同時代の 集落の存在が周辺に予想される。
- (8)鎌倉時代後期の島畠は、かなり長期にわたって使われたようである。従前は、水はけの悪い平野部で近世に始まるとされているが最近、池島遺跡において中世まで遡ることが明らかにされている。水はけの比較的良いと考えられる段丘先端の当調査地において、何故この耕作形態が行われたか現在のところ明らかでない。この時代の耕作実態がまだ不明な点が多いだけに、今後検討していきたい。
- (9)棚田の造成が中世末期(16世紀後半)に行われ、その後近世(17世紀から18世紀代)に床土を2面積み増していることを確認した。各床土の上面で見られる鋤跡が方向を異にしていることから耕地の形態が時代により変遷したことを示していると考える。

以上のように、今回の調査では予想以上の成果が得られた。今後、問題点を踏まえて周辺地域を含めた研究を進めていけば、河内における弥生時代開始期(狩猟・採集社会から農耕社会の転換期)の実態を明かにするだけでなく、古墳時代や他の時代についても多くの事柄を明かにすることができる。

注

¹⁾ 武末純一「日本の環溝(濠)集落-北部九州の弥生早・前期を中心に一」『環濠集落と農耕社会の形成』九州考古学会・嶺南考古 学会 1998年

²⁾ 東大阪市教育委員会「一わが街再発見-東大阪市の古墳」1996年

図 版

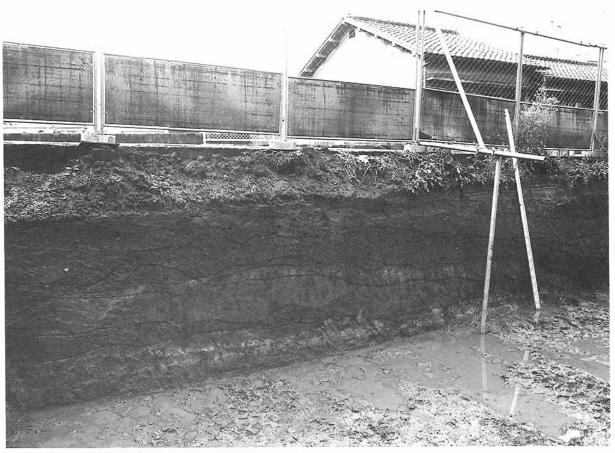


塚山古墳を望む (北より)

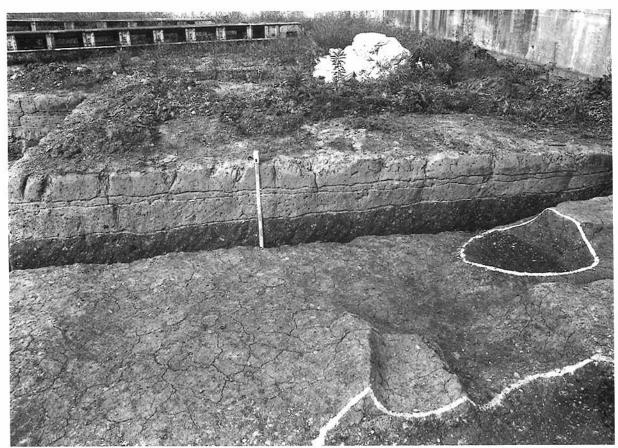




東地区南壁断面(北より)



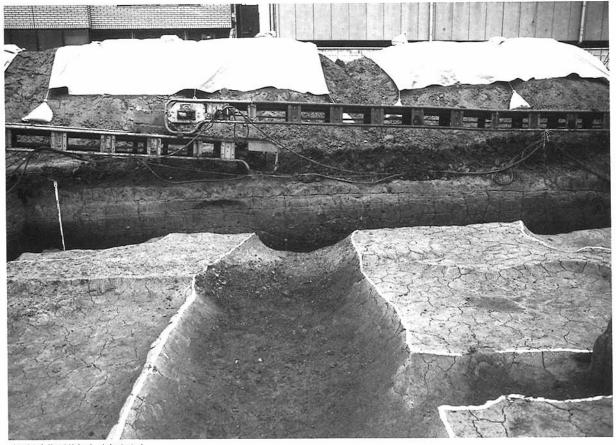
東地区南壁断面(北より)



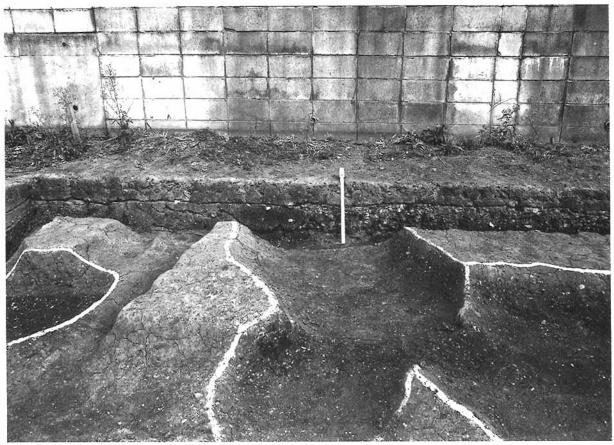
東地区北壁断面 (南より)



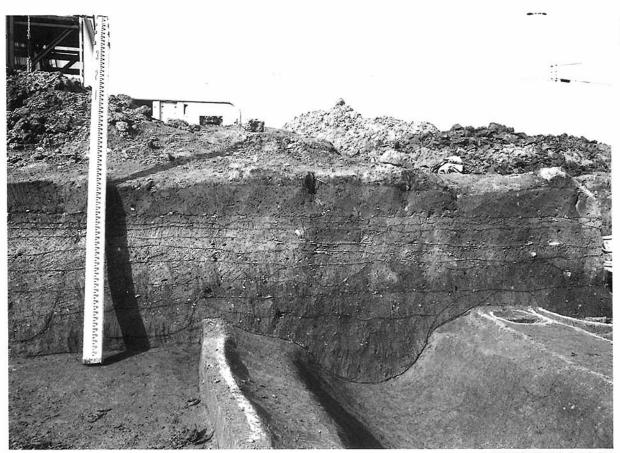
東地区北壁断面 (南より)



東地区北壁断面 (南より)



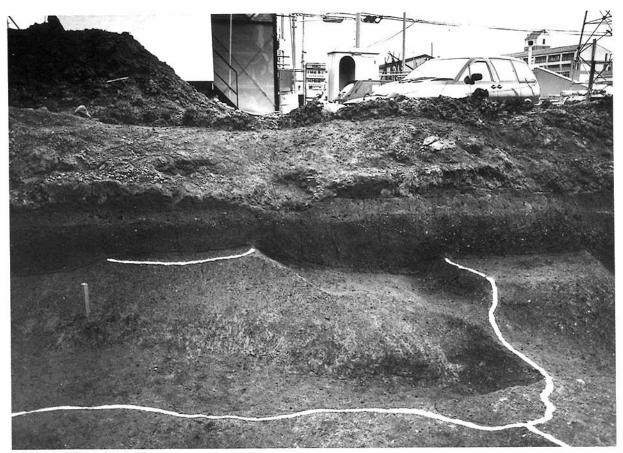
東地区東壁断面 (西より)



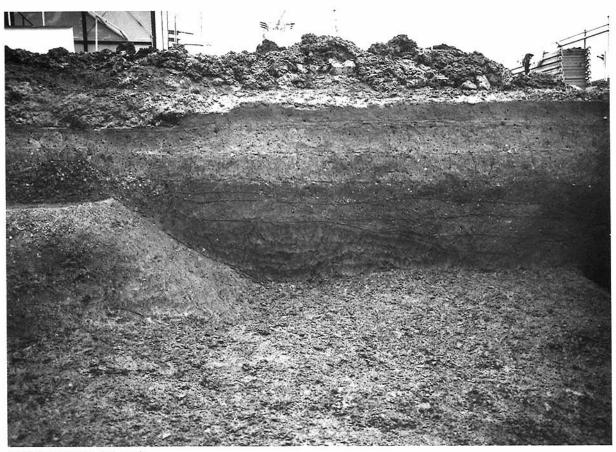
中地区西壁断面 (東より)



西地区西壁断面 (東より)



西地区南壁断面(北より)



西地区南壁断面 (北より)



東地区弥生・古墳時代検出遺構全景(西より)



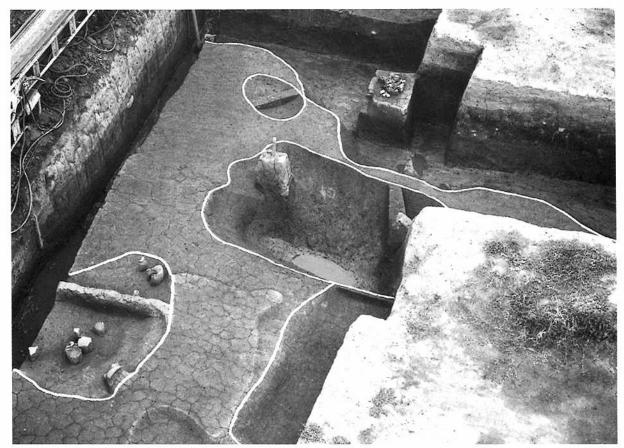
東地区弥生時代遺構検出状況 (西より)



東地区弥生時代遺構検出状況 (西より)



東地区弥生時代遺構検出状況 (西より)



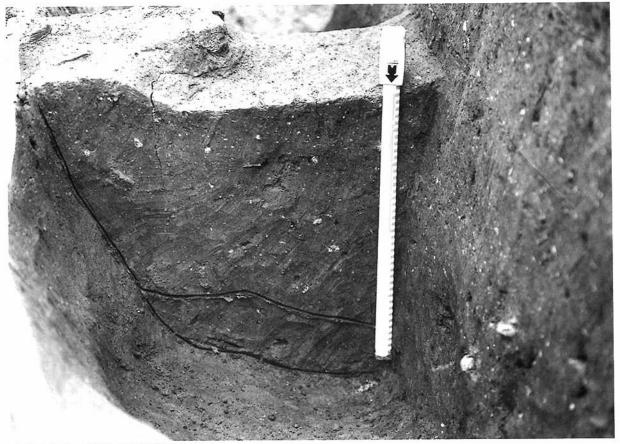
東地区弥生時代遺構検出状況(西より)



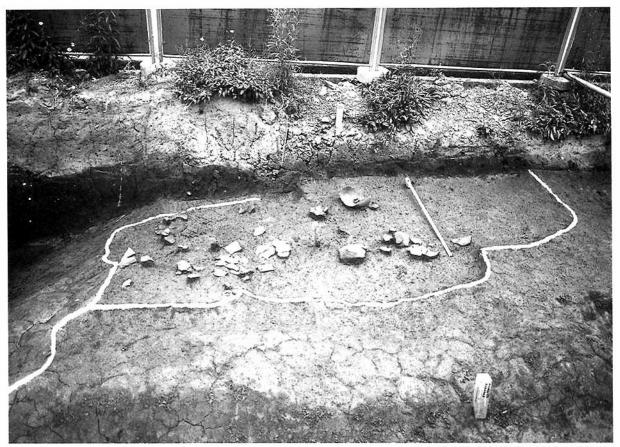
中地区弥生時代遺構(竪穴住居1)検出状況(北より)



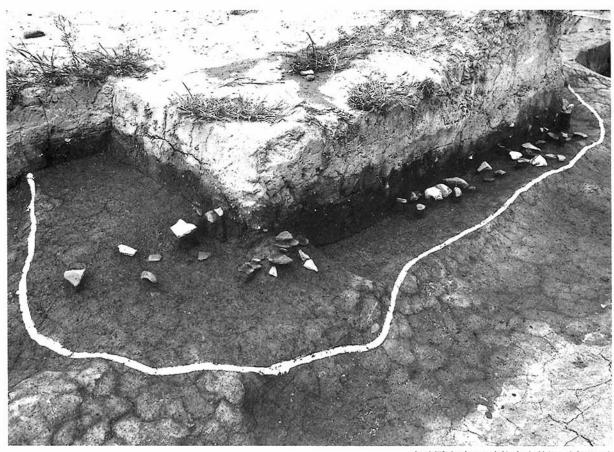
中地区土壙410検出状況(南より)



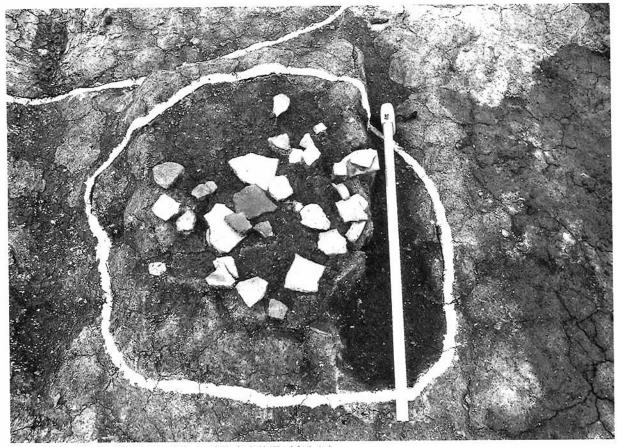
中地区土壙410堆積土検出状況(西より)



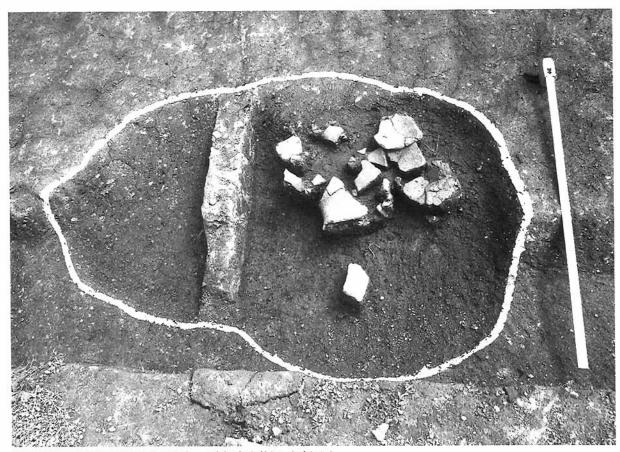
東地区土壙502遺物出土状況(北より)



東地区土壙503遺物出土状況(南より)



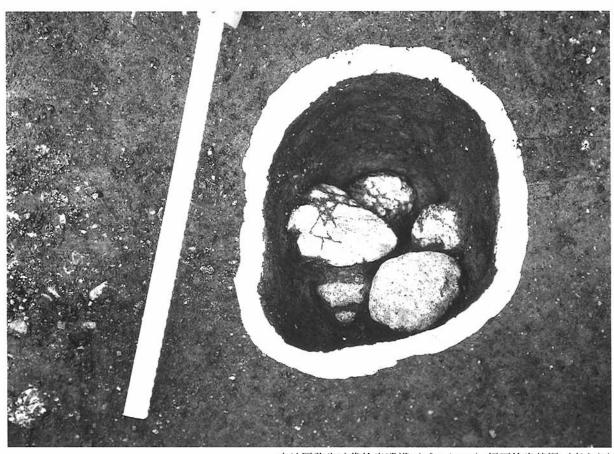
東地区弥生時代検出遺構(土壙3) 遺物出土状況(南より)



東地区弥生時代検出遺構 (土壙2) 遺物出土状況 (西より)



東地区弥生時代検出遺構(土壙234)遺物出土状況(東より)



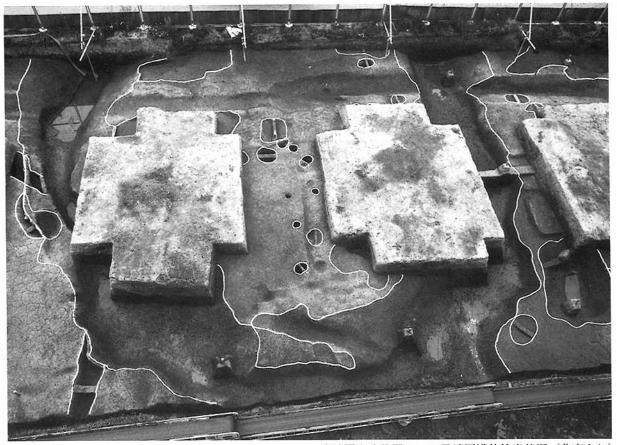
中地区弥生時代検出遺構 (ピット440) 根石検出状況 (南より)



東地区1号墳周溝他検出状況(西より)



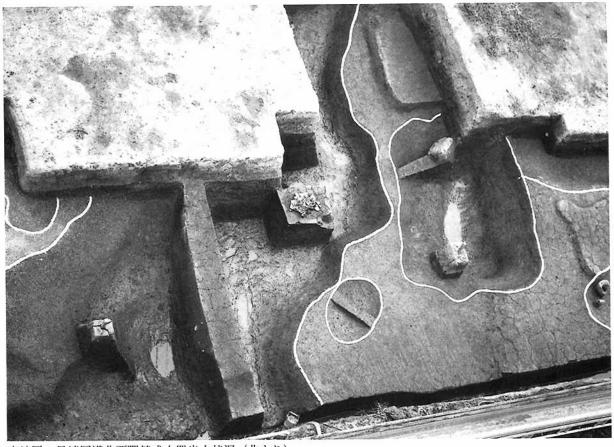
東地区溝・1号墳周溝他検出状況(北西より)



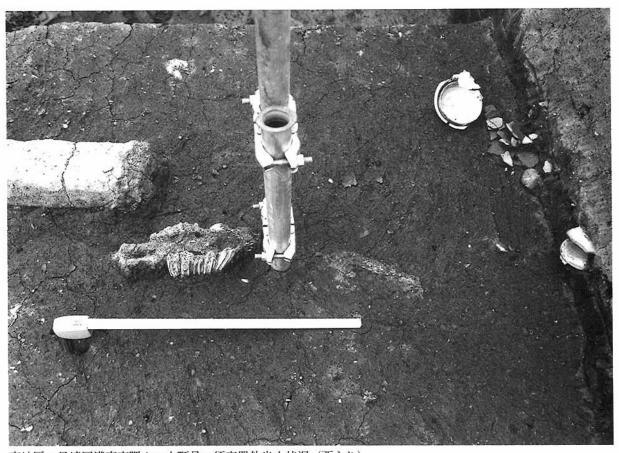
東地区竪穴住居 2 · 1 号墳周溝他検出状況 (北東より)



東地区1号墳周溝北東隅韓式土器出土状況 (北西より)



東地区1号墳周溝北西隅韓式土器出土状況(北より)



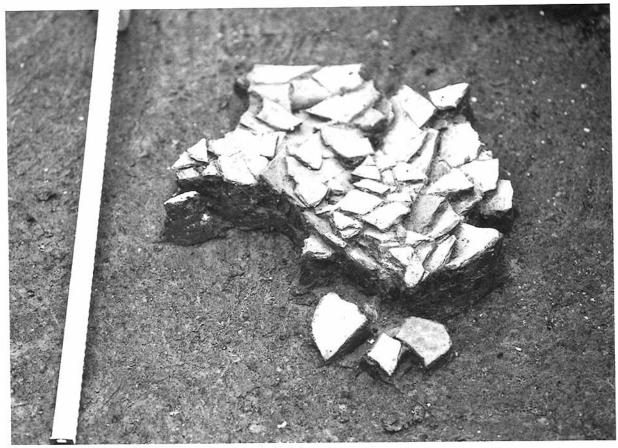
東地区1号墳周溝南東隅ウマ上顎骨・須恵器他出土状況(西より)



東地区 1 号墳周溝南東隅須恵器・土師器出土状況(東より)



東地区1号墳周溝北東隅韓式土器甕出土状況(南より)



東地区1号墳周溝北西隅韓式土器甕出土状況 (西より)



東地区1号墳周溝弥生時代前期土器出土状況(東より)



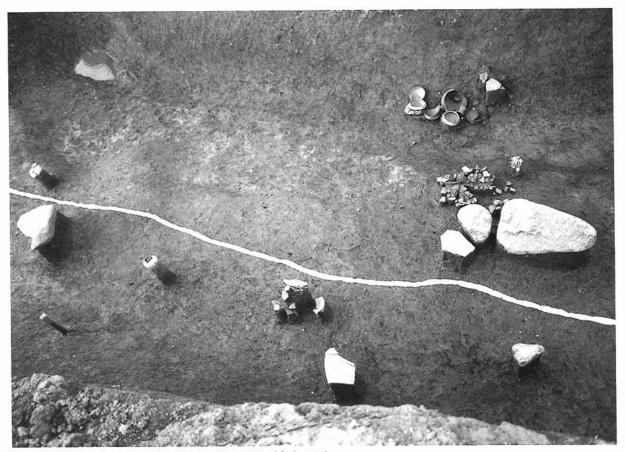
東地区南壁1号墳東側周溝堆積土検出状況 (西より)



東地区1号墳東側周溝堆積土検出状況(南より)



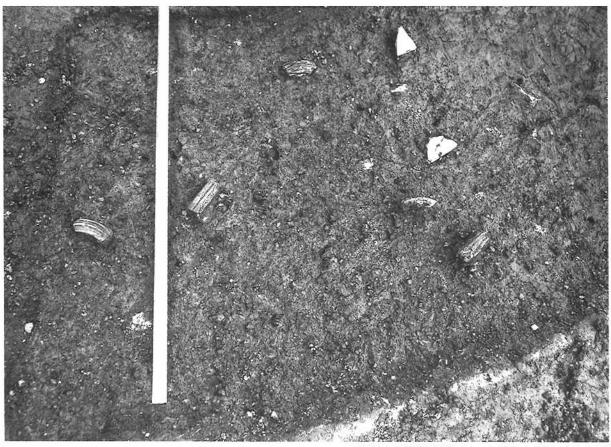
中・西地区3・5・6号墳周溝検出状況(東より)



中・西地区 5 ・ 6 号墳周溝内供献土器出土状況(南東より)



西地区 5 号墳周溝内供献土器出土状況 (西より)



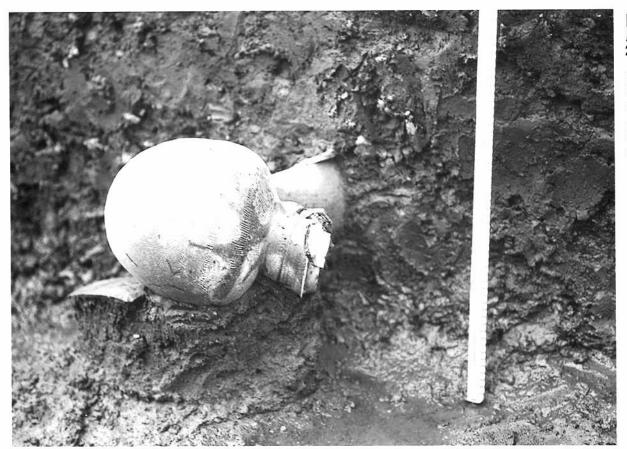
西地区5号墳周溝内ウマの歯出土状況(南より)



東地区西壁 3 · 4号墳周溝堆積土検出状況(東より)



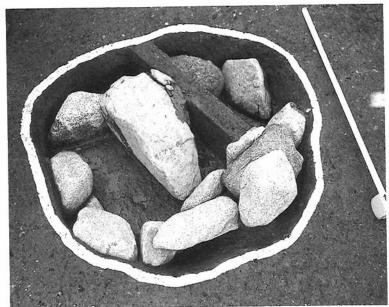
東地区 4 号墳北側周溝堆積土検出状況 (西より)



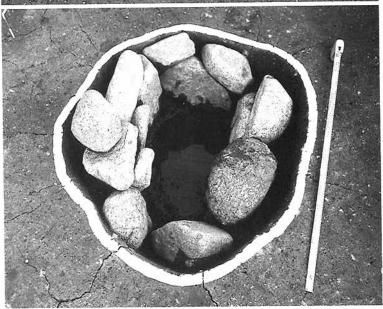
西地区落ち込み内供献須恵器壺出土状況(南より))



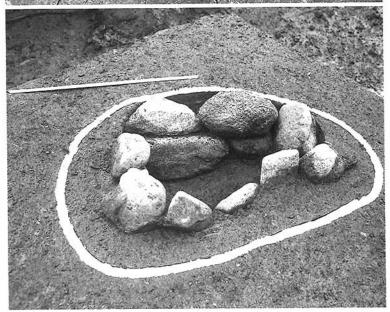
西地区落ち込み内供献須恵器甕出土状況 (西より)



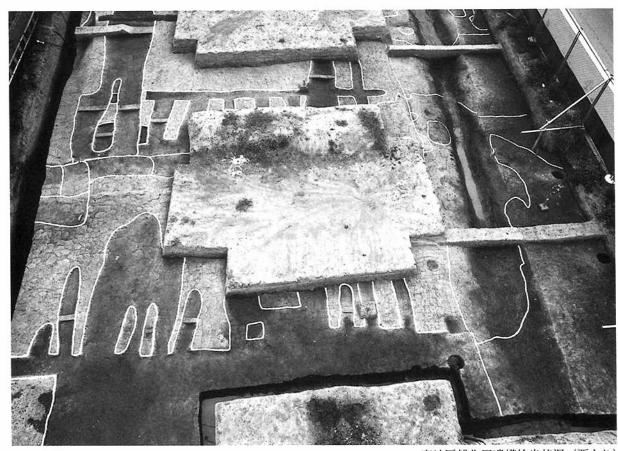
西地区小石室天井石落下状況 (東より)



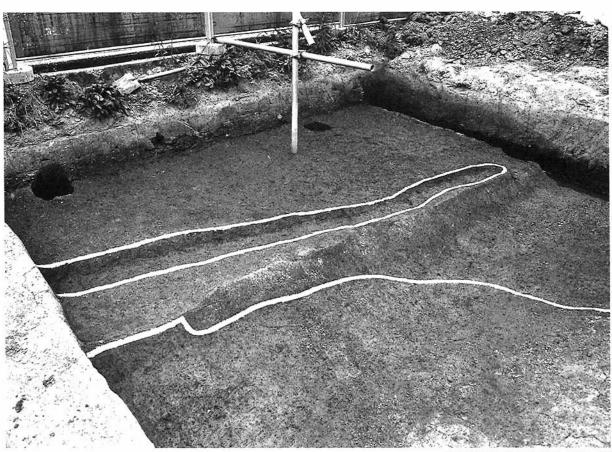
西地区小石室検出状況 (西より)



西地区小石室検出状況 (西より)



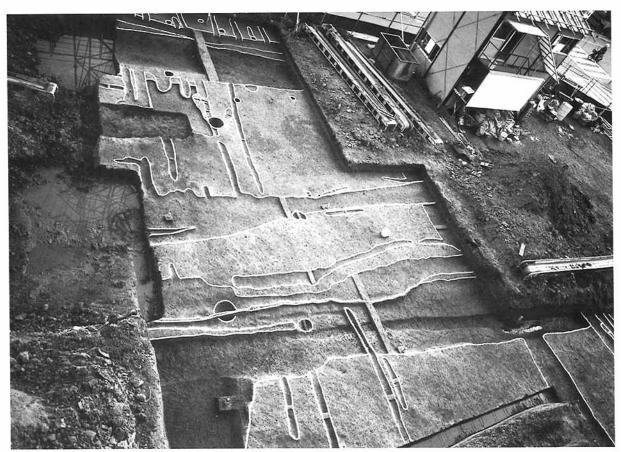
東地区耕作用遺構検出状況 (西より)



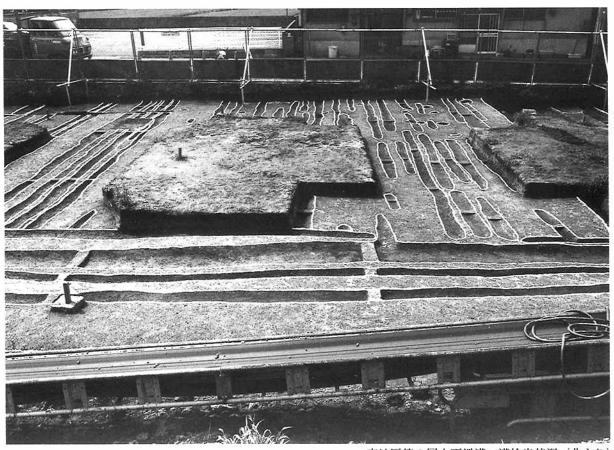
東地区溝459検出状況(北より)



東地区溝334検出状況(西より)



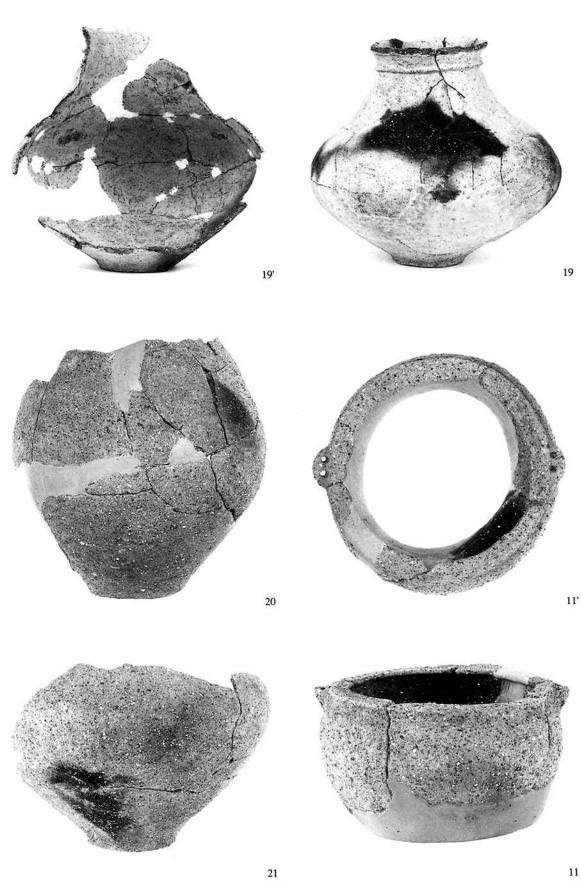
東地区第4層上面遺構検出状況(北より)



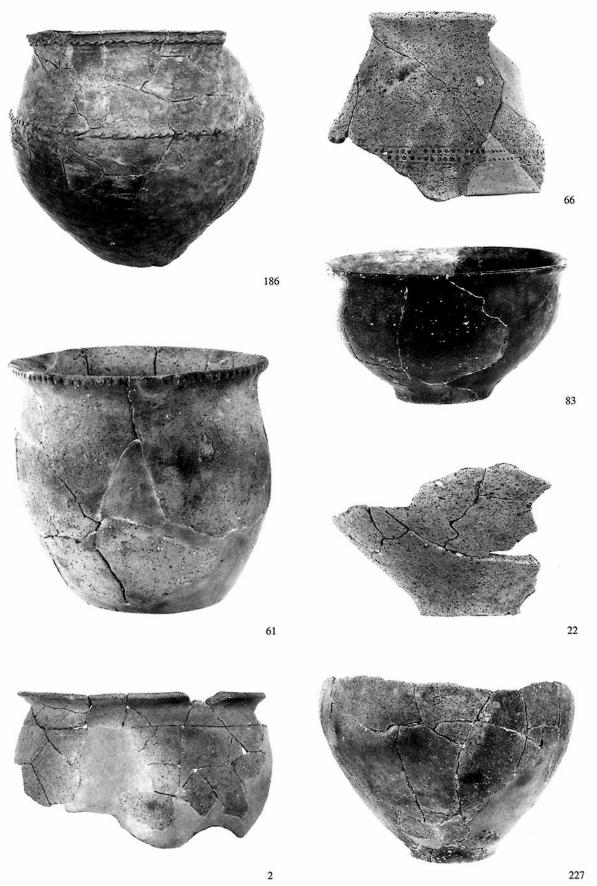
東地区第3層上面鋤溝・溝検出状況(北より)



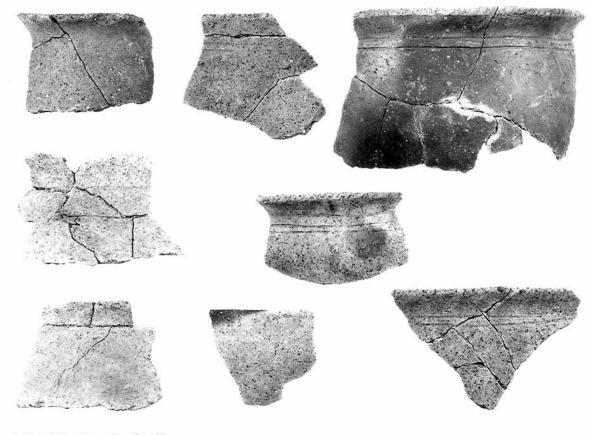
東地区水路2検出状況(北より)



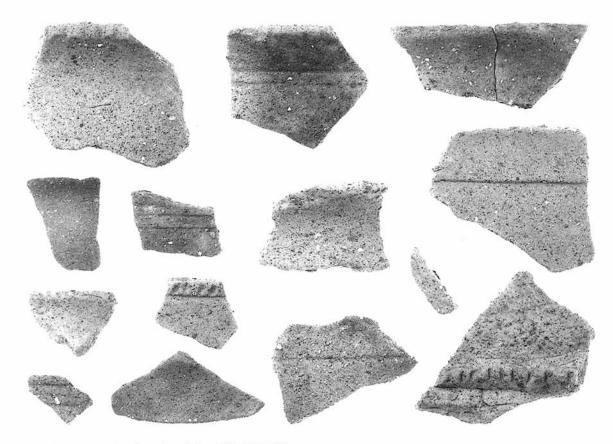
土壙1出土土器 壺・鉢



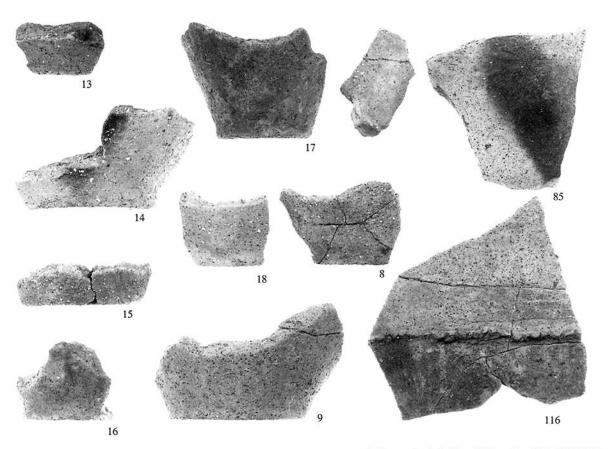
土壙1・504, 溝812, ピット218, 包含層出土土器 ・壺・甕・鉢・縄文土器深鉢



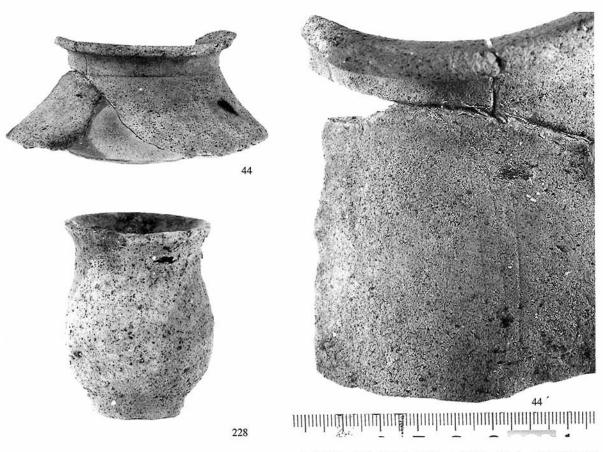
土壙1出土土器 壺・甕・鉢



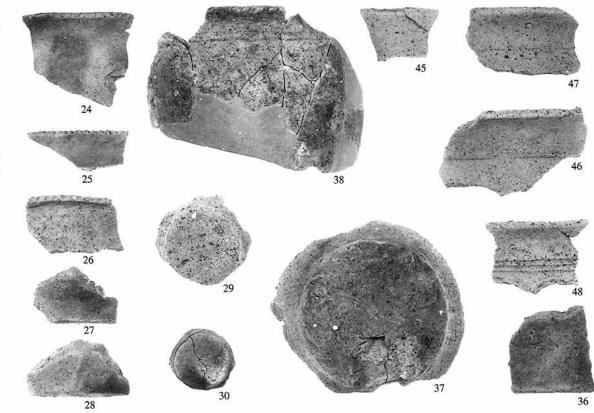
土壙1出土土器 壺・甕・鉢・甕蓋・縄文土器深鉢



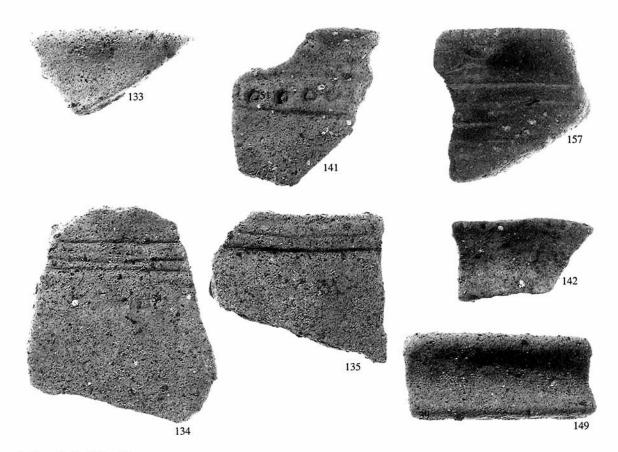
土壙 1 出土土器 底部・壺・縄文土器深鉢



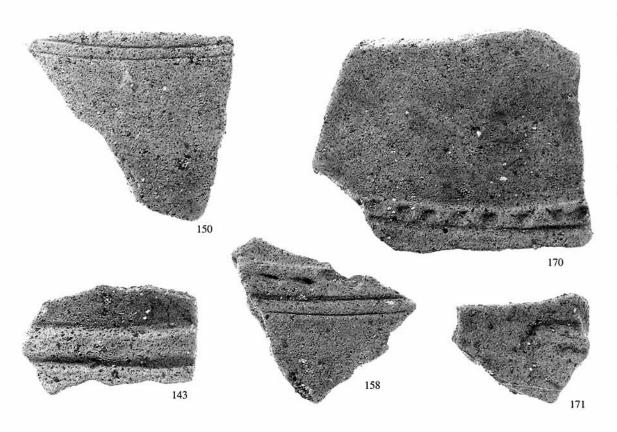
土壙234・包含層出土土器 小型壺・壺 (ヘラ描き沈線)



土壙234出土土器 壺・甕・底部

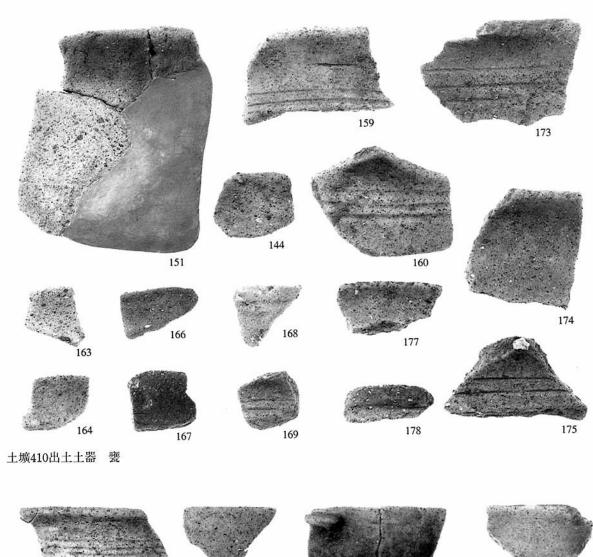


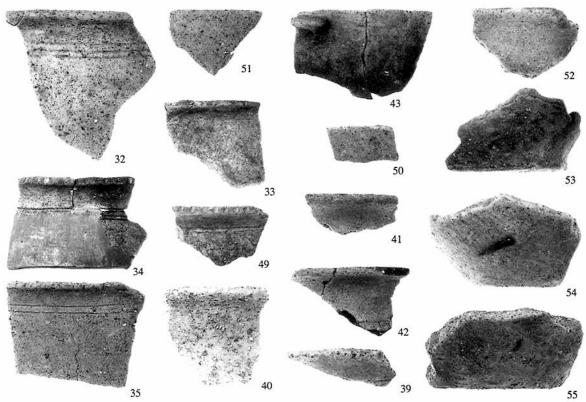
土壙234出土土器 甕



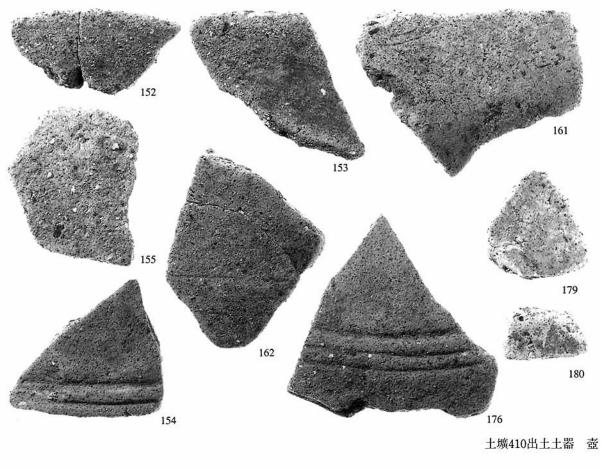
土壙234出土土器 壺

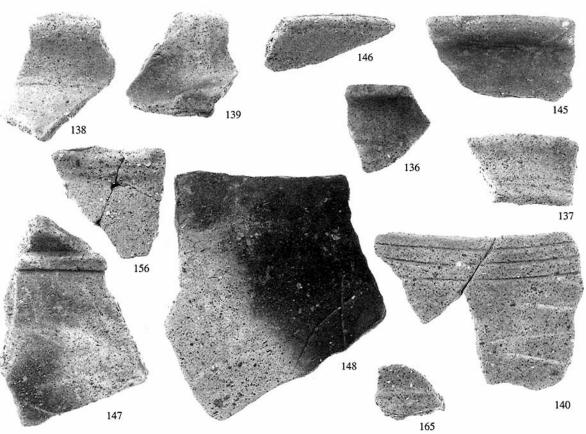




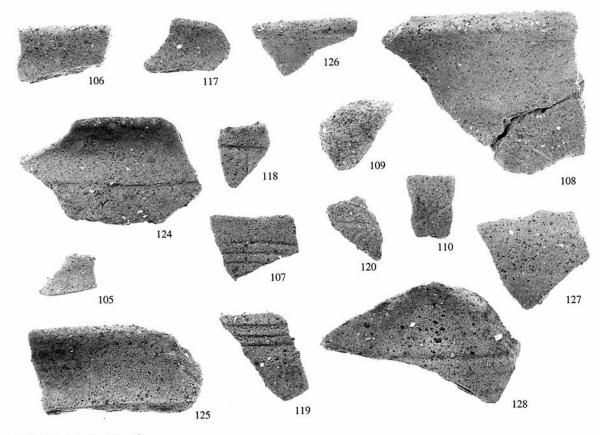


土壙410・517出土土器 壺・甕・鉢・底部

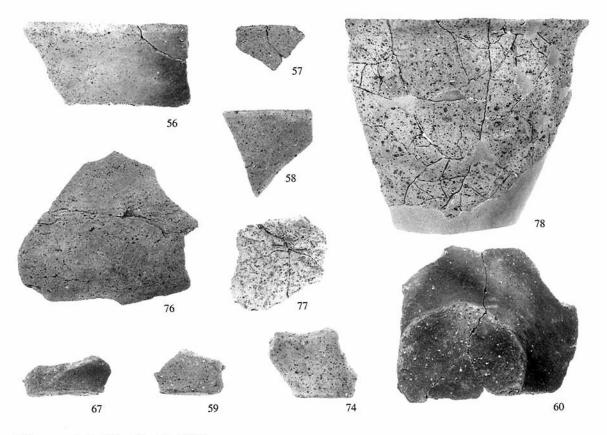




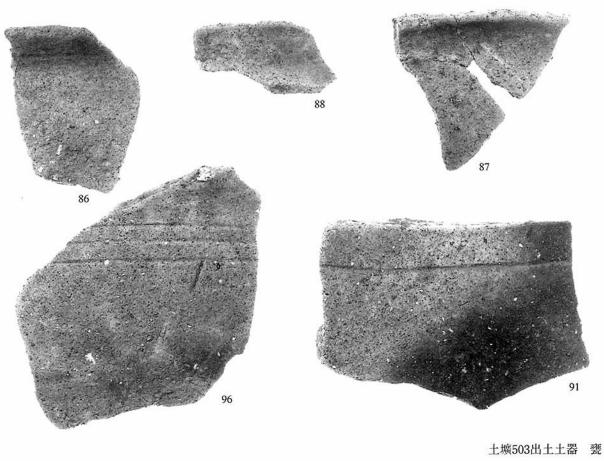
土壙517出土土器 壺・甕

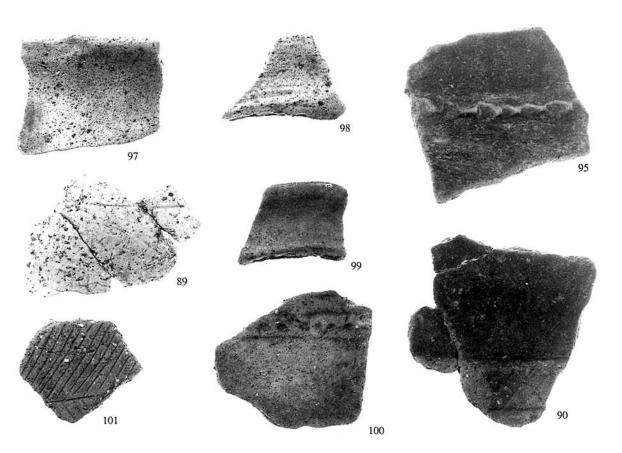


土壙2出土土器 壺・甕

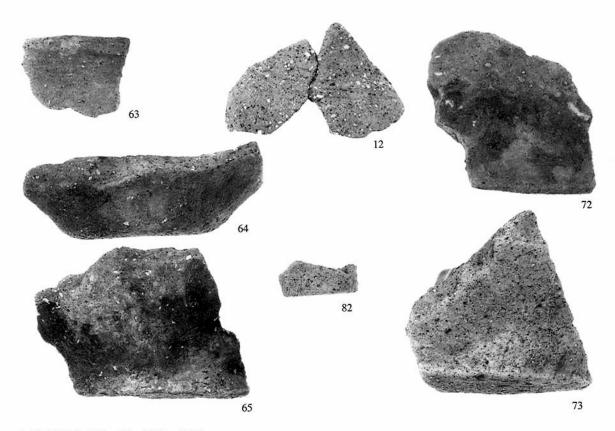


土壙 2 · 3 出土土器 壺·甕·底部

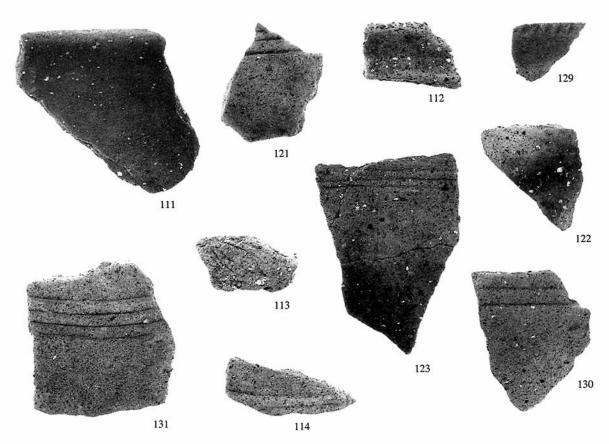




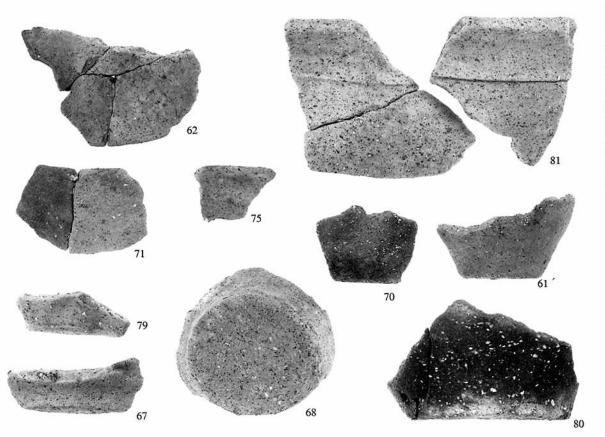
土壙503出土土器 甕・壺・縄文土器



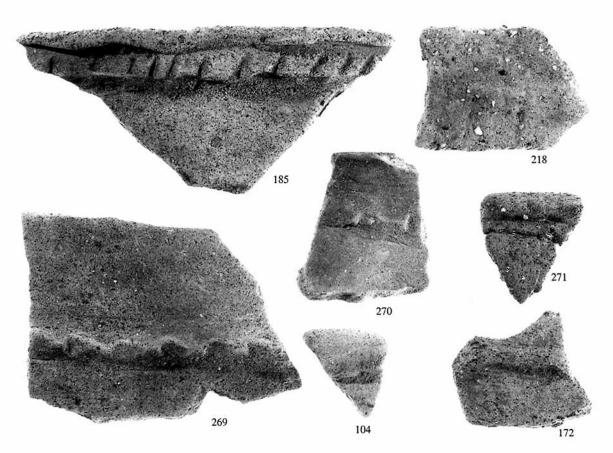
土壙503出土土器 壺・甕蓋・底部



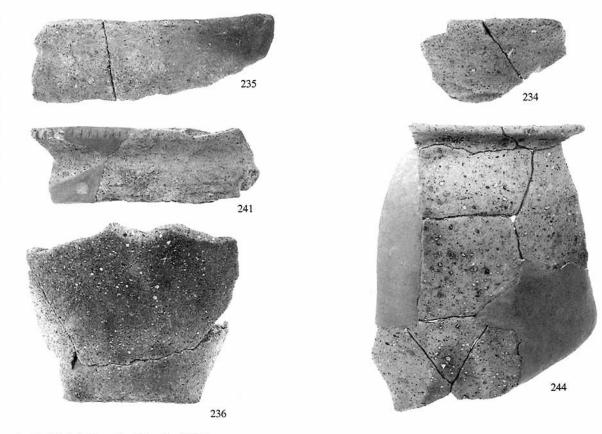
土壙503出土土器 甕・壺



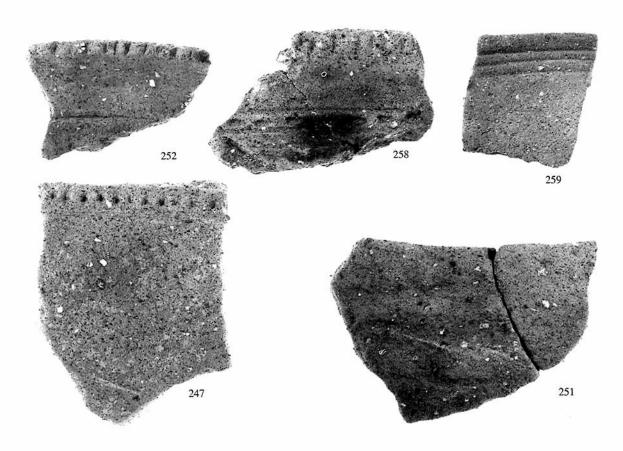
土壙504・包含層出土土器 壺・甕蓋・鉢・底部



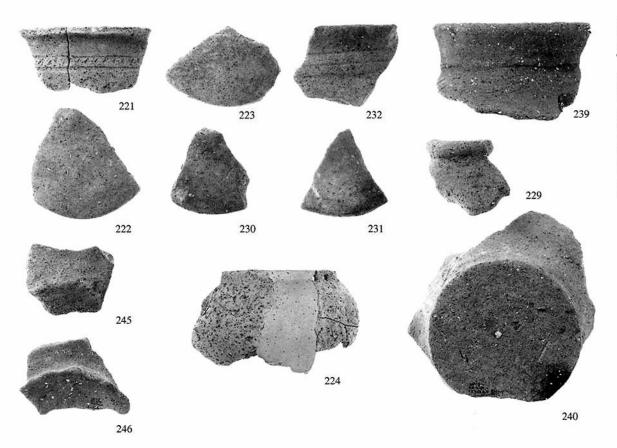
土壙504·507·368, 溝812, 包含層出土土器 縄文土器深鉢



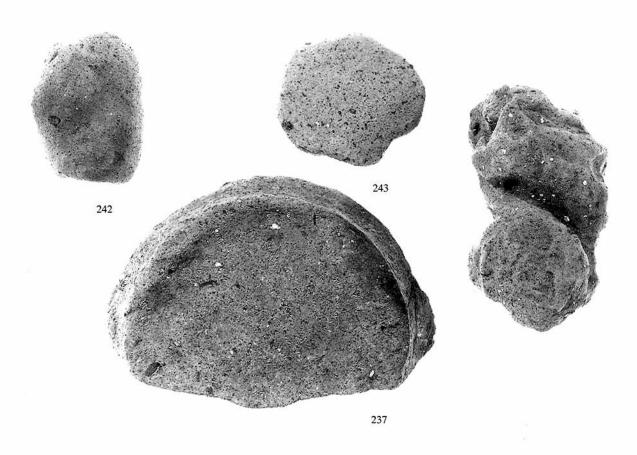
包含層出土土器 壺・甕・鉢・底部



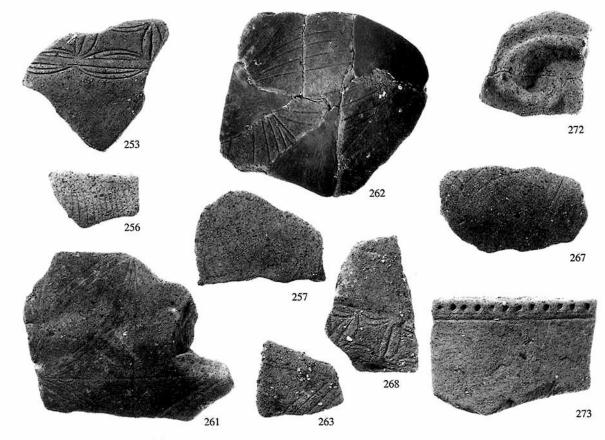
包含層出土土器 甕・鉢・縄文土器深鉢



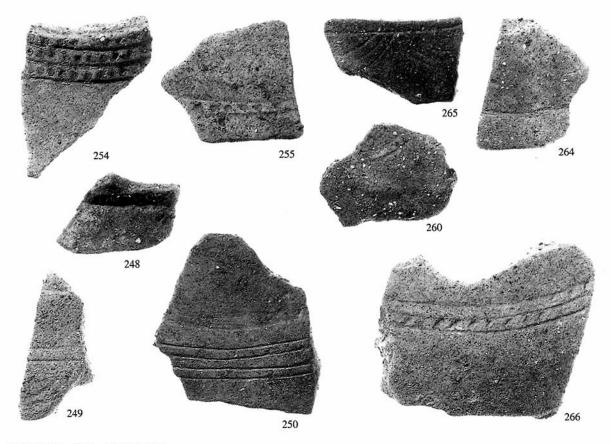
包含層出土土器 壺・甕・壺蓋・甕蓋・モミ痕跡が残る底部



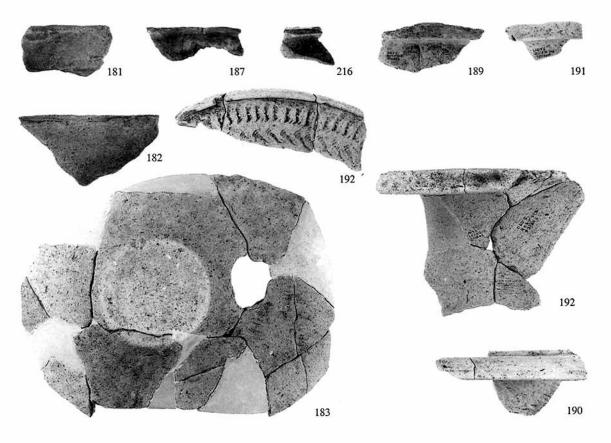
包含層出土土器 土錘・土製円板・モミ痕跡が残る底部・粘土板状土製品



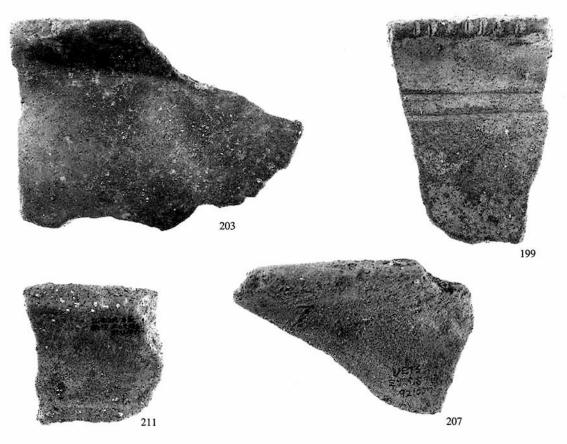
包含層出土土器 壺体部文様



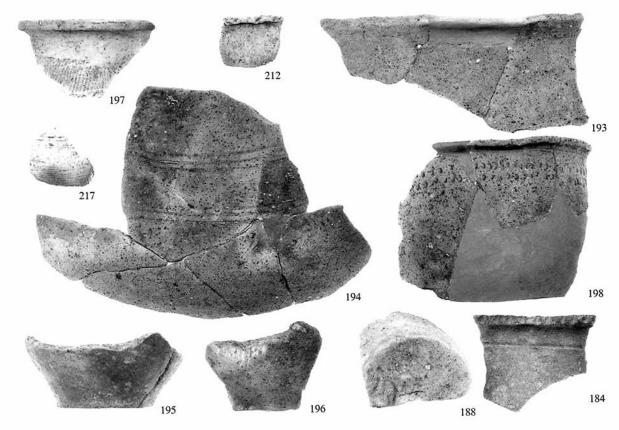
包含層出土土器 壺体部文様



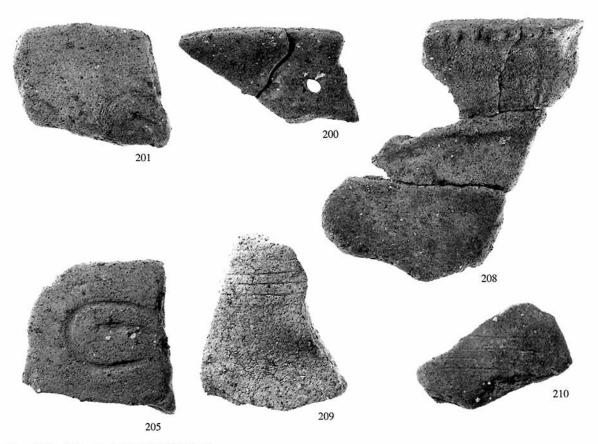
土壙518出土土器 壺・甕・高杯・底部



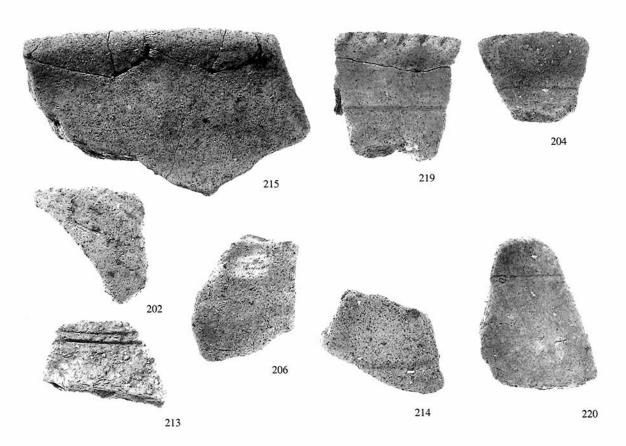
土壙518出土土器 混入弥生時代前期土器



出土土器 壺・甕・底部



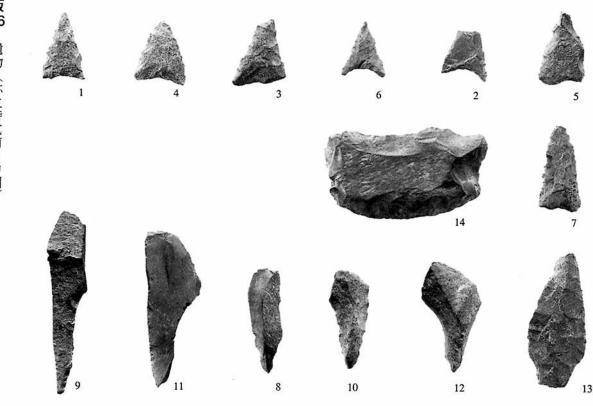
溝505出土土器 混入弥生時代前期土器



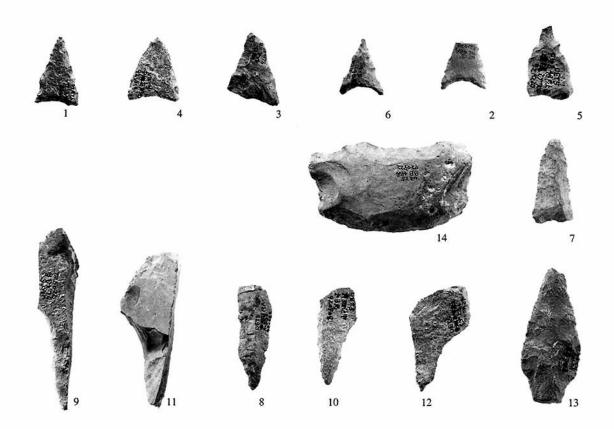
溝812出土土器 壺・甕



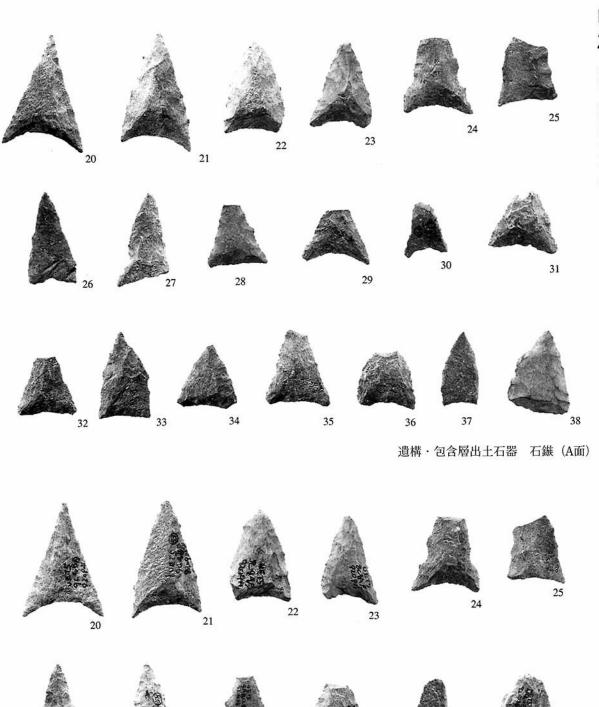
包含層出土土器 弥生土器



遺構・包含層出土石器 石鏃・石錐・石匙 (A面)



遺構・包含層出土石器 石鏃・石錐・石匙 (B面)

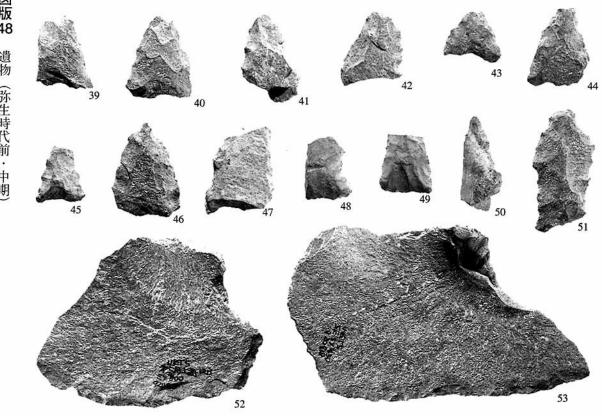


35

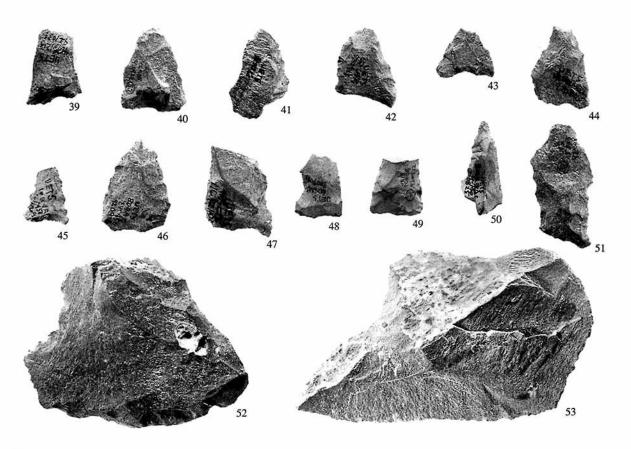
33

32

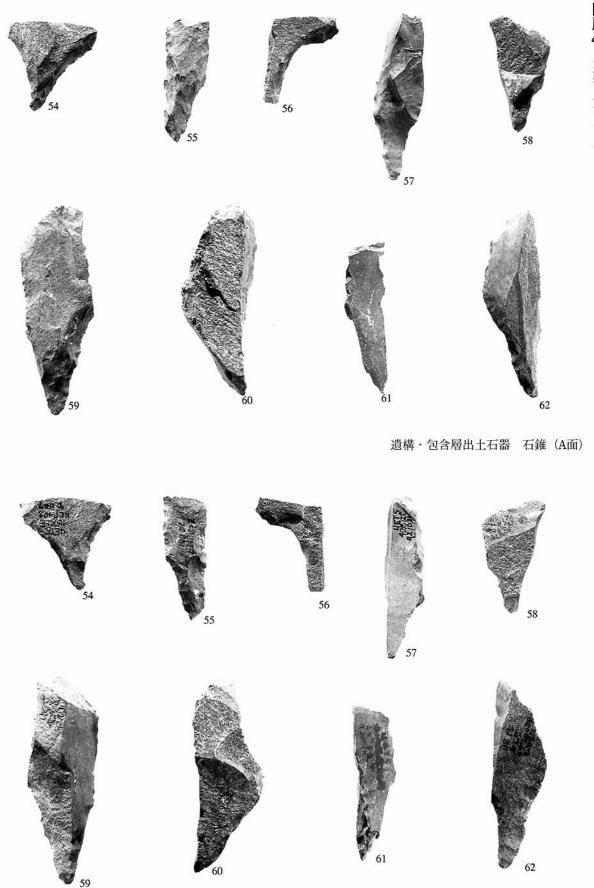
36 37 38 遺構・包含層出土石器 石鏃 (B面)



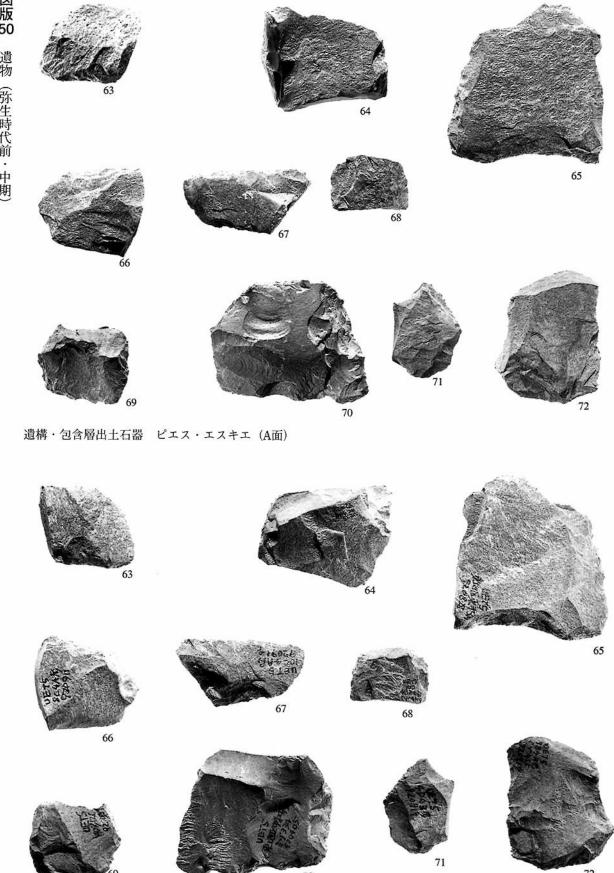
遺構・包含層出土石器 石鏃・削器 (A面)



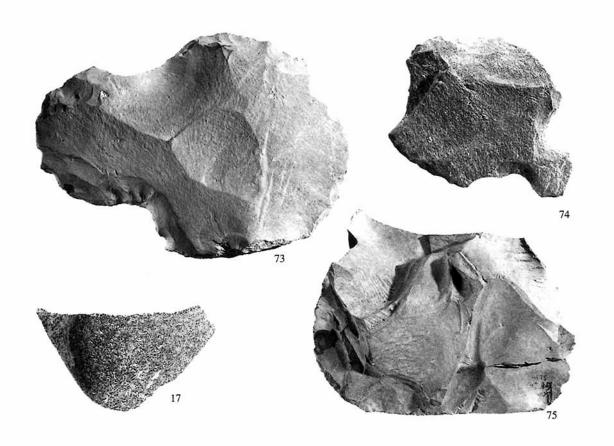
遺構・包含層出土石器 石鏃・削器 (B面)



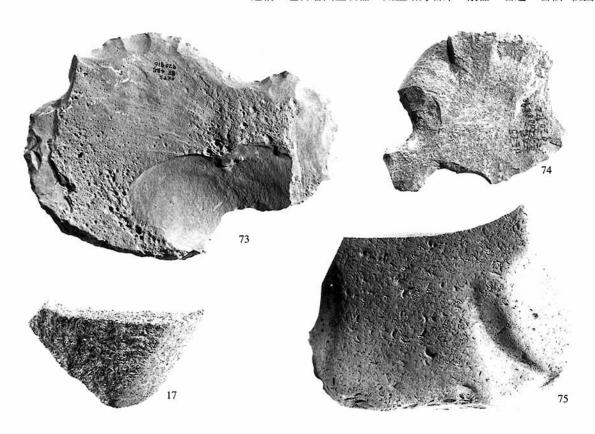
遺構・包含層出土石器 石錐 (B面)



遺構・包含層出土石器 ピエス・エスキエ (B面)



遺構・包含層出土石器 太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核 (A面)

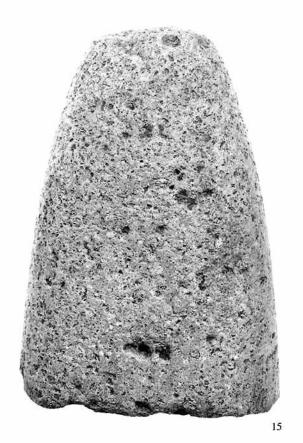


遺構・包含層出土石器 太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核 (B面)



遺構・包含層出土石器 太型蛤刃石斧・砥石 (A面)









16





285







310

1号墳出土土器 土師器甕・須恵器杯蓋・韓式土器甕



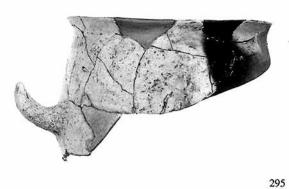
1号墳出土土器 土師器高杯·甕





296





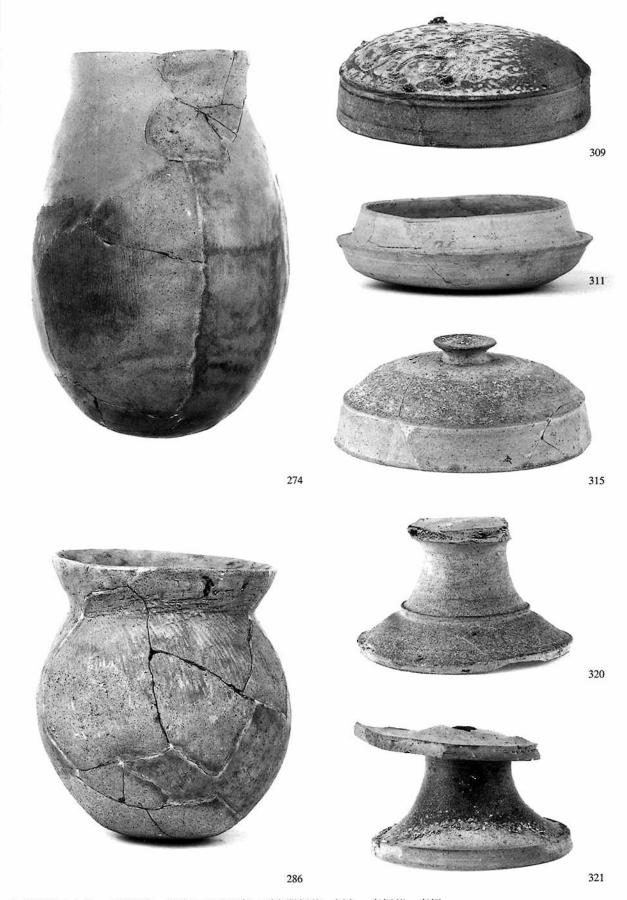
293



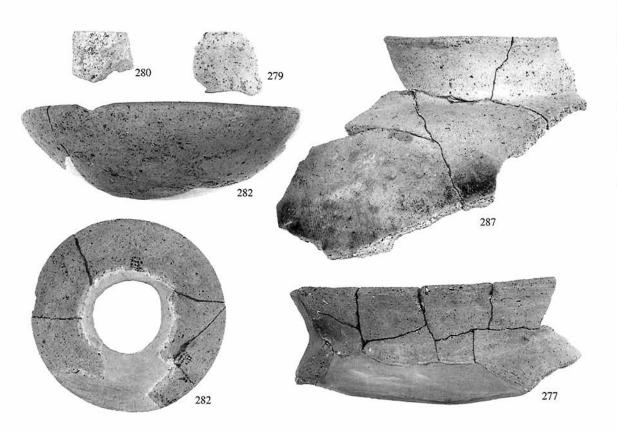


1号墳出土土器 韓式土器甕・甑・鍋, 土師器甑

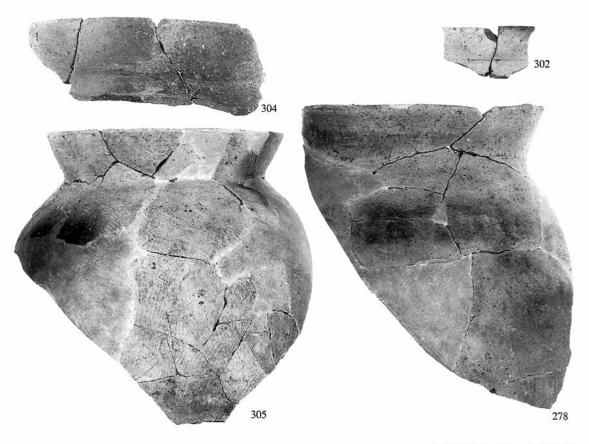
303



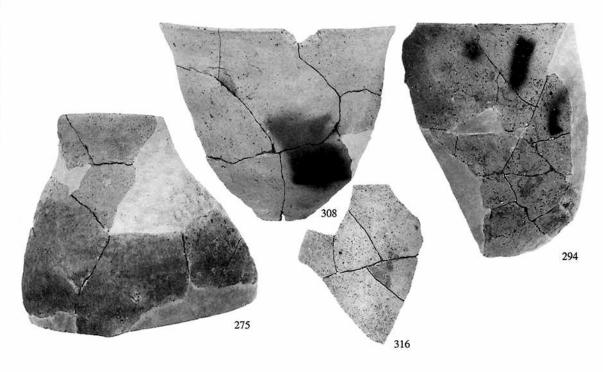
1号墳出土土器 土師器甕・韓式土器長胴甕・須恵器杯蓋・杯身・高杯蓋・高杯



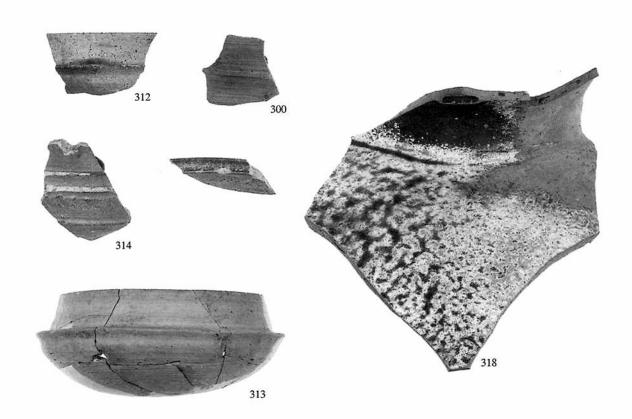
1号墳出土土器 土師器甕・高杯・製塩土器



1号墳出土土器 土師器甕·壺



1号墳出土土器 土師器甕·甑

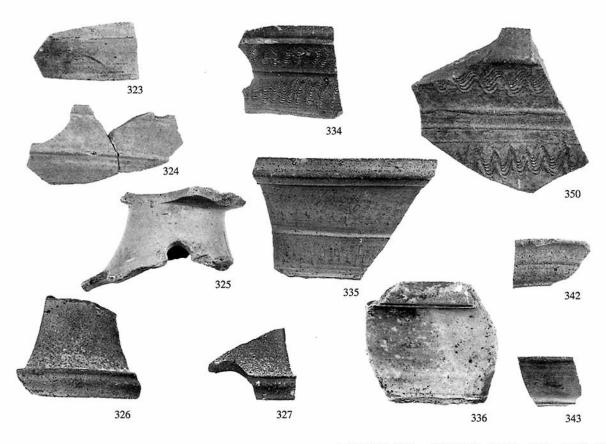


1号墳出土土器 須恵器椀・甕・杯身・高杯・腿

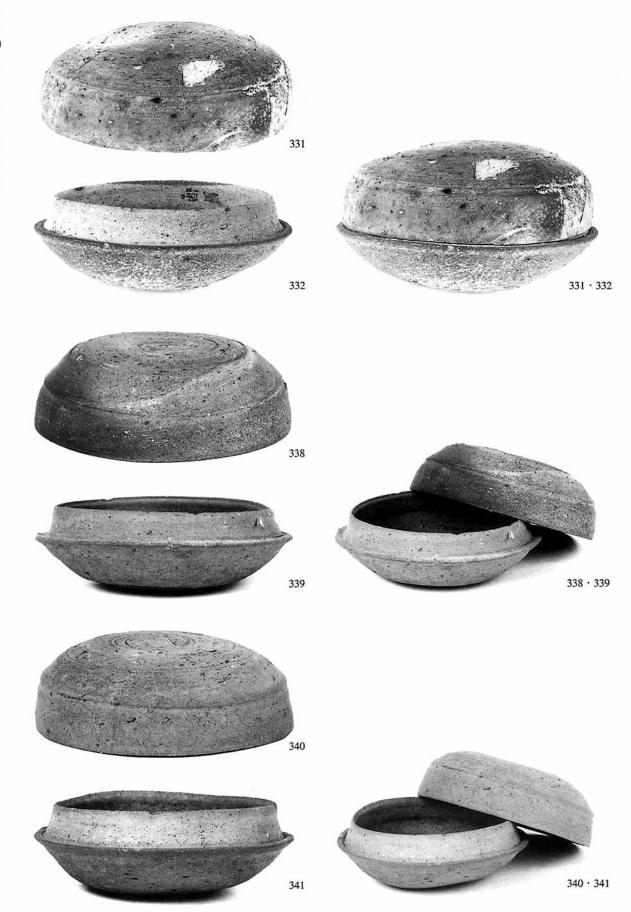




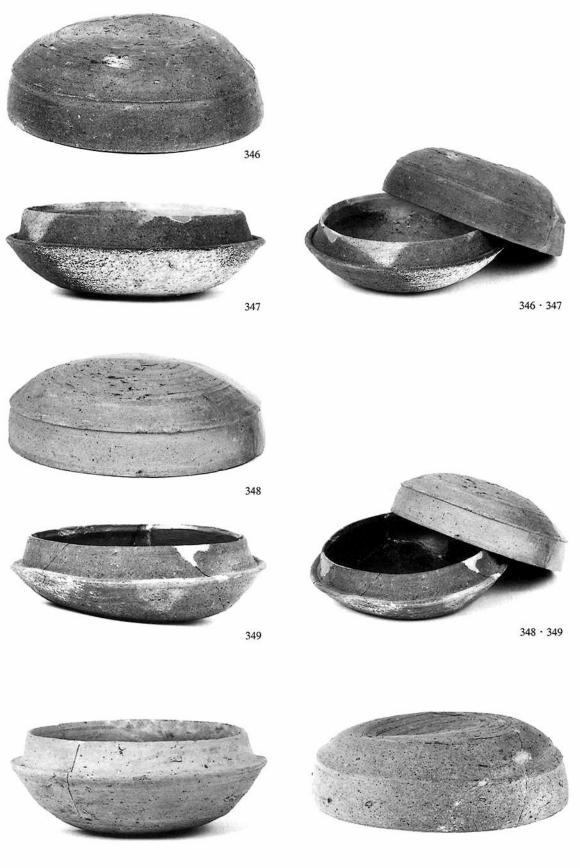
1号墳出土遺物 鉄製品·鉄鏃



5号墳出土遺物 須恵器甕·高杯·杯身·杯蓋·

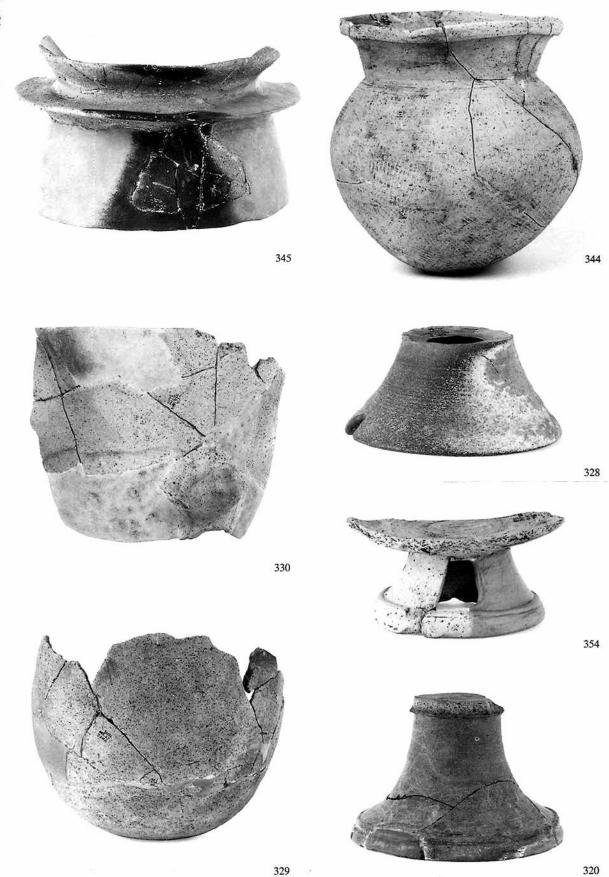


5号墳出土器 須恵器杯身・杯蓋

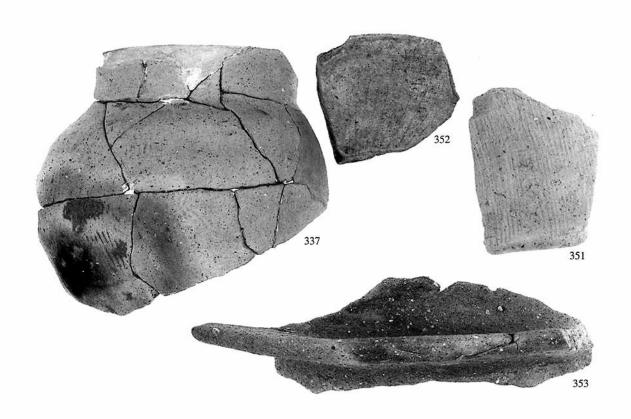


333

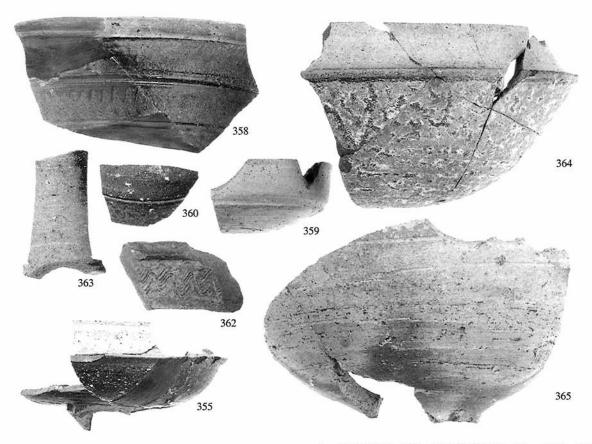
322



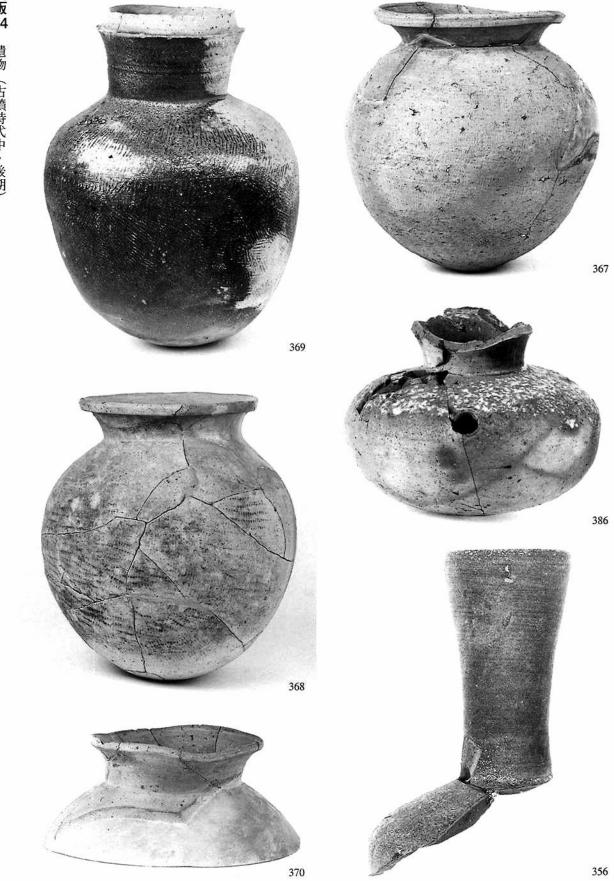
5号墳出土土器 土師器甕・羽釜・甑・須恵器壺・高杯



4 · 5 · 6 号墳出土土器 土師器甕 · 羽釜 · 杯 · 円筒埴輪



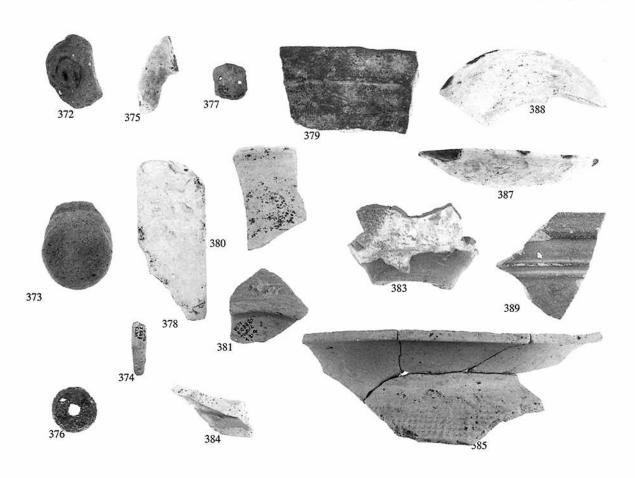
4 · 6 号墳出土土器 須恵器脚付壺·甕·高杯·杯蓋

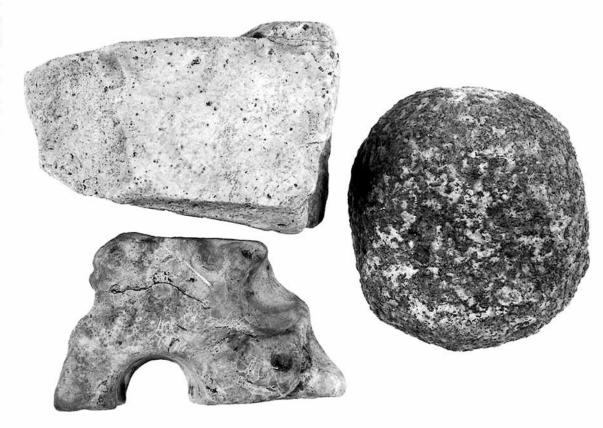


6号墳·傾斜地·溝512出土土器 須恵器壺·長頚壺・甕・腿

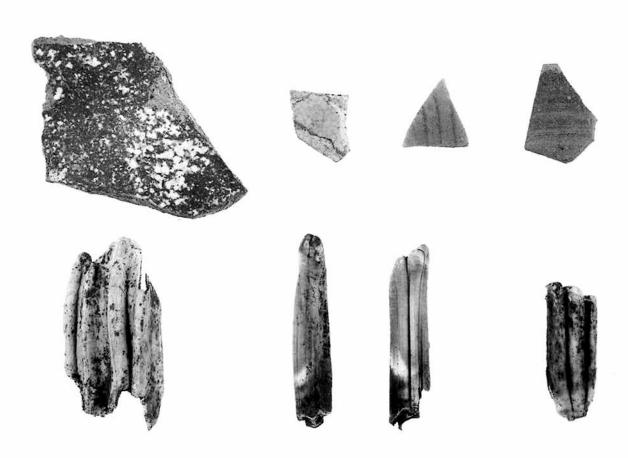


6号墳・傾斜地・包含層など出土土器 須恵器杯身・高杯・平瓶・甅





4号墳周溝・包含層出土遺物 砥石・加工痕のある石材



4 · 5 号墳周溝・包含層出土遺物 国産陶器 (緑釉・備前) · 中国製磁器 (青磁) · ウマの歯

報告書抄録

ふりがな	うえつけいせきだい じはっくつちょうさほうこく						
2. 9 % &							
書名	植附遺跡第5次発掘調査報告						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者名	福永信雄						
編集機関	財団法人東大阪市文化財協会						
所 在 地	〒577-0843 東大阪市荒川 3 丁目28-21						
発行年月日所	1999年 3 月31日						
が収遺跡名	が が な 所 在 地		市町コー	村ド	調査期間	調査面積	調査原因
植附遺跡	かいしおおさかしなかいしき東大阪市中石	りちょう ちょうめ 切町3丁目	27227		1992年 8 月 5 E ~11月16 E	1 5/1 m	共同住宅 建設工事
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事	事項
集落・古墳	弥生時代前期 古墳時代中~ 後期 飛鳥時代 鎌倉時代	竪穴住居・土墳 小型低方墳 小石室		弥生土器・石器・ 須恵器・土師器・ 韓式土器・製塩 土器		弥生時代前期初頭の 竪穴住居などの遺構・ 遺物 古墳時代中期後 半から飛鳥時代にかけ ての小型低方墳と供献 遺物	

植附遺跡第5次発掘調査報告書

1999年3月31日

発行所 財団法人 東大阪文化財協会 印刷所 大 日 印 刷 株 式 会 社